

福島市民憲章作文コンクール

作品集の発刊に寄せて

今年度で十二回目を数えました「福島市民憲章作文コンクール」には、私立中学校を含む市内十八校の中学一年生百二十八名から応募をいただきました。

昨年に比べ、応募数が学校数で四校、応募者数で十九名増加しており、市民憲章を一人でも多くの市民の皆様方にご理解いただき、市民憲章の精神が日常生活やまちづくりに活かされるよう、その普及啓発に努めるという本コンクールの目的が、着実に実を結んでいるものと確信しております。

さて、応募のありました作品を読ませていただきましたところ、市民憲章の「空も水もきれいなまじりのまちをつくりましょう」「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」を題材とした作品が多く、福島の復興を願う想いと市民憲章とを重ね合わせる作品などもありました。福島市の自然を守り未来につなげていきたいという想い、学校生活や家族との時間・地域の方々との交流を通して感じたやさしさや愛情から生まれた想い、福島市の復興を強く願う気持ちから生まれた想いなど、いずれも中学生ならではの若々しい感性、豊かな感受性から生まれたことを感じとることができ、また、本コンクー

ルを契機として、日常生活の中で「気づいたこと」「自分で考えたこと」を明確にして行動しようとする前向きな姿勢も読み取ることができました。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年四月に制定されました。これからも、市民憲章の価値を一人でも多くの市民の皆様にお伝えし、「住んで良かったと、心から思える福島市」になりますよう普及啓発に努めてまいりますので、皆様もぜひ市民憲章を日常生活に生かしていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたってくださった先生方はじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

平成二十九年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

ふるさととともに、

誇りをもって

これまで最多であった昨年度の応募作品を大きく上回る一二八点もの作品が、私立中学校も含めた市内中学一八校から寄せられました。作品を応募してくれた皆さんと指導にあたられた方々に感謝申し上げます。

心を打つ、印象に残る文章には不思議なことに必ずキーワードが出てきます。応募された作品からそれらの一部を列挙してみると、応募作品の傾向が分かります。

「温泉」「田んぼ」「畑」「小川」「桃」「りんご」「梨」「きゅうり」「荒川」「松川」「阿武隈川」「祓川」「花見山」「信夫山」「吾妻山」「ホテル」「アメンボ」「オニヤンマ」「桜」「東日本大震災」「原発事故」「避難」「転校」「断水」「ボランティア活動」「地下歩道清掃」「クリーンアップ作戦」「地域交流活動」「宿泊学習」「祭」「見守り会」「公園」「公共施設」「検診」「信号」「街灯」「お年寄り」「父」「母」「祖父母」「家族」「あいさつ」「親切」「笑顔」

応募してくれた皆さんは、これまでの生活を振り返り、その中で自分なりの具体化した言葉を発見してくれました。それは市民憲章をより具体化し市民憲章の精神をしつかりと理解する行為でもありました。さらに、部分的に印象に残った章句がありました。

「うらやましくなるほどみんな強かった」

「優しさを生みだすのは優しさです」

「子供の方から変われば良いのではないか」

一部を抜き出したにもかかわらず、様々な思いを巡らすことができる章句を中学生が編み出しています。大人たちが忘れかけていることにも気づかされます。

震災や原発事故で多くのものを失い傷つき困難な状況にありながらも、福島の自然の尊さ、地域・家庭・学校での取組みの素晴らしさ、生活する人々の息づかいやいたわり合いに気づき、福島市のこれからを真剣に見つめる中学生。彼らの文章に触れることができただけでも幸せな気持ちになるとともに、大人として何をすべきなのか改めて問い質されている思いに駆られました。

昨年度に比し、甲乙つけがたい新鮮な作品が多くあり選考に苦慮しました。市民憲章を知っていた皆さんも、あまり知らなかった皆さんも自分の郷土福島市を思う気持ちに変わりはありませんでした。昨年同様、復興の中心は若い方たちであり、皆さんたちになら任せることができると頼もしく感じました。皆さんの思いを現実のものにするためにも、目標に向かってより一層学び続けてほしいと願っています。

平成二十九年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島市中学校長会副会長

齋 藤 良 一

目

次

◆金賞

自然あふれる福島

福島市立岳陽中学校

鈴木 菜都美……………1

◆銀賞

愛情あふれる親切な市
空も水もきれいな緑のまちへ

福島市立蓬萊中学校
福島市立信陵中学校

大原 一花……………2
金子 凌大……………3

◆銅賞

福島への想い
福島の特 別
これからの福島を担うのは

福島市立北信中学校
福島市立松陵中学校
福島市立平野中学校

鈴木 萌花……………4
日 高 詩 絵……………5
樅 山 日 向……………6

◆佳作

笑顔のたえない最高の福島へ
ブナの大樹から学んだこと
つくろう！私たちが目指すまち
ありがとうの言の葉の
もっと、広めたい
私達にできること
愛情あふれるまち
福島市民として。
良いまちをつくるには…

福島市立松陵中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立平野中学校
福島市立信夫中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立福島第三中学校
福島市立信陵中学校
福島市立信陵中学校

佐 藤 珠 理……………7
遠 藤 颯 花……………8
桑 原 さくら……………9
佐 藤 まりも……………10
竹 田 和 奏……………11
和 光 沙 樹……………12
七 宮 百 香……………13
清 野 妃 奈……………14
橋 矢 田 葵 依……………15

福の島

みんなが楽しく過ごせる町
『福島市民憲章』について
震災で分かったこと

福島を良くするために
福島市民憲章への思い
親切であふれるまちへ
よりよい福島のまちづくり
福島市民憲章を読んで
『福島市民憲章』を知って
福島のきれいな町づくり
一人一人の意識が
より良い福島市にするために
福島市民の暮らし
きれいな町づくり
事故をなくそう。
自然に優しい生活を
町を変えること
小さなことから……
人を助けることの大切さ
きれいなまちをつくるために
福島市民憲章について

福島市立北信中学校	藤田結衣	16
福島市立北信中学校	佐藤香織	17
福島市立松陵中学校	佐藤真白	18
福島市立平野中学校	中村美結	19
福島市立福島第二中学校	安齋智香	20
福島市立福島第二中学校	安部萌瑛	21
福島市立福島第二中学校	須藤由佑緋	22
福島市立福島第二中学校	小野嵩斗	23
福島市立福島第二中学校	菅野文碧	24
福島市立福島第二中学校	千葉桜子	25
福島市立福島第二中学校	佐藤優隼	26
福島市立福島第二中学校	鹿野菜那子	27
福島市立福島第二中学校	佐藤優介	28
福島市立福島第二中学校	平澤侑大	29
福島市立福島第二中学校	菅野陽菜	30
福島市立福島第三中学校	北沢碧	31
福島市立福島第三中学校	松浦花音	32
福島市立福島第三中学校	佐藤のあ	33
福島市立福島第三中学校	齋藤夏希	34
福島市立福島第三中学校	菊田遼真	35
福島市立岳陽中学校	國分大	36
福島市立蓬萊中学校	川村珠恩	37

ゴミのポイ捨て
 安全で健康なまちづくり
 福島市民憲章について
 『福島市民憲章』を読んで
 今、私たちにできること
 福島市民憲章について考えたこと
 きれいな町を作るためには
 響け！福島の声！
 親切で愛情あふれるまちについて
 自然いっぱい福島市
 『親切で愛情あふれるまち』に向けて
 『あたりまえ』を大切に
 空も水もきれいなみどりのまち
 明るい福島市をつくるために
 笑顔あふれる町をつくろう
 阿部さんの話から思ったこと
 希望に輝く福島をつくるために
 緑あふれる豊かな町
 一人一人がよりよい福島市をつくろう
 おもいやりの福島市へ
 輝くまち
 みんなが毎日笑顔で過ごすために
 安心・安全なまちづくり

福島市立蓬萊中学校	遠藤 龍斗	38
福島市立蓬萊中学校	阿久津 百菜	39
福島市立蓬萊中学校	高橋 由衣	40
福島市立蓬萊中学校	丹野 栞里	41
福島市立蓬萊中学校	磯田 ななみ	42
福島市立蓬萊中学校	井沼 亜優子	43
福島市立清水中学校	佐々木 隆成	44
福島市立信陵中学校	加藤 遼河	45
福島市立信陵中学校	野田 姫花	46
福島市立信陵中学校	中村 侑菜	47
福島市立信陵中学校	阿部 光優	48
福島市立信陵中学校	山際 悠平	49
福島市立信陵中学校	菅野 裕紀	50
福島市立信陵中学校	佐藤 結菜	51
福島市立北信中学校	八巻 愛	52
福島市立北信中学校	菅野 乃愛瑠	53
福島市立北信中学校	山口 佳菜	54
福島市立北信中学校	白坂 聡一朗	55
福島市立北信中学校	横山 孔	56
福島市立北信中学校	小雀 葵子	57
福島市立北信中学校	藤倉 佳音	58
福島市立西信中学校	高橋 花歩	59
福島市立西信中学校	高橋 美翔	60

みどりの市
親切で思いやりのある町
私達にできること
福島を安全でキレイな市にするには
緑が美しい町へ一歩
きれいな荒川で
美しい街にするために
今私にできること
支えあって
安全で健康な町づくりのために
安全で健康なまちを目指して
もっと大好きな福島市にするために
笑顔の日々へ
福 島
私達が少しでもできる事
あいうえおの町
わたしたちにできること
福島市民憲章
住みよい福島にするために
市民憲章に込められた意味
こんな大人達に囲まれて
みんなが親切で愛情あふれるまちに
親切で愛情あふれるまちにするために

福島市立西信中学校	渡	真	61
福島市立西信中学校	後	拓	62
福島市立西信中学校	赤	井	63
福島市立西信中学校	今	泉	64
福島市立西信中学校	大	内	65
福島市立西信中学校	阿	部	66
福島市立西信中学校	佐	久	67
福島市立西信中学校	色	摩	68
福島市立立子山中学校	三	莉	69
福島市立立子山中学校	三	浦	70
福島市立立子山中学校	三	浦	71
福島市立立子山中学校	加	藤	72
福島市立立子山中学校	佐	藤	73
福島市立立子山中学校	渡	邊	74
福島市立立子山中学校	菅	野	75
福島市立立子山中学校	伊	藤	76
福島市立立子山中学校	鎌	田	77
福島市立立子山中学校	清	野	78
福島市立立子山中学校	安	齊	79
福島市立立子山中学校	本	田	80
福島市立立子山中学校	芳	賀	81
福島市立立子山中学校	木	村	82
福島市立立子山中学校	篠	木	83

私にできること
 福島市のために出来る事
 福島未来をわたしたちの手で
 ふくしまの美しいみどり
 私にできること
 福島のみどりを守るため：
 『きまりを守る』とは何なのか
 未来の福島を愛するために
 人々の心のやさしさ
 今の私が出来ること
 福島市をより良くするために
 明るい笑顔のまち
 親切なまちづくり
 日常の中の『親切』
 地域の人の優しさ
 私の住む町
 私の経験
 環境と資源
 福島市民憲章
 笑顔溢れる福島
 思いやりの気持ち
 私の夢

福島市立野田中学校	鈴木	愛琉	107
福島市立野田中学校	紺野	かすみ	108
福島市立野田中学校	茂木	理紗	109
福島市立野田中学校	齋藤	美悠	110
福島市立野田中学校	佐藤	里咲	111
福島市立野田中学校	安藤	叶実	112
福島市立野田中学校	佐藤	琴音	113
福島市立野田中学校	大館	和る	114
福島市立飯野中学校	引地	花楓	115
福島市立飯野中学校	黒澤	花凜	116
福島市立飯野中学校	菅野	実沙	117
福島市立飯野中学校	河野	真悟	118
福島市立飯野中学校	大河内	創太	119
福島市立飯野中学校	佐藤	楓華	120
福島市立飯野中学校	佐藤	綾花	121
福島市立飯野中学校	岡崎	葵	122
福島市立飯野中学校	齋藤	綾菜	123
福島大学附属中学校	菅野	佑一	124
桜の聖母学院中学校	高橋	花衣	125
福島成蹊中学校	鈴木	健一	126
福島成蹊中学校	高橋	舞	127
福島成蹊中学校	藤本	莉緒	128

金賞

「自然あふれる福島」

福島市立岳陽中学校

鈴木 菜都美

「空も水もきれいなみどりのまち」という言葉を見て思い浮かんだのは、桃と荒川だ。

私は、果物の中で桃が一番好きだ。小学校の時、桃の選果場を見学したことがある。そこで、桃のおいしさや安全のための秘密をたくさん教えていただいた。特に、光センサーで糖度や色、形を調べる様子がとても印象に残った。作業スピードがとても速くて驚いた。品質がしっかり管理されているのだと分かった。また、桃をつめる箱にも工夫があった。いつ、どこで、誰が生産したか分かる記号が書いてあるのだ。これなら、もしトラブルがあってもすぐに解決できるので安心だと思った。また、箱のふたをとめるのに、強いのを少量使っていることも知った。ホッチキスだとふたを開けるのに苦労するし、危ないからだ。買っ

た人が安全に簡単に開けられるようにという心配りがされているのだと思った。

福島市は、市町村別の桃の収穫量が全国二位だそうだ。調べて見ると、七月の末には暁星、八月になるとあかつきや川中島白桃、九月になつても黄貴妃など多くの品種があり、長い期間味わうことができる。中でも、あかつきは、福島で品種改良された桃だそうだ。実がぎつしりつまっている甘くてとてもおいしいので、私も好きだ。福島県の盆地特有の気候と風土は果物をおいしくするのに適しているという。さらに、品種改良などでおいしい桃を生産する努力しているのだ。だから、福島県の桃は、人気があるのだと思った。

荒川は、小学校の校歌にも歌われていて私にとって身近な川だ。その荒川が六年連続水質日本一に輝いた。国土交通省の平成二十七年水質調査結果によると、荒川が「水質が最も良好な河川」に選ばれたそうだ。私は、荒川が六年も続けて日本一になった理由は、地域の人々の取り組みであると考えた。主にゴミ拾いなどをする荒川クリーンアップ作戦を年に二回も行っている

ことだ。水質・水生生物調査も行っている。それに、ポイ捨てをなくす呼びかけを常にしている。だから、きれいなのだと思う。荒川の近くには、ホテルがある。十年前から、えさのカワニナをやるなどのホテルの保護活動もしているそうだ。荒川桜づつみ公園には、春には約二百二十本の桜の木に花が咲き、とてもきれいだ。しかし、多くの人々が花見に来て、ポイ捨てをするため、汚くなってしまう。それを防ぐために、ポイ捨てをなくす呼びかけをしたり、捨てられたゴミを拾ったりするボランティアをしているそうだ。このような地域の人々の活動で、荒川は日本一のきれいを保っているのだと思う。

私も地域の一人として、空も水もきれいなみどりのまち福島を守るために活動していきたいと思う。

銀賞

「愛情あふれる親切な市」

福島市立蓬萊中学校

大原 一花

私は、この作文を書く前は「市民憲章」というものがあるなんて全く知りませんでした。だから、この機会に市民憲章の存在を知ることができ、福島市の市民としてうれしく思います。しかし私と同じ様に、市民憲章があることを知らない人もいると思います。そこで、市民一人一人が福島市の一員であるという自覚を持つためにも、市民憲章への理解を深めたいと思いました。

五年前の東日本大震災。それは福島県のみんながとても苦しんだ出来事でした。その時小学一年生だった私には理解のしにくい、悲しいことでした。私はその日、風邪で学校を休んでいたので家族が守ってくれましたが、下校途中だった私の友達は近所の人に助けられたと言っていました。家族が「大丈夫だよ。」とやさしく声をかけてくれたので少し安心しましたが、母が帰っ

てくると、今までがまんをしていた気持ちがかみあげてきて泣いてしまったことを覚えていています。

最近、熊本県で震災がありました。あの時の私の様に、本当に怖くてつらかっただろうなと思います。でも、声をかけあったり、助け合ったりと、いろんな人の愛情や親切な行動で、救われた人もいると思います。

五年後の今、「福島市民憲章」を見て私を感じることは、親切で愛情あふれるまちというのはすでに達成できているということです。私たちの福島は、五年前のあの日、建物が壊れたり、水が出なかつたり、食料、停電、そして放射能と様々な困難に見舞われました。

断水になってしまった私の地域には、給水車が来てくれました。テレビで見たものでは自分たちも大変な思いをしている学生さん達が、ボランティア活動でお年寄りに声をかけにいったり、食料を配るのを手伝ったりといったやさしさや愛情あふれる行動に、本当に感謝と感動の気持ちでいっぱいでした。

あの困難を経験した福島市だからこそ、愛情にあふれ、親切な人がたくさんいるはずだと、私は心からそう思っています。

今よりも、もっとすばらしい福島市にするためには、何か難しいことをしなければならぬのかな、と思っている人がいるかもしれません。でも、難しいことではなく簡単にできることで、もっとすばらしい福島市にすることができます。簡単にできること、それは「地域の活動で交流を深め、いつでも誰でも頼れる存在にすること」これだけで市民の絆は更に深まるのではないかと私は思います。「親切で愛情あふれるまち」これが叶えば、きれいなまちも、楽しく働けるまちも、安全で健康なまちも自然とできていくはずですよ。そして誰もが希望にかがやくまちの住民として、毎日輝いて生活していけることでしょう。

私の生まれ育ったふる里、福島市の一員として、私も力を尽くしていきたいと思えます。

銀賞

「空も水もきれいな緑のまちへ」

福島市立信陵中学校

金子 凌 大

僕が小学校一年生の時に、東日本大震災は起こりました。七歳だった僕は、幼く、当時の現状を全く理解できていませんでした。原子力発電所が爆発し、放射性物質が福島県内に拡散し、植物や生き物、雨まで汚染されてしまいました。

僕は、すごく小さい頃から、祖父の家に、毎週行っています。祖父の家の近くには、田んぼや畑、サワガニやヤゴのいる小川があります。六月になると、星と見間違えるほどホタルが飛び、夏になれば、オニヤンマが小さな小川を、何度も行ったり来たりしている風景が見られます。隣の家とは、五百メートルぐらい離れていて、そこには、木が道路をおおうようになっています。それを僕は、「緑のトンネル」と言っています。周りは木に囲まれていて、まさに大自然というのは、このことだと思っています。僕

はそんな祖父の家が大好きです。

しかし、震災が起きてから、その風景は見られなくなりました。夏になってもホタルやオニヤンマが飛んでいることはありません。僕はなんだか悲しくなりました。「あの美しい風景、楽しい思い出は、もう戻ってこないのか」と。

二〇一三年の六月の夜、祖父の家に泊まりに来ていた僕は、なくなっていくか、期待も無しにふらっと外へ出ました。蒸し暑かったけれど、涼しい風が吹いていました。「どうせ今年もいないだろうな。」と、少し不機嫌そうに、一人でつぶやきました。でも、結果は違いました。小川に少しだけ、ホタルが飛んでいたのです。初めは幻だと思っていましたが、何度目を凝らしても、少しだけチラチラと光っているのです。僕は急いで家族を呼びに行きました。みんなは、「幻だ。」とか「見間違いだ。」とか言っていました。現実を見せたとたん、みんなは言いました。「少しだけ元に戻ったね。またあの景色が見えるね。」と。

その年から、ホタルの数は、みるみるうちに増えていきました。震災前の風景が戻

ってきました。僕はなんだか涙が出そうになりました。奇跡が起きたのですから。

二〇一六年現在、福島は復興が進み、除染やボランティアなどのおかげで、川や町がきれいになってきました。しかしどうでしょう。本当にこれで完全に復興したと言えるでしょうか。僕は、まだまだ、この福島は、進化することができと思っています。ゴミのポイ捨てや地域での取り組みなど、小さな一つ一つのことをなおしていけば、もっともっと市全体がレベルアップしていけるような気がします。みんなの大好きなこの福島を、これからも守り、発展させていけるよう努力していきたいと思います。

銅賞

「福島への想い」

福島市立北信中学校

鈴木 萌花

福島市と聞くとどのようなことを思い浮かべるでしょうか。福島市の桃源郷と言われる花見山をはじめとする美しい自然、桃などの美味しい果物などを思い浮かべることができません。

平成二十三年三月十一日、東日本大震災がおきました。今までに経験したことのない激しい揺れがおき、この地震でおきた原発事故、それをきっかけに福島イメージは大きく変わりました。

それからの生活は今までとは全く違うものでした。電気はついたものの、水は数日間、断水になりました。そんな時、近所の方から井戸水を分けてもらいました。人の優しさを感じた瞬間でした。学校には通えるようになりましたが、外での活動は制限されるようになりました。今まで感じることでできた春の訪れを感じる風は分からな

くなり、草花は生きているのだかと思えました。人も草花も灰色がかった暗い気持ちになりました。

私は、この東日本大震災の後、転校し、五年生のときに、福島市の学校へ戻ってきました。友達や近所の人、毎朝、横断歩道に立ってくださるおじいさんも私を明るく優しく迎えてくれました。

そして私は、今年の春、春の訪れを感じ、家族や友達、草花のいきいきとした姿に見守られながら中学生になりました。中学校に入学して五ヶ月、学校生活や勉強、部活も充実し、友達と楽しい日々を送っています。

「福島市民憲章」に「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という文章と「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という文章が記されています。この内容はまさに今、そしてこれからの福島にぴったりのことだと思います。

多くの人のおかげで、住宅の除染なども終わり、少しずつではありますが、花見山などの美しい自然も、家の周りの自然ももどに戻りつつあります。そして、福島の結果

物もテレビなどで取り上げられるようになりました。

小学校の担任だった先生が、卒業文集にこんな言葉を贈ってくれました。海援隊の「贈る言葉」の歌詞の中から「人は悲しみが多いほど、人には優しくできるのだから」という言葉です。悲しみや苦しみを知っている者は人の痛みが分かり、人に対してさらに優しくできるといことです。これからもずっと、人の痛みが分かる人でいてくださいという言葉でした。

東日本大震災で辛く、悲しい思いをした福島市の市民は、親切で愛情をもつて人とかかわることができ、きれいなみどりのまちをつくりたいと願っていると思います。私たちの世代も頑張っていきたいです。小さな実も大きな花になるように、いつか福島市も大きな花を咲かせると思います。

銅賞

「福島の特別」

福島市立松陵中学校

日 高 詩 絵

私は、果物が大好きです。福島市に住んでいると、一年を通じて、様々な旬の果物を食べることができます。冬はりんごからはじまり、春はさくらんぼ。夏は桃。秋はぶどうになし。そのなかでも一番好きな果物が桃です。みずみずしくて、硬くて甘い桃が最高に美味しいと思います。

そんな福島の桃を味わってもらいたくて、栃木県にすむ祖父母の家にお土産に持って行ったことがあります。すると、仏壇の前にお供えしたまま、なかなか食べようとしません。

「ねえ、どうして食べないの?」
と、不思議に思い祖母に尋ねると、

「まだ硬いからね。やわらかく熟したら食べよう。」

と言いました。私は、今が一番食べごろなのだと説明すると、祖母は、おどろいてい

ました。

このことを父に話しました。すると、栃木県で育った父は、桃は柔らかくなつてから食べるものだと思っていたそうです。そして福島にすむようになって、初めて、桃のおいしさを知ったそうです。

私の父だけではありません。横浜から越してきたという母の友人もそうでした。はじめ、福島の桃を口にしたとき、一瞬、甘いジャガイモだと思ったそうです。でも、それ以来甘くて硬い福島の桃のファンになりました。

私が普通だと思っていた甘くて、硬い福島の桃が、実は、福島市に住んでいるからこそ気軽に味わえる特別な味だったのです。もしかしたら、私があたりまえだと思っている福島の良さは特別な部分がたくさんあるのかもしれない。

桃だけではなく、四季折々の果物のおいしさも、お米の甘さも。いかにんじんやひきなირなどの郷土料理も、ほかの地域の人たちからすれば、特別なことなのです。

いつも、素敵なお店や楽しいイベントのある都会はいいなあと思っていました。で

も、福島市にも他の地域の人たちが目を見張るような特別なことがあるのです。それは、福島が空も水もきれいな町だから。福島市には、誇りをもつて働いている人たちがいるから。そして、福島に住む人たちが、どんな困難に立ち向かって、助け合つて暮らしているから。

そこから、生まれた福島の特別をこれからもっともっとみつめて、日本中の人たちに伝えていきたいと思いました。

銅賞

「これからの福島を担うのは」

福島市立平野中学校

縦山日向

「福島市民憲章」と聞いての第一印象は、「難しそう」や「そういうものは、大人がどうにかするんじゃないか」といういい加減で乱暴な考えだった。内容を見て、「ここを変えたい」と思う場所があっても「どうせ子供は何もできない」とあきらめていた私は、一っ気になるところがあった。「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というものだ。一言で、「親切で愛情あふれるまち」といっても例えばどんなものだろうか。私は、人が皆一人一人親切で思いやりの心を持つと同時に故郷である福島の自然にも思いやりを持って大切にできるまちだと考える。そう考える理由は、市民も自然もこの福島市の大切な宝だと私は思うからだ。

そんな理想のまちにするためには、まず、人が人へ思いやりを持って生活することか

ら始めなければならない。最近、マナーを守られていない子供よりもマナーを守られていない大人の方が多い気がする。実際、私が横断歩道を歩いているときも、その「マナーの悪い大人」とすれちがったことがある。私が荷物を持って歩いている横を、自転車に乗った男性が一回舌打ちをして「邪魔だな」と言いたげな表情で通って行った。そんなことでは、自然にも思いやりを持つなんて、到底無理だと思う。

そこで、私は「子供も方から変われば良いのではないか」と考えた。私の意見だが、子供は大人にまかせすぎなのではないか。これでは、市民憲章を初めて見た時の私と同じになってしまう。何でも大人にまかせ、自分では何もしないようになるのは嫌だと私は思う。

そして、人も自然も甚大な被害を受けた三月十一日。震災の日、私は小学一年生だった。雪が降り寒い中、父と母が前日までとっておいていた冷凍食品を温めて出してくれた。幸いにも、すぐに電気は通り、学校も再開し、「あまり被害が無いじゃないか」と思い込んでいた。このとき、私達の

知らないところで大人達は努力してくれていた。

それから、まちの復興が着々とすすめられていたある日。

「あそこも除染するんだって。」

ふと耳にした言葉。「除染されるのか。良かったじゃないか」そう思っていた。だが、実際終わってみればどうだろうか。木や草の青々として綺麗だった景色が全て色あせてしまい、真っ黒にゆがんでいた。

その日から、私は思う。まずは子供が、困っている人に声をかけたり、もう一度花や木を植えたりして、「これからの福島を担うのは私達だ」と一歩踏み出す。そうすることで、福島市民全員が協力して緑を取りもどすために努力する日がくる、と。そう信じて、私はこれからもこの福島市で生きていきたいと思う。

佳作

「笑顔のたえない最高の福島へ」

福島市立松陵中学校

佐藤 珠理

私の松陵中学校はきょねんから、「松川を変えるプロジェクト」というのを行っています。各委員会ごとに、松川のためにどんなことができるだろうと考え、土曜日の授業の時間を、地域交流活動として実行しています。私は最初この話を聞いた時は「適当にやつてればいいかな」と思っていました。そんなある日きょねんの生徒会長が残した紙が配られました。そこには、生徒会長が本気で松川を変えてより良い町にするため、みなさんも本気で取り組んでほしいという熱意が残されていました。私も本気でやってみようと考えようになりました。生徒会本部は、松陵中学校の卒業生や地域の方々と交流する異世代交流を行い、体育委員会は、地域のお年寄りの方々とゲートボールを行い、図書委員会は幼稚園で本の読みかきを行ったりと、委員会

ならではの地域交流活動をしました。私の入った環境委員会は、松川町のさくらナーセリーの方々と花植えなどをして交流しました。花植えのやり方を教えて頂く他、社長の方に中学生に対してのアドバイスや、勉強のやり方など、くわしく教えて頂きました。私はこの体験を通して、地域の人の温かさを感じました。花植えは初めてではないけれど、知らない事がたくさんあって、一からさくらナーセリーの方々に教えてもらいました。とても優しくくわしく教えていただいたので、すぐにできました。花植えを教えてもらう際に一番交流しました。自分の家に持ち帰るプランターの花を決めました。私はアゲラタムというむらさきで、とてもきれいな花を選びました。その時、さくらナーセリーの方が

「この花は一年草だから、ほどよく水をあげてね。」

と話しかけてくださいました。私はうれしくなりました。その後もその方は松陵中の事などをたくさんほめて、積極的に話しかけてくださいました。

私は今まで、地域の方々との交流はまっ

たくしていませんでした。ですが、この地域交流活動をして松川町の方々はこんなにやさしいんだと初めて思いました。福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」を見て、福島には地域の方々の交流が足りないなと思います。松陵中のようなきかが増えれば、自分が今まで知らなかったことに気づくでしょう。また、福島市の人々全員がより良いところになるにはどうしたら良いかを考えるようになってほしいです。そのことを実行に移し、笑顔のたえない最高の福島市を作りたいです。そのために私は、松陵中の伝統としてより活発な地域交流活動をして、松川町から変えていきたいです。

佳作

「ブナの大樹から学んだこと」

福島市立福島第三中学校

遠藤 颯花

空と水とみどりの共通点とはいったいなんだろうか。どんなに考えても、自分の頭に明解な答えが浮かび上がることはなかった。地球温暖化という言葉を知ってはいても、自然がこの地球環境にどのような影響を与えているかなど知ろうとしなかった。しかし、昨年の一年を通して学んだことは自分の考え方を変えるきっかけとなった。

昨年三月、私は、宿泊学習の話を熱心に聞いていた。この時は自然なんて言葉は頭の中になくてただ宿泊学習に行けることが、とても嬉しかった。進級してからは調べ学習が続いたがやる気があったとは言えない。けれど二日目のブナの森の散策だけは少し楽しみではあった。

只見町には、広大なブナの原生林が幾つもある。自分達はその中の、「いやしの森」

を歩いた。特に何も考えずに歩いていたが、考えを変えるきっかけとなるものが入った。それは、百年以上も生きたブナの大樹が横に倒れその上から日光が差し込む不思議な景色だった。ガイドの方は、

「古い木で周りのたくさんさんの植物の生育をさまたげているものがあれば、人の手を加えて対策を練らないといけないよ。原生林を守るために精一杯努力しているんだ。」と教えてくれた。この時、自分の中で自然を残すための取り組みを行っている人達がすごいと思うようになった。

ブナセンターでの活動もあり、より具体的な自然環境の保護活動について学ぶ時間となった。

倒れた大樹を見るまではあまりやる気の無かった総合学習も帰ってきてからは、学んだことを活かし、信夫山を誇れる山にするための景観回復について考え、何度も足を運んでいた。信夫山のセンターの方、市役所の信夫山について扱っている方、小鳥の森のガイドの方などたくさんの人から話を聞き、安達太良まで出向いた。この時教えてもらったこと全ては、自分が考えなか

ったものを気付かせてくれるものだったと思う。

只見町や信夫山での活動をして、自然を次世代まで残すには、適切な人間の手入れが必要だと思った。人間の行動によって、知らず知らずのうちに壊していた自然に關していえば、小さな意識をもとに、ゴミ拾いから、徐々に植林など具体的かつ意識化された活動に取り組みなくてはならないと思う。自分も自然を大切にし、みどりを増やしていきたい。

佳作

「つくろう！私たちが目指すまち」

福島市立福島第三中学校

桑原 さくら

私が読んだ本の中に、重そうな荷物を持ったおばあさんがいて、その人の手助けをするという話がいくつかあった。まちの人が互いに助け合っているそのまちな想像すると、私はとてもあたたかい気持ちになる。私たちがすむまちをそのような親切で愛情あふれるまちにするためにはどうすればいいのだろう。

小学五年生の時に見た、親切な行動が私は今でも忘れられない。それは、家族でご飯を食べに行ったときのこと。その店はこんでいたので、食べるところの席へ行くのに時間がかかっていた。その席へ行くのを待つために家族みんなでその店の椅子に座っていた。店の中で待つための椅子も、だんだんと座ることができなくなっていた。すぐに客がいっぱいになり、立っている人もいる。すると、いきなり父が立ち上

がってどこかへ行ってしまった。誰かに話しかけたようだ。すぐにもどってきた。そして、父が座っていた椅子に父ではない人が座った。父が話しかけていた人だった。その人は、つえをついたお年寄りの方で、父に何度もお礼を言っていた。それから父は、何事もなかったように人が通らないところに行つて立っていた。父がつえをついたお年寄りの方に席をゆずっている様子を私は座ってじつと見ていた。

私は、小学五年生の時の体験から、他の人に優しくすることで、助けられたり、周りの人の気持ちを変えたりすることができるということを知った。知らない人に話しかけるといふのはとても勇気がいると思うけれど、困っている人がいたら自分から話しかけていきたい。また、私たちがすむこのまちを親切で愛情あふれるまちにするためには、まちの一人一人が自分のことだけではなく、他人のことも考えて生活していくことが大切だと思う。私の父がお年寄りの方に席をゆずったように少ないものもゆずり合ったり、お年寄りの方や小さい子供に優しくしたりする、お互いに明るいあい

さつをかわすなどの小さいことでも積み重ねていかなければ私たちの目指すまちにはならないだろう。私たちがすむこのまちが、親切で愛情あふれるまちになるようにこれから普段の生活から自分がまちの未来のためにできることを考えて、実行していきたい。そして、まちのみんなが自信をもつてこのまちは「明るくて住みよい」ところだと言いうことができるまちにしていこう。

佳作

「ありがとうの言の葉の」

福島市立平野中学校

佐藤 まりも

今は、雨降りの魔法が使える小人たちが、雲に乗りながら雨を落としていき、もう一ヶ月もすれば山の木々たちが衣がえを始めていく、そんな季節。これから日本の秋が始まります。私がいまからお話するのは、約一年前のとある話です。

私は六年生の時、清掃班の班長をしていました。当時の私は今よりも内気な人間だったので、ちゃんとみんなをまとめられるかとても心配でした。それでもなんとか心を落ちつかせて、班のみんなに明るく優しく接するように心がけました。私の班には掃除が初めてで緊張しているような顔をしている時には、「大丈夫だよ」とか「どうしたの？」などの声をかけてあげるようにしていました。しかし班長とはいざやってみると大変で、なかなか余裕がなく、あまり声をかけてあげることができませんでし

た。

そしてあつという間に月日が流れ、卒業証書授与式の日になりました。式も終わり写真撮影の時に一人のお母さんに声をかけられました。そのお母さんは清掃班の男の子のお母さんでした。私はあまりに唐突だったので、

「うちの子が清掃班の班長がとても怖いとおびえていたんですよ」

なんてことを言われたらどうしようと思いい、少し身構えていました。すると、私の思っていたこととは裏腹にとっても意外な言葉が返ってきました。

「息子が班長さんがすごく優しくしてくれたといつも言っていて、本当にありがたいございました。」

おどろきました。びっくりしたのとうれしいのとで顔がついにたにたしてしまいました。それに隣には親もいたのでとてもほこらしい気分でした。さらに後日、その男の子のお姉ちゃんから「弟から」といってプレゼントをもらいました。中を開けてみると、クッキーとメッセージカードが入っていました。メッセージカードに

は、少しでも不器用でとてもいいいな字で

「やさしくしてくれてありがとうございます。中がっこうでもがんばってください。」

と書いてありました。うれしかったです。

よくいいことをした分だけいいことが返ってくると思いますが、本当にそうだと思います。優しさが生みだすのは優しさです。

そして相手を思う気持ちは必ず伝わるはずです。だから、これからも思いやりの気持ちを大切に、さまざまな人と出会ってきたいです。そして優しさあふれる福島市になるよう取り組みたいです。

佳作

「もっと、広めたい」

福島市立信夫中学校

竹田 和奏

「福島市」と聞いて頭に浮かぶものはないだろう。私の頭で思い浮かぶものは、野菜や果物がおいしい、土湯や飯坂などの温泉がたくさんあるなどだ。例えば土湯温泉であれば、昔からの伝統として今も受け継がれているこけしは、福島の名産品といえるだろう。

しかし、私は以前こんな体験をした。家族ぐるみで仲の良い青森県の友達が、福島に来る事になった。少しして、お父さんが「福島市のおいしいグルメとかおすすめの観光スポットってなにかある。」というメールを友達のお父さんにもらった。お父さんから「参考にするけど、どう思う。」と聞かれ、私は返答に困った。果物がおいしく温泉が多い、それぐらいしか思い浮かばず、「観光スポット」と言われると分からないものだなと思った。結局、

お父さんもいろいろ調べてメールを返信したようだが、「福島来るならここは押さえてこう」という場所も、福島市には少ないような気がする。いろいろ考えて家族にも聞いたが、家族も

「福島市は観光スポットが少ないよね。」

と私と同じような事を言っていた。テレビで「福島市」を特集する番組もあり見なし、市内の雑誌などを見てもあまり観光名所のようなものは載っていない。実際、そういう場所も施設も少ないと思う。

調べてみれば市内の人しか知らないような穴場スポットや、グルメがあるのかもしれない。でも、私が知らないのだから市民の人全体でも知っている人は少ないはずだ。

この間、テレビで土湯温泉街でロケを行っている番組を見た。私の住んでいる近くの地域ではなかったものの、福島市内の土湯が取り上げられているのを珍しく思い、つい見入ってしまった。伝統的な文化の一つであるこけしに自分で好きなように絵付け体験ができる場所があったり、当選すれば温泉旅館宿泊券といった観光客向けのス

タンプラリーがあつたりと、土湯温泉では様々な取り組みが行われていることが分かった。また、他の温泉街でもその地のゆるキャラを作つて観光客を増やす取り組みをしている。

では、温泉以外ではどうなのだろう。例えば、子供からお年寄りまで自由に利用できる施設を作る。他の子供や他の母親同士の交流が深まるきっかけとなるだろう。施設だけでなく、もっと果物や地域ならではの祭りをアピールしたイベントや商品を出していくのもいいと思う。今より少し観光スポットが増えれば、他県の人に紹介できるし自分もそこに立ち寄ることができる。まだあまり福島市のことを知らない人に、胸を張つて福島市のよいところと言えるように、私はなりたい。

佳作

「私達にできること」

福島市立福島第三中学校

和 光 沙 樹

私は、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるには、一人一人の意識が大切だと考えます。一人一人が心がけなければ、きれいなまちをつくることは無理だと思います。

私は、小学校五、六年生の時に、育成会で月ごとに行われる、地下歩道清掃に参加していました。朝の八時から、父と母と一緒に、毎月地下歩道を眠りそうになりながら清掃したのを、今でも覚えています。私の役目は、階段をほうきでくことでした。母に指導されながら、階段にたまったゴミをはくのは、まだ小学生だった私には、とてもゆううつでした。清掃が終わる頃には、大きなゴミ袋のおよそ半分がゴミでうまっています。袋の中には、カン、タバコの吸い殻、ペットボトル、食品の容器など、様々な種類のゴミがありました。私はこの

時、掃じする人のことも考えてほしいと思いました。そして、地下歩道だけではなく、通学路、近所の公園、さらには、神社にまでゴミが捨てられていたのです。神社にゴミを捨てるなんて、バチ当たりだなと思いました。神社に限らず、捨ててはいけない場所にゴミが捨てられているのを、私は何度も見てきました。このような行為は、人間としてどうかと思います。福島をきれいにしようとしてくれている人達にも失礼です。

このような体験から私は、まちにゴミを捨てる人を減らすために、三つの方法を考えました。一つ目は、町の中にゴミ箱を増やすことです。私は、町の中に、コンビニ以外でゴミを捨てられる場所を見たことがありません。「ゴミは自分で持ち帰りますが、ゴミを自分で持つのは少し嫌な感じがします。ゴミを自分で持つのが嫌で、ポイ捨てをするんじゃないか、と私は思います。だから、目立つ場所にゴミ箱があれば、ちゃんと捨ててくれるのではないのでしょうか。二つ目は、私が経験した地下歩道清掃のよ

うな企画を増やし、地域の皆で行うことです。いつも通っている場所がきれいになると、この状態を維持し続けたいと考えるようになると思います。三つ目は、互いに注意し合うことです。私は、知り合いが平然とポイ捨てしているのを見たことがあります。けれど、何も言えませんでした。これが当たり前なのか、皆やっていることなのかと思います。ただ見ていることしかできませんでした。しかし、それではまちは、きれいにはなりません。それに、ポイ捨てはやってはいけないことだと、私はきちんと理解しているし、やったこともありません。だから、今度誰かがポイ捨てをしていたら、勇気を出して注意してみようと思います。「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるために、まずは、私自身ができることをやっていきたいです。

佳作

「愛情あふれるまち」

福島市立福島第三中学校

七 宮 百 香

あなたは誰かに親切にされた経験はあるだろうか。きつとたくさんあることだろう。では、あなたが誰かに親切にした経験はあるだろうか。きつとされた経験のほうが色濃く残っていることだろう。私はそれがとてもすてきなことだと思う。

小学校六年生の一学期もあとわずかとなった梅雨の時期。雲行きがややしいのを感じながらも時間がなかったため走って帰った。しばらくすると空から冷たい雨が降ってきた。「やっぱり」と思いながらも雨があたらない道を選ぶように走った。すると前に見える信号機が点滅しているのが見えた。頑張って走ったが赤になってしまい、止まっている間は走っているときと比べて寒いと感じた。けれどふとした瞬間いきなり雨がやんだ。いや、雨は降っている。けれど自分にはあたっていない。後ろを振り

返ると、にこつと笑いながら傘をさしてくれているおばあさんがいた。「ちよつとだね」と言いながら信号を待っている間ずっと傘をさしてくれた。その間がとても長く感じられた。そしてすごく暖かった。気がついたら信号が青に変わっていて私ははつとなりおばあさんにお礼を言っただけで走った。翌日、学校のとある時間に先生が「誰かに親切にされたことはありますか」という質問に多くの人が「ある」と答えた。ところが「したことは」と聞かれて誰もあるとはこたえなかった。けれど先生は「それはとても良いことだ」と言った。

みなさんはなぜ、それが良いことか分かるだろうか。私も最初は分からなかった。けれどそれは親切にすることがあたりまえだから分らないのだと先生は言った。私は確かにそうかもしれないと思った。私が親切にしたらよかったと感じ「ありがとう」と言う「何が」と頭にクエスチョンマークを浮かべる人は、今までたくさんいたからだ。あのおばあさんも一瞬キョトンとしていた。つまりこのまちは自然に助け合うことができるまちなのではないかと思っ

た。助けることや手伝うことはあたりまえなのに、助けられることに嬉しさを感じるのはすばらしいことなのではないかと思っただ。他人に親切にすることや手をささのべすることは簡単そうで本当はとても勇気がいることだ。「自分がやろうとしていることは、本当に正しいことだろうか」「逆に傷つけてしまわないだろうか。ときつと誰もが思うだろう。けれどそれを立ち切って声をかけられる人は優しさと強さを持つすてきな人だ。そんなすてきな人が増えれば、このまちはもつとすてきな良いまちになるだろう。私は、今まで生まれ育ったこのまちをもつと好きになりたい。だからもつと親切で愛情のあふれるまちにしていきたい。

佳作

「福島市民として。」

福島市立信陵中学校

清野 妃奈

親切にしてもらう、親切にする。だれでもそんな経験があると思います。福島市民憲章にも書いてある、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」これは、私達が生活していくなかで、とても大事だと思います。

私は今まで多くの人に親切にしてもらいました。いいことをして、ありがとうの言葉をもらえたときもありました。どれもいい思い出になっています。

まだ私が小さいころ、一つ年下のいとこと公園に行くことになりました。でも道がわからなくなってしまう、近くにいた人に道を尋ねました。その人はいそがしそうだったのですが、小さかった私でもわかるように教えてくれました。おかげで楽しく遊ぶことができました。

その他にも、毎朝登校を見守ってくれて

いた見守り会の皆さん、道の草をかってくれた人、雪かきしてくれた人。なにげないことでも、沢山の親切に囲まれて暮らしています。会うとあいさつをしてくれる近所の人だっています。あたりまえだと思うかもしれませんが、あいさつを返してこない大人も大勢います。あいさつや親切は、する方もされる方もうれしくなります。

小学校のとき、電話帳で市役所を探していたおばあさんに頼まれて、一緒に探したことがあります。見つかると、にっこり笑って「ありがとう。」と言ってくれました。そこまですごいことをしたわけでもないのに、とてもうれしくて、人と人のつながりのあたたかさがわかりました。

人と人のつながりはとても大切だと思います。「困った時はおたがいさま」という言葉があるように、助け合えるのはとてもすばらしいと思うからです。

小学六年の三学期、私はかぎを忘れて親が帰ってくるまで家に入れませんでした。すると、近所の人が、「お母さんが来るまで家にいていいよ。」と言い、家に入れてくれました。冬の寒い時期だったので、と

ても助かりました。

私のまわりだけでも優しい人がたくさんいます。そんなたくさんの「優しさ」をまわりの人達にわけあっていける、そんな優しいまちに福島市がなればいいな、と思います。私はまずは、自分の身のまわりのところから、少しずつ「親切で愛情あふれるまち」を作っていきたいです。

佳作

「良いまちをつくるには…」

福島市立信陵中学校

橋矢田 葵 依

私は、福島を親切で愛情あふれるまちにしていきたいです。理由は三つあります。

一つ目は、あいさつについてです。あいさつをすれば自分も、相手も心が軽くなり、元気になると思うからです。

私の家の近所のおばあさんにあった時に、私は、大きな声であいさつをすると、おばあさんが、元気でいいねと笑顔で言ってくれました。その時、私は、あいさつは、人の心をやさしくし、笑顔をつくってくれるのだと感じました。それから、どんな人にも、やさしく、笑顔で接してあげれば、このまちに笑顔が広がっていくのではないかと思います。

二つ目は、親切についてです。だれにでも親切にすることは、とても大切だと私は思います。自分が良いと思う人には親切にして、自分が苦手だと思う人には、良いと

思う人とは逆に、きびしくするのではなく、だれにでも平等に接して、親切にすることがこのまちを良くしていくための一つだと思います。

私が経験した親切は、小学一～二年生くらいの女の子が、電車でおばあさんに席をゆずってあげていたことです。おばあさんが手すりにつかまってつらそうな顔をしていた時に、おばあさんの前に座っていた女の子が、

「おばあさん、ここに座っていいよ。」

と言って、女の子が席を立ちました。すると、おばあさんは笑顔で、

「ありがとう、やさしいね。」

と言って座っていました。その子の親も、女の子のことをえらいねと言ってほめていました。その時、私は、あんなに幼いなおばあさんに席をゆずってあげて、しっかりとっていてえらいなあと思い、親切にするということは、人の心を笑顔にしてくれると感じました。どんなにやさしいことでも、人に親切にすることはとても大切なことだと思います。一人一人が誰にでも親切にしていけば、きっと、とてもいいまちができて

るのだと思います。

三つ目は、このまちの良いところ、悪いところを見つけることです。そして、一人が良いところはもつと良くする方法を見つけ、悪いところはどうしたら良くなるのかという改善方法を見つけていけば、このまちは、今よりも良くなるのではないかと思います。

例えば、公園に草などが生えていて使いづらくなったときは、草むしりをしたり、ゴミが落ちていたりしたときは、ゴミを拾い、ポスターを書いたり、自分にできることを見つけて実行すると、まちがきれいになって、良くなっていくと思います。

このまちを良いまちにしていくには、一人一人がやさしさや、親切さを持つことが大切だと思います。そして、努力をすることはムダにならないと思います。

佳作

「福の島」

福島市立北信中学校

藤田 結衣

「福島」私たちが住んでいるのは、「福の島」なのです。なんて幸せな名でしょうか。幼いころはそんなことは気づきませんでした。ですが、この「福島」がどんなに幸福で人々が優しいのかを、小学生だったあの日を境に知りました。

東日本大震災。あの日、私たち一年生は、小学一年生でした。毎日友達と花をつんで帰って、お父さんと川で魚をとって、いろんな公園で遊びました。「やろうとしなかった」というよりは、誰も「できなかった」のでしょうか。あの三月十一日を境に花をつむ子どもはいなくなり、川には放射線が高いため入らないでくださいという看板が立ち、公園、いやもう外にはあまり人はいませんでした。

もうもとの生活とはお別れだったのです。

ある日、私は仙台に避難しました。やりきれなかった気持ちを残して。帰ってきたのは三年生でした。嬉しい気持ちの反面、どこかどうせもとは戻れないのというさびしさもあったのです。

学校へ行くとなつかしい友達がいて、私を温かくむかえてくれました。

しかしやはり、もとどりには戻っていませんでした。でも、私がおどろいたことがあります。それは私と友達とのある会話です。「あれから、どうだった」「え、楽しかったよ、結衣ちゃんもいればよかったのに」そう、あの子は笑って言ったのです。辛いことも、苦しいこともあったはずなのに、みんな幸せそうで、私がなんだか、うらやましくなるほど、みんな強かったのです。

その後は稲作も始まり、果物もまた他県に売り出していくようになり、また新しい「福島」が走り出しました。他県からのたくさんの支援や応援をもらい復興が始まりました。今ではどうでしょう。もうあの日の前のようです。そしてまた新しいこともたくさん始まりました。

福島。日本では、あまり目立つ県ではありません。一時期は、「福島のひとと一緒のバスには乗りたくない」と私の親せきが言われたこともありました。

ただ、地震が来ただけなのに。

でもそんな思いをかかえて、福島の人は立ち上がりました。それは、強い強い出来事でした。

「福の島」それは、人々があつての幸福の島。「福の島」それは、私たちの生きた印の、「福島」なのです。

佳作

「みんなが楽しく過ごせる町」

福島市立北信中学校

佐藤 香織

最近、ニュース等で「少子高齢化」という言葉を耳にします。少子高齢化が進んでいるなか、私達子供は、お年寄りの方と交流ができていますか。また、そういった時、優しく接することができているでしょうか。

私が住んでいる地区では、子供とお年寄りが交流するためのちよつとしたイベントなどを行うことで、世代が違う人とも仲を深められるようにしています。例えば、花見やグランドゴルフ大会などの、幼い子供からお年寄りまで、幅広い世代で楽しめるイベントを開き、世代が違う人を同じグループにすることで、自然と会話ができ、仲が深まりました。

さらに、そのことにより、お年寄りの方と小学生や幼稚園生の子が、ふだんの生活の中で、自然と笑顔であいさつを交わせる

ようになったり、お年寄りの方が、登校時に見守っていてくださったりと変わってきました。

これは、市民憲章の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」の実践になっていると思います。

さらに、おたがいに顔見知りになると、自然と親しみを持つようになると思います。これは、「親切で愛情あふれるまち」をつくることにもつながっていくと思います。

このように、市民憲章の一つ一つを、毎日の生活のなかに生かしていくことができればもともともと、住みよい福島市になると思います。

これから先、私たちが大人になったところには、さらに少子高齢化が進み、今よりも深刻化しているかもしれない、と私は思うことがあります。

そのような社会では、お年寄りが一人で暮らしたり、周りの人が、病气やケガに気付けなかったり、ひどい時には孤独死してしまうかもしれません。

今、子供の私が、大人の人達からいろん

なことを学び、成長することで、周りの人達との関わり方も変わっていくと思います。

将来の私は、今、大人の人達から学んでいるように、自分より小さな子達に、きまりを守り、力を合わせて、楽しく働くように教えているかもしれません。

あるいは、空も水もきれいな、緑のまちをつくるために、活動しているかもしれません。

私には、将来の夢があります。

友達と話をしていて、その友達にも夢があることを知っています。そして、話をしたこともないような、他の学校に通っている中学生も夢を持っていると思います。そのみんなが、市民憲章にあるような気持ちを持って生活していれば、きっと、すてきな福島市を実現できると思います。

そして、そんな市なら「少子高齢化」もこわくはないはずです。

佳作

『福島市民憲章』について

福島市立松陵中学校

佐藤 真白

私は、「福島市民憲章」を読んで、私が生活している中で、憲章が生かされていることと、十分に生かされていないことがあるのではないかと感じました。生かされていると思うことは三つ。生かされていないと思うことは二つあります。

まず、空も水もきれいなみどりのまちをつくる、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくる、親切で愛情あふれるまちをつくるという三つの憲章に関しては十分に生かされていると思います。なぜかというところ、福島市は本当に空も水もきれいで、特に水はとてもおいしいと思います。それに、緑が豊かで、駅周辺に行っても木がたくさんあり、生活する上での利便さだけを追及していないところが福島市の良さだと思います。そして、文化に関しても福島市の良さが見られます。例えば、わらじ祭りは昔か

ら受けつがれている祭りで、毎年盛大に行われています。さらに、「ダンシングソーダナイト」などの現代の文化も積極的に取り入れられています。このように昔からの文化をしつかりと尊重しつつ、現代の文化も取り入れることで、昔の文化・現代の文化にあふれたまちになってきていると思います。私が一番憲章が生かされていると思うことは、何といても親切な人が多いということです。親切で優しい人が多いのが福島市の最大の良さだと感じています。落とし物を拾うとすぐに交番に届けたりするのを見ても、福島市はとてもすてきなまちだと思います。

でも、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくる、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるという二つはまだまだ達成されていないと思います。なぜかというところ、あい変わらず、交通事故が多発しているからです。交通事故が起きるといことは、みんながきまりを守っていない、安全なまちをつくれっていないということではないでしょうか。私はもっと、市民みんなが協力して福島をつくって

いかなければならないと思います。そのためには、まず一人一人が自分たちのためにできることを始めることが大切です。一人一人ができることは様々ですが、一人の努力はいつかみんなのためになり、みんなの努力はいつか福島市のためになるはずで、す。いつか本当に福であふれたまちになるように、みんなで協力し合って生活することを大切にして行かなければならないと思います。

佳作

「震災で分かったこと」

福島市立平野中学校

中村 美結

我が家は農業をやっていて、毎年たくさん
の果物が収穫されます。母達が一つ一つ
心をこめて育てた果物は、私も大好きです。

しかし、五年前の東日本大震災による放
射線の影響で、果物も食べる事ができな
くなってしまいました。普通は毎年秋にな
ると、県外から電話の注文がたくさんあつ
た梨ですが、その年は注文が減り、売行が
あまりよくありませんでした。その他、り
んごやさくらんぼ、桃も同じでした。

農業だけではなく、断水の被害もありま
した。食事の時は牛乳やジュースで我慢
していましたが、いつまで持つのか分から
なかったのが、近所の人の井戸から水を分
けてもらって、バケツに水をくんで一つ一
つ運びました。その時私は、水はこんなに
大切に生活に欠かせないものなのだという
ことを知りました。そして、私の身近な地

域には、こんなに親切で優しい人がいるの
だなあといい、人との関わり大切さが分
かりました。

そんな不便な生活の中、三月十三日の祖
父の誕生日では、冷凍庫の中にあつたご飯
と昨日の残り物、冷蔵庫にあつた食べ物で、
母は料理をつくってくれました。祖父の好
きなまんじゅうをデザートの変わりにした
り、ご飯を小さく丸めたものをいくつもつ
くって黄な粉につけて食べたりしたのを覚
えています。その時の味は、いつも家族と
食べていた時よりもなぜかおいしかったで
す。その後も、皆で誕生日の歌を歌ってお
祝いしました。震災が起きたことも忘れて、
盛り上がっていました。材料が限られてい
る中、あんなにおいしい料理をつくってく
れた母は、素晴らしいと思いました。

このように、震災で私は、親はこんなに
家族のためを思つて苦労しているというこ
とが分かりました。そして私は、少しでも
恩返しができたらと思ひ、暇があれば手伝
いをしてあげています。そして、親切で愛
情のあふれる地域づくりに将来取り組んで
いこうと思いました。同じ福島市に住んで

いる人同士、困っている時は助け合い、お
互い励まし合う仲間として、少しでもでき
るようなことがあれば、私も手を貸してあ
げようと思いました。

これからは、震災の時にお世話になつた
人達のためになることを、少しずつしてい
こうと思いました。そして、農家としてこ
れからも毎年おいしい果物が収穫できるよ
う努力したいです。

震災で新たに気づいた、福島市の自然、
人々の思いやり、そして愛情で包まれ成長
してきた私たち。これからの福島市をせお
つていく人間の一人として、感謝の気持ち
を忘れず、精一杯頑張っていこうと思いま
す。

「福島を良くするために」

福島市立福島第二中学校

安 齋 智 香

私の住んでいる福島市。そこはとても良い所だと思う。そんな福島市に憲章があることを初めて知った。この「福島市民憲章」を私たち市民が守っていけば、福島市はもっと良い町になると思う。

私の家の近くにあるはらい川は、すき通った水が流れているとてもきれいな川だ。そんなきれいな川にある日ごみが落ちていた。びっくりした。こんなにきれいな川にごみを捨てようとした人の気持ちは私には分からない。川にごみを捨てた人がいるから、市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」と、いう憲章は守れていない。ごみを捨てる人は川にごみを捨ててはいけなことを知らないのだろうか。川にごみを捨てたら川がたちまち汚くなり、生き物もいなくなるだろう。私がおまごみを拾えば良かった。福島市をき

れいな町にするには、私達市民一人一人がごみを捨てずごみを拾えるようになればいいだろう。

福島市では八月に二十三件も交通事故が発生している。憲章には「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」というのがあるが、交通事故が二十三件も発生していれば決して安全な町とは言えない。福島市は道にカーブミラーがあつたり信号があつたり安全な道ばかりだ。また、通学路には見守り隊のボランティアの方がいる。こんなに安全な町で今年の八月は多くの事故がなぜ発生しているのだろうか。市民全員が交通ルールを守っていけば事故は起こらないはずだ。

私の身の回りには、やさしい人がたくさんいる。私の住んでいる杜宅の人は会うとほとんどの人があいさつをしてくれる。近所のおじさんは登下校中に声をかけてくれる。私がランニングをしていたら近所のおばさんが声をかけてくれた。私は、たくさんの人に支えられて暮らしているのだ。みんなもそうなのではないのだろうか。町を歩くといろんな人が、いろんな人と楽しそ

うに話している。だから、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という憲章は守れているのではないだろうか。これからは人とのつながりを大切にして、人に親切にしていきたいと思う。

福島には、私のように憲章を知らなかった人がいると思う。私達市民は、福島の人として、憲章をきちんと知ることが大事だと思う。その憲章を、私達市民一人一人が頭に入れて生活していけば、福島はどの都道府県の市よりも、すてきな町になると思う。私も、憲章を守るために、川などの自然の中にごみを落とさないようにしたり、あいさつを進んだり、きまりを守ったりして、できることから、福島市を、良い町にしていきたい。そして、みんなが福島を好きになればいいと思う。

「福島市民憲章への思い」

福島市立福島第二中学校

安部 萌瑛

私は、初めて聞く、市民憲章という言葉の意味を正しく知りたいと思い、ネットで調べてみました。そこには、「市民憲章とは、一つの自治体に住む住民が、たがいに横のつながりをもつて、良い生活を築こうという考えを表したものです。市民として誇りを持ち、みずから作った環境に責任を感じ、その文化遺産を尊重し、継承するという市民の合意や約束、願いを表したものです。」と示されていました。そして、福島市民憲章には、次のように書かれていました。

一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。私はきれいなまちにするには、ポイ捨て（たばこ、空き缶、つばをはくなどの行為）が、まちをよこしている事だと認識して、ポイ捨てをする人が減ると良いなと思います。

二、教育と文化を尊び希望に輝くまちを

つくりましょう。私達子どもが、学校の教育をしつかり受け、伝統文化の行事に参加する事で、発見できる事があると思います。また、多くの大人自身が、文化にふれ合い、互いにコミュニケーションをとる機会がある事は希望を互いに見出す機会になるのかもしれません。

三、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。福島市民が、困っている人が互いに助け合つて、小さな事でも協力したら良いと思います。親切な心を持ち、愛情あふれるまちにする事ができれば、こどくで寂しい思いをしている人を救出したりする事ができると思います。

四、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。ここでいう「きまり」とは、みんなが気持ち良く生活するのに必要なきまりの事だと思っています。一人一人がしつかりきまりを守り、笑い合いながら働ける事が良いなと思いました。

五、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。毎日安全に過ごし、健康に過ごすには、まず、大人の見本となる行動が大切だと思います。交通安全

全をはじめとし、家の中、施設の中の安全を大人と子どもの視点から見直していく事が大切なのだと思います。

このようなさまざまな事を福島市民が意識し、大切にしていけばすてきなまち、福島市になると思いました。全てを実行する事は難しいと思います。小さい事から始めていけば良いと思います。私と私の家族は、福島市民でありながら市民憲章の存在を知りませんでした。今回家族と一つ一つの意味を考える良い機会になりました。ただ、母は福島市の経済がもつと発展して、活気ある福島市を求めているようです。しかし私は犯罪が少ないまちが一番の理想だと思います。自分にも何が福島市民としてできるか考えて行きたいです。

「親切であふれるまちへ」

福島市立福島第二中学校

須藤 由佑緋

私は、小学校のころから思っていることがあります。それは、私のクラスの友達が高齢者の方々に對して親切で優しいというところです。学校帰りに、荷物が重そうな高齢者の方を見かけたら、すぐに声をかけてあげている友達を見ながら、とても親切だなと思いました。それから、私も、バスで混んでいる時などは、席が空いたとしても、高齢者の方や他の人へ譲るように心がけています。しかし、友達のような親切で優しい人がたくさんいるわけではありません。例えば、電車で、混雑している時、高齢者の方々が立っただけでも譲ろうとしない人達があります。そのような人達を見ると、とても良い気持ちにはなれません。だから、もう少しだけ、気づかってあげればなと思います。また、一つの集団で、道を塞いでいる人達もいます。高齢者の方だ

けではなく、通行人にも邪魔になってしまっています。だから、一人でも邪魔していると気づいたら注意して、もうやらないようにしてほしいと思います。昨年に、老人ホームへ行って、高齢者の方と交流をしました。そこには、あまり耳の聞こえない方がたくさんいて、看護をしている人から教わったことが二つあります。一つ目は、相手と目の高さを同じにすることです。立ったままだと、視線が上からでこわい印象になってしまったり、声が聞き取りにくくなってしまいます。だけど、目の高さを合わせることで、話しやすくなり、さらに、もっと相手との交流を深めることができます。二つ目は、話す相手の目を見て、笑顔で、うなずきながら聞いてあげることです。そうすることです、話す相手がとても安心して話することができて、笑顔が増えます。私は、常に笑顔でうなずきながら話しました。すると、とても楽しそうにお話してくださったので、私自身、とてもうれしかったです。また、

「学校では、何が楽しいですか。」と聞かれ、最近の学校行事などを話してい

る時、うなずいて話を聞いてくださって、とても気持ちが良くなり、うれしくなりました。

このように、高齢者の方々は、私達にとって、かけがえのない存在です。そこで、困っていたりしたときには、助けてあげて、自分達が困らせたりしていたときには、十分に反省して、もう困らせたりしないような人になってほしいです。この福島市が、そんな人達であふれるようなまちになってほしいと思います。

「よりよい福島のまちづくり」

福島市立福島第二中学校

小野 嵩斗

僕は、福島市民憲章を読んで自分にもできることがないかさがしてみました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」では、空をきれいにするために二酸化炭素をできるだけ少なくすることです。これは、みどりの町をつくることにも関係することなので特に大事なところ です。水をきれいにするために、食事をした後の皿洗いでは、皿についた油をふいてから水で洗うなどして汚れをできるだけ流さないようにしたいです。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」では、「希望に輝くまち」を中心にがんばりたいです。どんなことがあっても、希望を失わないまちにすることです。大震災も希望があったからこそ乗り越えられたことだと思うので、次もきっと大丈夫だと思います。

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」では、親切なまちをつくるためにみんなが助け合っているようなまちにしたいです。身の周りでも困っている人がいたら助けてあげたいです。愛情あふれるまちづくりでは、自分ができることは少ないかもしれませんが、その少ない中でもできることをやっていきたいです。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」では、きまりを守るところでは周りの人がきまりをやぶったりしていたら注意して、もちろん自分も気をつけたいです。力をあわせるところは、クラスや学年、学校全体で何かを行うときにみんなと力を合わせてがんばりたいです。学校以外でも町の行事などで取り組んでみたいです。楽しく働けるまちでは、まだ就職していませんが仕事についてならそんな働き方ができるといいです。

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」では、安全なまちにするために周りのことを考えて行動し、自転車に乗っているときも交通ルールを守り歩いている人や車に今よりも気をつ

けていきたいと思います。健康なまちでは、冬にインフルエンザなどにかからないよう、家に帰ったら最初に手洗い・うがいをして予防をしたいです。

これらの自分でできることを初めは少しずつでもがんばって取り組んでいきたいと思います。よりよい福島をつくるためにがんばりたいです。

「福島市民憲章を読んで」

福島市立福島第二中学校

菅野 文 碧

私は初めて福島市民憲章を読みました。

そこで、私はこの市民憲章を守るためにいくつかの意見を考えました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」については、川のゴミ拾いを積極的に呼びかけたり、近い場所へ行く場合は、徒歩や自転車を利用したり、バスや電車などを利用することがCO₂の削減をしてきれいな空を保つために必要だと思います。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」では、福島市音楽堂を利用し、県の音楽団体や、他県からの音楽団体を招待して、市民が音楽に携わる機会をつくるのが音楽を身近に感じるとともに、市の活性化にもつながると思います。また福島の文化を小・中学生に伝え、守っていくことが必要だと思います。

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」については、あいさつが一番大切だと思います。特に朝のあいさつは、自分と相手が一日を気持ち良く過ごしていくために、必要だと思うからです。それに、あいさつをすることによって人との親しみを得て、市全体の雰囲気がいよいよ良い方向に行くのも理由の一つです。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」については、みんながマナーを守って助け合いながらより良い市をつくるのが大切だと思います。

最後に、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」についてですが、小学生の時私が入学してから卒業するまでの六年間、毎日同じ交差点に立ち私たちの登下校を見守ってくれたおじいさんやおばあさんがいました。その方々は、一日も欠かすことなく交差点に立っていました。いま思うとその方々は生きがいを持ち、健康に過ごしていたからこそ、暑い日も、寒い日も、雨の日も、雪の日もずっと私達を見守ってくれていたんだと思います。

ます。

その方々のように、健康で生きがいを持つことが楽しい毎日を送るために大切だと思います。

この福島市民憲章について考えてみて市民が自然と文化、そして人々を肯定し合う場所、それが福島だということを改めて感じ、改めて誇りに思いました。

これからは、私達が福島市をもっともつと住みやすい町にしていきたいです。

「『福島市民憲章』を知って」

福島市立福島第二中学校

千葉 桜子

福島市に生まれて、十二年も経ちました。この福島市に「福島市民憲章」があったということを初めて知って、びっくりしました。

私の家庭にもきまりがあります。家庭が快い生活ができるようなきまりです。学校にも校則があります。みんなが安全で豊かに学校生活を送るためです。日本の国には憲法があります。平和に安全に生きていくためのものです。この夏休みに宿題で出されて、知るきっかけになり良かったと思います。

市民憲章を読むと、なるほどと思い、とても良い内容だなあと思いました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」は、あたり前のことですが、水も空気も気をつけないと、すぐ汚れます。常に努力をしなければなりません。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」については、福島市は教育と文化を大切にしてい、みんなが輝くように後押ししていると思います。福島市民がみんなで作っていかねばなりません。

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」については、愛情は生きるための基本だと思っています。みんなが愛情と親切な心でまちを作らねばなりません。そうすれば、とても素敵なまちになります。一人ひとりが優しい心を持つことが大切だと思います。

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」については、きまりを守ることが、楽しく働くためには必要です。一人ひとりの心がけが大切だと思います。

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」については、生きるためには、安全で健康でなければいけません。福島市では、赤ちゃん検診や予防注射、学校では内科検診、大人やおとしよりは市民検診を受けています。先日、祖母が病院で市民検診を受けてきたと言って

いました。検診は、病気の早期発見にはとても重要だそうです。だから福島では、市政だよりで、みんなが検診を受けるように宣伝しているのだと思います。

この五つの福島市民憲章は、福島市民全員にわかるように難しい言葉を使っていないし、漢字もあまり使っていないし、わかりやすいと思います。全部の文章の最後に「つくりましょう」という言葉がついています。これは、現在も未来も福島市民一人ひとりがつくっていかねばいけないと思います。わかりやすい文章ですが、実行するのは難しいなあとと思います。努力が必要だと思います。

今回、市民憲章を知ることができたので、多くの人に広めていきたいと思っています。

「福島のきれいな町づくり」

福島市立福島第二中学校

佐藤 優 隼

みなさん、福島の町は、どう思いますか。ぼくは、みどりが広がるきれいな町だと思います。でも、川や道路などにごみが落ちているところもみかけます。そういうところでは、一人一人がなおさなければいけません。

福島県いわき市では、秋にいわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動というボランティア活動が行われているそうです。紙くずや空き缶、ビン類の回収、除草などを約一時間にわたって行いました。こういうボランティア活動があると、町がどんどんきれいになっていきます。

他の町でも、ふくしま・グリーンフォレターの会というのも行われています。活動内容は、森にふれる活動として自然の大切さを教えてくれる活動です。ごみなどを捨てないように呼びかけをするきっかけにも

なっているのを気をつける人も増えてくると思います。

そして、きれいなみどりの町をつくるには、外だけでは、なくて中もきれいにするということがとても大切だと思います。例えば、みなさんがいつも使っているトイレなどは特にすぐ汚れてしまうときがあります。ぼくは、この前、学校で長い時間トイレ掃除を行いました。最初は、汚くて少しいやな気持ちもありましたが、こういう環境に関わっていくというのはとても大事なことでと思います。トイレ掃除が終わったときには、心もトイレもすっきりしてきれいになった気がしました。自分が何かをきれいにするという体験が福島の町をきれいになるということに自信を持てたきっかけになりました。トイレ以外にも、廊下、窓、階段などさまざまなところをきれいにすることが出来ます。みなさんも、汚いかいやだかと思うときこそがんばってやれば必ず良いことがあるし、自分も良い気持ちになります。このように福島は、みどりの町をつくるためにいろいろなところでボランティア活動が行われています。ぼくは、

このことを知ってとても感動しました。ほかにもこういうことが一部だけが行うのではなく、福島市民全員が、取り組んでいけるように呼びかけをしてみたいと思いました。し、道路や川に落ちている空き缶、ビン類などの多くのごみを積極的に拾えるようになります。まず、「拾う」ということから「捨てない」という意識をもつことがとても大切ですね。こういう小さいことから町づくりにはげむと、とても良いと思います。

さあ、これを機に、空も水もみどりもきれいな、希望に輝く誇りの持てる福島をみんなで作っていきましょう。この作文を通じて多くの人に福島の大切さを知ってもらえたらとても光栄です。

「一人一人の意識が」

福島市立福島第二中学校

鹿野 葉那子

福島市民憲章、それは私達福島市民全ての幸せと福島の限らない発展、快適で明るく住みよいまちづくり、この三点を重視し私達のために制定されました。現在の私達は、市民憲章にふさわしい生活、行動、まちづくりをしているのか、見直していきたいと思います。

福島市には信夫山、抜川、吾妻山と豊かな自然が身近に存在しています。信夫山は、まちの中に存在する山なので子どもからおとしよりまでが足を運びます。ですが周りを見るとタバコの吸いガラやペットボトル等が目につきます。これでは、子どもからおとしよりまでが安全にとはいえなくなっています。

抜川ではどうでしょうか。水といっしょに紙やペットボトルが流れてきます。ここでも空も水もきれいとはいえませんが、

吾妻山はどうでしょうか。吾妻小富士には観光客が気軽に立ち寄ることのできるスポットもあります。周りを見てみるとゴミが目につきます。ですが、この山の上でしか見ることのできない絶景や植物を見ることができました。

生活面に観点を置いてみましょう。今のような季節はエアコンやせん風機等の電化製品を多く利用してしまいがちです。これでは空も水もみどりも汚すまちづくりをしてしまっています。そして人と人との関わりです。何か困っている時に親切にしてくれる人してくれない人。自分の職場のきまりを守らなかつたり協力せずに自分のことだけをやってしまう人。話しかけてあげたいけれど知らない人だからと遠慮してしまう人。

ではこの問題をどのように改善していけばよいかを考えました。まず自然と人との関わり方の改善法です。ゴミが目につくという問題点にはペットボトルではなく、水筒に飲み物を入れる、またペットボトルならマイバックに入れ、空になったらそのまま家に持ち帰るという風にすることを提案

します。また、暑い日に電化製品の使用量を減らすために、レースカーテンだけしめたりグリーンカーテンをつけたりするなどの日当たりを少なくすることもいいと思います。

私達は、今のことを考えて生活してしまっています。例えば今から持つて歩くのにじゃまだから捨てようと思ったり、自分一人ぐらいという感じです。ですから、自分一人ではなく一人一人の意識が今よりもよりよい生活を送ることが出来る福島へと進歩していくのではないのでしょうか。今ではなく未来の人、自然、世の中までを考え、実行することが素晴らしい福島をつくっていくのだと、私は考えます。

「より良い福島市にするために」

福島市立福島第二中学校

佐藤 優介

ぼくはこの福島市民憲章を読んで福島市の良いところについて考えました。

一つ目はたくさん自然があるところです。福島市のシンボルの信夫山を始め、たくさんの自然が福島市にあります。ぼくは信夫山の近くに住んでいるため、子供の頃から信夫山で遊び信夫山を見て、四季を感じてきました。自然と共存することができるとことは福島市の良いところだと思います。

二つ目は、おいしい果物や野菜がたくさん採れるところです。ぼくは、福島市が産地の桃を毎年食べています。福島市で採れた桃は他のどこの桃よりもおいしいと思います。

四季によっていろいろな変化を見せてくれる信夫山。とても新鮮でおいしい果物や野菜。福島市の自然や食はぼくたちに「な

ごみ」を与えてくれています。そのように、良いところがたくさんある福島市をより良くするためにどうすればよいかについても自分なりに考えてみました。

ぼくはまず、福島市民が「福島市の良さを再認識すること」が大切だと思いました。福島市は、忘れることのできない震災があり、信夫山で遊ぶこともできなくなり、農産物も売れなくなりました。でも、福島市は復興に向かって頑張っています。福島市民が福島市の良さを再認識すること、そしてアピールすることで福島市の良さが広がっていく、温かみのある福島市を作り上げることができないかと思いました。

また、ぼくは「地域内のボランティア活動の充実」も必要だと思います。例えば、落ちているゴミを拾い町をきれいにする清掃活動などです。町への優しさをたくさんの人で行えば町をより優しさと活気であふれさせることができると思います。

ぼくは、この福島市民憲章の一つ一つを読み、福島市の未来について考える人が増えれば良いと思いました。自然を大切にしてい、空も水もきれいな福島市をつくるこ

と。自分から積極的に学習をし、福島市の文化にふれ希望を持つこと。誰に対しても親切にして、愛情を深めること。きまりについてよく考え、力を合わせて仕事をしようという意思を持つこと。子供やお年寄りを大切にしようという心を持つこと。福島市の良さを生かし、より良い福島市を作るための活動を積極的に自分から行い、たくさんの人に福島市の良さを伝えていきたいです。

「福島市民の暮らし」

福島市立福島第二中学校

平澤 侑大

僕たちは、自然豊かで文化などたくさん
の思いがある福島市に暮らしています。な
ぜ豊かで楽しい暮らしができるのだろうと
思いました。豊かな暮らしが出来るわけは
福島市民憲章という市で考えている市民が
幸せに生活できるようにするための憲章で
す。

僕が思う五つの考えを書きます。

一つ目は、空も水もきれいなみどりのま
ちをつくるという憲章です。福島市はとて
も自然豊かな場所だと思います。福島市に
は、水がきれいな大きな川があり空も快晴
の日が多くて気持ちがいい場所です。

二つ目は、教育と文化を尊び希望に輝く
まちをつくらうという憲章です。教育では、
みんなが楽しく元気に学習することが出来
ていると思います。文化では、古閑裕而さ
んなどが活やくされてとても歴史と文化が

あると思います。またいろいろな考えを持
つことができ希望に輝けるような福島市だ
と思います。

三つ目は、親切で愛情あふれるまちをつ
くらうという憲章です。地域の方や近所の
人などとても親切です。だれかが困ったら
地域の人が助けてくれるということとはとて
も大切です。福島市の人は親切で愛情あふ
れるまちだと思います。

四つ目は、きまりを守り、力をあわせて
楽しく働けるまちをつくらうという憲章で
す。僕が思ったことは、東日本大しん災の
時に水道が断水になってしまいました。朝
から水をもらいに行きました。その時にも
大切なきまり事がありました。一人が持つ
て行っている量がきまっていました。みん
な大変だと思いました。きまり事をしっか
りと守って生活していたことが福島市はす
ごいと思いました。また、困っている人に
水を渡している姿も親切だと思いました。
あたり前のことをあたり前に出来ることが
大切だと思うのできまり事はしっかり守れ
ていると思います。そしてみんな協力し
て活動することも多く一人一人が楽しく働

いたり、生活できていると思います。

五つ目は、子どもからおとしよりまで安
全で健康なまちをつくらうという憲章で
す。

僕のおじいちゃんも施設で生活していま
す。安全な所で健康に生活出来ていると思
います。福島市でもたくさんの方を工夫して
安全に生活できるようにしていることはす
ごいと思いました。

最後に僕が思ったことは、福島市民とし
て憲章を心がけて、幸せにまた安全に生活
できるようにしていきたいということです。

「きれいな町づくり」

福島市立福島第三中学校

菅野 陽菜

私が選んだテーマは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。私は、このテーマについてきれいな緑の町をつくるにはみんなで協力することが一番大切だと考えました。

このテーマに関連する実体験があります。それは私が小学生の時のお話です。私の家の近くには小さい公園がありました。そこには毎日たくさんの人が来ていました。あまり遊具もなく古い公園ですけどそのすぐ隣に駄菓子屋があつてそこでお菓子を買って公園に集まっていました。その人達はなぜかゴミを持ち帰らずポイ捨てしていました。みんなでポイ捨てしているのでゴミは公園にたくさん落ちていました。私も以前は「なぜゴミを持ち帰らないのだろう。」と思つていたけど注意はできませんでした。ある日、私は友達に「遊ぼう。」

と誘われました。場所はその公園でした。私も駄菓子屋でお菓子を買って公園で食べました。友達は当たり前のようにポイ捨てしていました。私はその時も注意はできなかったけどさすがにポイ捨てはしませんでした。でも、また友達に誘われて公園に行くことになりました。その日もお菓子を買って公園で食べることになりました。友達はその日もポイ捨てしていました。みんなでポイ捨てしているので私もいいかなと思つてポイ捨てしてしまいました。それからポイ捨てをしているうちに、「誰も困らないし、いいかな。」と思つてしまうようになつていました。そんなある日、近所でゴミ拾いがありました。同じ地区の親たちが私達が散らかしたゴミを拾っているのを見て悪いなという気がしてきました。誰にも迷惑はかかっていないと思つていたけど、誰かが苦勞しているのを知りました。それから私はポイ捨てをしないようにしました。他の人がやっているのも注意しようと思うようになりました。

この実体験をふまえて、みんなが当たり前

なので当たり前前の事は当たり前前にやろうと思ひました。それから私は緑の委員会に入りました。自分の住んでいる町をきれいにして、緑を増やすという活動です。緑を増やすための募金活動や、花を植えたり楽しく楽しくてやりがいのある仕事で楽しかったです。自分の住んでいる町を汚すのではなく、きれいにしていきたいです。

「事故をなくそう。」

福島市立福島第三中学校

北 沢 碧

僕は、最近のテレビなどで、事故についてのニュースをよく目にします。このニュースを見て僕は、なぜ事故は起きるのだろうかと思いました。

僕はある日、前から来た自転車とぶつかりそうになりました。その日は、友達と学校から自転車で下校をしていました。僕たちはいつも人通りの少ない暗い道を帰っていました。その日はいつもより暗く自転車のライトと、街灯の明かりを頼りに進んでいました。僕は早く帰りたいと思い、スピードをどんどん上げていきました。すると友達もスピードを上げ、いつのまにか競走のようになっていました。しばらくすると曲がり角が見えてきました。友達は危ないと思ったのかスピードを下げて、さらに僕に「止まれ。」と言っていました。しかし僕は止まらずそのままのスピードで曲がり

ました。すると前からキーンと音がしたので見てみると、前から来ていた自転車が急ブレーキをかけていました。僕もブレーキをかけ間一髪の所で衝突はしませんでした。しかし、ブレーキをかけながら前の自転車を避けたので僕は転倒してしまいました。ブレーキでスピードを落としていたので、怪我はしませんでした。本当に危ないと思いました。

僕はこの体験をふまえ、次の二つの事を学びました。一つは、スピードを出し過ぎないという事です。元々、僕があの時スピードを上げていなければ、あの状況にはならなかったのです。安全に自転車で移動をするためには、スピードを上げ過ぎない事が大事という事を学びました。もう一つは「急がば回れ」という事です。僕と友達は近道をするために人通りの少ない暗い道を帰っていました。でもそこで、近道をせずに車の通りが多く、明るい道を帰れば人と衝突することを未然に防ぐことができると思いました。この事から「急がば回れ」という事を学びました。

これから僕は、今取り上げた二つの事を

意識して、行動していきたいです。また、周りの友達などのいろんな人にも、僕が体験したこと、そこから学んだ事などを伝え、事故などを未然に防ぐ方法などを考え、そして呼びかけなどをして、周りと協力して福島市から事故などがなくなるように努力していきたいです。

「自然に優しい生活を」

福島市立福島第三中学校

松 浦 花 音

私は、自転車で学校に通っています。登校中、必ず視界に入るのは颯爽と生い茂る木々と、澄んだ水色をした青空です。この美しい景色をいつまでも見続けるために、私たちに出来ることは何があるのでしょうか。

私が小学四年生のときの学活で、昔からあるビオトープを私たちで作り直すことになりました。原因はビオトープの水が災害により汚染されてしまい、ビオトープの生き物が減少してしまったからです。その話を聞き、私たちはすぐ行動を始めました。始めはビオトープに敷き詰める土のう作りです。校庭に積んである土をざらざらとした袋にスコップで入れていきます。何袋も作らないといけないので昼休みも土のうを作っていました。土のうを作り終わったら、ビオトープに運んで敷き詰めなければなら

ないのですが、当時の私たちには重すぎたので卒業生の兄と兄の友だちに手伝ってもらいました。ビオトープに土のうを敷きつめたら、ビオトープのすぐ隣にある手押しポンプで水を張ります。手押しポンプは意外に力があるので交代交代でなんとかビオトープに水を張りました。これであとは植物が育って、また生き物たちが増えるのを待つだけでした。三年たった今では、植物も育ち、生き物もたくさん住むようになっていました。

私は、自分たちでビオトープを作ってみて、普段何気なく見ている自然についての考えが変わりました。今までは自然なんてただ木を植えていればいいんだ、などと考えていました。が、いざ私がビオトープを作ろうとすると、絶対自分一人ではできないこともたくさんあったし、色々と気を使わなければいけませんでした。それからの私は、登校中視界に入る自然も、たくさんの人が、一生懸命考えて、たくさんの方の失敗をのりこえて作られたものだと思うようになりました。だからこそ、私たちは少しでも自然に優しい生活を心がけるようにしな

ければなりません。例えば、茶わん一杯ほどのゴミを川に流すだけで、約三百リットルの水が汚染されてしまいます。逆に考えると、川にゴミを捨てる人が一人でも減れば何百リットルの水が汚染されなくて済む、ということですね。もちろん、川だけでなく自然環境に影響を与えてしまう場所もあります。もちろん、家庭などで、生ゴミなどもそうです。多いのが、食事で食べ切れなかったのを捨てるです。でも、残したら取っておけばいいし、生ものなどは、食べられる量だけを買えばいいと思います。これからの日本の自然環境を良くするためには、一人一人が少しでも自然に優しい生活を心がけることが大切だと私は思いました。

「町を変えること」

福島市立福島第三中学校

佐藤のあ

「きまり」というものがある理由を考えたことがあるだろうか。わたしは、今まで、きまりを守るのは面倒、もっと自由に生活したいと思っていた。なぜなら、きまりがないという世界を考えたことがなかったから。

小学校五年生のある日、わたしは、廊下を歩いていたら、壁にはあったポスターがふと目にとまった。「廊下は右側を歩きましょう」という呼びかけのポスター。いつも見ているポスターだ。これもきまり。わたしはそのまま歩いていった。角を曲がった時、走ってきた五年生の男の子とぶつかった。

「ごめん。」

この時は、「ごめん」の一言ですんだ。わたしは考えてみた。もしこれが、ごめんなんかじゃすまない、取り返しのつかないこ

とになったらどうなるんだろう。

こんなことを考えて思ったことがある。それは、きまりがある意味。きまりというものとは小さなことから大きなことまで幅広いものだが、日常生活にたくさんある。例えば、ごみの分別。これは誰もがやることだろう。リサイクルをしたり、燃やしやすいものと分別をする意味を考えれば、なぜ分別するかが分かる。このようにきまりには全て意味がある。逆にいえば、意味のないきまりなんて、つくる必要がない。小さなきまりでも、守らなければ、大きな問題につながる可能性だってある。わたしがぶつかってしまったことだって、もっと強くぶつかってしまったら、けがをしてしまうことだって充分に有り得る。きまりを守らないことは、けがに限ったことではない。よく「飲食禁止」というものを見たことはないだろうか。わたしは部活で会場に行った時に見かけることがある。他にも、行事でのきまり、場所でのきまり、きまりなんて探そうとすれば、いくらでも見つかる。そのきまりをみんなが守っているから今の生活がある。きまりがない世界を考えてみ

よう。学校には、けが人続出、生徒の服装は乱れっぱなし。今のうちに、安全な整った生活ではないだろう。きまりがあっても、守っていない人だって中にはいる。その人達が、きまりを守れば、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」という町づくりに近いものではないだろうか。一人一人が小さな事から、良い町づくりのために行っていけば、一歩ずつ一歩ずつ今より良い町になっていくと思う。わたし達の、小さな気持ちで町を変えていくことを忘れないで、これからの生活を送りたい。わたしの、あの小さな経験が、町を考えることにつながったということがわたしを大きく変えたと思う。町を変えることはとても大きな事かと思うけれど、少しずつ変えようと思えば、いずれ、町は変わることをわたしは忘れない。

「小さなことから……」

福島市立福島第三中学校

齋藤 夏希

「きれいなまち」と聞くと「もう、きれいじゃん。」「人が多いのにどうやってきれいにするの?。」などと思う人もいるかもしれません。しかし、そのような理由があるからこそ、きれいにしていく必要があるのではないかと考えました。少しずつちよつとした事から初めようとする気持ちがあれば「きれい」という言葉に感して共感し、すでに、きれいなまちへと進んでいるのだと思います。

私は、ある事をきっかけにこのような事を考えられるようになったのです。日頃から、ボランティア活動などに積極的に参加をし、市の自然環境を保つたりしている方々の姿を見かけたのがきっかけでした。自分たちから「市の自然を守りたい」という気持ちがあるかないかで、きれいな市ができていくのだと思いました。「どうせき

れいにならない。」と思っていたら、それは絶対にきれいになる訳がありません。このように一つ一つの気持ちしだいできれいになるかならないかの壁がうまれてしまうのです。壁がうまれてしまったらその壁を乗り越えるのに時間がかかってしまします。きれいにすることは決して大変な事ではありません。大変だったら大変じゃないやり方を見つければ良いだけです。私は、このような体験から、市の自然について考えるようになりました。

今の私の市は、ボランティア活動などに積極的に参加している人が少ないと私は思います。自分たちの市を「こういう風になりたい。」という気持ちがあるかないかで今後が変わってくると思います。なので、積極的にボランティアをするなど、できる事はたくさんあります。市民の一人として少しでも自分にできる事に参加し、そういうボランティアをしている方々の姿を見て、また一人と活動などに参加していく人々も増え、良い町、きれいな町になっていくと思います。言葉や字で、「積極的に参加」と書いたり、話したりする事は明らか

に簡単だと思います。しかし、実行にうつし、行動する事は少し難しい事かもしれません。「難しいからやる。」こういった事もきれいな町を作っていく事に感してとても大切だと思います。ボランティア活動をしている方々も決してずっと「やりたい」という思いではなく、時には「やりたくない」と思う日もあるかもしれません。そんな日でも、自分の市をきれいにしたいという気持ちがあれば進んでボランティアに参加できると思います。私たちにできる事を進んで参加する事が私たちの市には大切だと思います。

「人を助けることの大切さ」

福島市立福島第三中学校

菊田 遼真

親切で愛情あふれる町をつくろうと考えたことはありますか。そう考えたとき、自分はどうしたらいいのか、何ができるのかを一人一人が考えることで、良い町づくりができると思います。

僕は、小学校三年生のとき、下校中、一人で帰っていると、道に迷っているおじいさんがいました。そのとき、僕は、そのおじいさんに話を聞きました。すると、行きたい店に行けなくて、道に迷っていたそうです。でも、僕は、たまたまその店を知っていたので、店の行き方を教えました。すると、おじいさんは、

「ありがとうね。」

と言ってもらえました。その後、何度か、そのおじいさんと会い、その度に、

「あの時はありがとうね。」

と、言って頂いて、その時僕は、困ってい

る人を助けるって、素晴らしいな、と思うようになり、今でも、ボランティア活動などに積極的に取り組むようになりました。

このことを踏まえて、良い町づくりを考えてみると、実はあのとき、正直、おじいさんを、助けようか、助けないか迷ってしまいました。それは、自分に助ける勇氣と思いやりがなかったからだと思います。もし助けていなかったら、あのおじいさんは、行きたかった店に辿り着けずに困っていたかもしれません。本当に助けてあげられて、良かったと思いました。また、そんなことがあった場合、迷わずにすぐ助けてあげられるような人になりたいと思いました。あのとき助けたとき僕は、なぜか幸せな気持ちになりました。それから、ボランティア活動にもはげむようになりました。つまり、人を助けることで、理解できることや、人を助けることの素晴らしさなど、新しい自分を見つけることができます。また、自分だけでなく、人も幸せになります。助けられた人は、助けられたことで分かってくる思いや、助けられるという気持ちに分かり、そうすることで、僕も！、私も！となり、

どんどん人を助けようという気持ちになります。つまり、助ける人が増えるのは、もちろん、助けられる人も大切だと、僕は思います。なので、みなさんも、人を助けることの大切さを知り、そんな人が増える、親切で愛情あふれる町をつくれると僕は思います。

「きれいなまちをつくるために」

福島市立岳陽中学校

國 分 大

私は、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という市民憲章について意見があります。この文の中に「空も水もきれいな」とありますが、このことを実現するために、まず道をきれいにするべきだと思います。祭りなどで、終わったあとのゴミの散らかり方がすごくひどいときがあります。きちんとゴミを持ち帰って捨てればこんなことにはならないと思います。さらに、川の近くにゴミが捨てられている時もあり、このまま雨がふったりしてしまうと、ゴミの汚れが川に流れていってしまいます。また、道を歩いていると、時々ゴミをポイ捨てしている人などが目に入ります。また、道を歩いていると、タバコの吸いがらやペットボトルなどのゴミが目立つ所があります。ペットボトルは特に時々、中身がまだ入っているときがあります。こ

のままずててしまうと、中身が地面にこぼれてしみこんでしまい、道はより汚くなっています。さらに、この中身が下水道にこぼれおちてしまうと、下水道は海とつながっているため、海にコーヒーなどが流れていってしまい、きれいな海が汚くなっていくかもしれません。そして、空を守るためには、車の運転を控えた方がよいと思います。現在水素で走る車などはまだ普及数は少なく、現在道を走る車のほとんどが二酸化炭素を出して走るガソリン車がほとんどです。さらに、環境汚染がこのまま進んでしまうと、酸性雨という雨で木などの植物が少なくなってしまうかもしれません。そうすると、二酸化炭素の量が多くなり、それにもなつてメタンガスが発生し、地球温暖化が進み、北極などの氷が少なくなり、シロクマは絶滅してしまうかもしれません。さらには氷が溶けてしまうことで日本や世界などの国は面積が小さくなり、あるいは水没してなくなってしまうかは、あまり車を使うことをひかえめにする

ことが大事だと思います。このことを実践

していけば、福島はもちろん、日本もきれいになっていくと思います

以上の理由で、空と水をきれいにするためにはポイ捨てをやめる、自動車をあまり使わない、この二つのことが非常に重要だと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立蓬萊中学校

川村 珠恩

私は「福島市民憲章」という言葉を今回初めて知りました。これをつくった人は、福島に住んでいる人達のことをよく考え、もっと福島をよくするためにつくったのだと思います。

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」と「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という二つが特に今の福島に必要なだと思います。

私は今、蓬萊中学校で評議委員会に入っています。評議委員会では「あいさつ運動」という活動をしています。あいさつ運動とは、毎朝当番の生徒が昇降口の前に立ち登校してきた生徒たちにあいさつをする活動です。はじめてあいさつ運動をした時は、まだあまり親しくない同級生や先輩方に自分からあいさつをするのがはさくしくて、

小さな声でしかあいさつができませんでした。が、先輩方が大きな声であいさつを返してくれたので、私もだんだん大きな声であいさつができるようになりました。このようないさつが地域の中でもできるようになれば「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」につながると思います。

私が住んでいる蓬萊町には、子どもからおとしよりまでが行くことができる蓬萊学習センターがあります。そこでは、図書館で本を読むこともでき、体育館で体を動かすこともできます。その他には、親子で行うお祭りや老人会、読み聞かせ教室など、年間を通してたくさんイベントがあるので、家にこもりがちなお年よりも外に出る機会が増え人とふれあうこともできると思います。

私が前友達と遊んでいた時に、つえを歩いて歩いているお年よりを見かけました。その人は、歩道にある小さな段差などにつまずかないよう気をつかって歩いていました。なので、道路の段差を少なくするなど歩きやすい環境づくりをすれば、お年よりはもっと気がるに外に出ることができ、

子ども達も今よりも安心して外で活発に遊ぶことができると思います。そうすれば「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」につながります。

よい福島をつくるためには、一人一人が福島を今よりもよくしていきたいという気持ちと、よくするためにはこんなことをしよう、ということを意識するのが大事だと思います。私たちが今からできることは、元気なあいさつをすることと、困っている人に声をかけることだと思うので、これから福島市全体でそれが日常になるように、していけたらいいと思います。

「ゴミのポイ捨て」

福島市立蓬萊中学校

遠藤 龍斗

ぼくが公園に遊びに行った時に思った事が一つあります。それはゴミのポイ捨てが多くゴミがいっぱい落ちていたことです。

それでぼくが思ったことが二つあります。一つ目はゴミ箱を付けたらゴミのポイ捨てが少なくなるんじゃないかと思ったからです。あともう一ついいところは公園の近くでさんぽしている人たちがきがるにゴミを捨てられると思ったからです。でもそれにはちよつとめんどくさいところがあります。それはそのゴミ箱のゴミを誰が回収するのか問題です。あとゴミ箱を何個つけるのかも問題です。一個じゃ少ないけど十個じゃ多いから丁度いい個数を考えるのも公園の中をみて置ける場所も探さないといけないのでそれにも時間がかかるけどもぼくはゴミ箱を付けた方がいいことがたくさんあると思います。ぼくは付けた方がいいと思

いました。

二つ目はボランティアで公園のゴミ拾いをやった方がいいと思いました。その方法は町内の人が町内の情報とかを見られる物があるのでそれに書いてまわせばみんなに情報が伝わってみんなが来るかなって思ってたからです。この方法がいいって思ったのは人がいっぱい来るから月に一回でもあればいっぱいゴミが取れるので公園がその一日できれいになると思ったからです。でもさそつても来なかったらダメなので何かいい方法があればいいけど、ぼくはそんないい方法は浮かばないからどうしようかなと思います。あとボランティアでゴミ拾いをする日にちを決めるのもどこで決めるか分からないしどういうふうにして決めるかも分からないので調べてみたいと思いました。あともう一ついいところはボランティアだと気軽に来れることです。ボランティアだとほかの人に気を使わずにできるところもボランティアのいいところだと思っています。だからボランティアはいいと思います。

けどこれは全部ゴミの話だけど公園には

まだ色々改善してほしいところがありますが、先にゴミをどうにかしてほしかったので今回はゴミの件にしました。ぼくが書いたことが、現実になるかは分かりませんがぼくは現実になってほしいです。あとみんながゴミのポイ捨てをしないようにしてほしいと思いました。このポイ捨てをしないと書かれたはり紙をはってほしいと思いました。そうすればへると思ったからです。これも実行してもらったらうれしいです。

「安全で健康なまちづくり」

福島市立蓬萊中学校

阿久津 百 菜

私の住む蓬萊町は、とてもいいところです。子どもからおとしよりまでみんな仲がよくていいところです。

蓬萊町では、次のような子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくりの活動を行っています。

はじめに、安全なまちづくりについてです。

一つ目は、呼びかけです。くまが山からおりてきて、「くまを目撃しました。」という呼びかけや、「危険です。」などの呼びかけをしています。学校の先生、家族にも声をかけられます。暑い日は、熱ちゅう症の呼びかけをしています。

二つ目は、交通安全運動についてです。子どもからおとしよりまで安全に過ごせるように、地域の人たちや警察の方々が参加して行ってくれています。最近では、じょ

せん作業をしているところをよく見かけます。下校途中にも作業をしています。

冬には、除雪作業を行っています。歩行者が雪ですべって転ばないようにしたり、車がスリップをしないように、除雪作業をしてくれて、とても歩きやすいです。

次に、健康なまちづくりについてです。夏休みになると地域の人たちとラジオ体操を行います。朝の六時三十分のラジオ放送に合わせてやります。

私が朝学校に行くとき、同じ時間に、ジョギングしている人をよく見かけます。

私がこの蓬萊町で、改善してほしいと思うことが二つあります。

一つ目は、ポイ捨てです。緑がたくさんあるのに、ゴミを捨てて、環境をよごしている人がいます。朝はやくからお昼ごろに、ゴミ拾いをしている人がいます。なので、ごみはちゃんと、ゴミ箱に分別してほしいです。

二つ目は、街灯についてです。

私の登下校の道に街灯が少なく、帰り道がとても暗いです。私の道だけでなく、他の人たちの道やいろいろなところに街灯

がないので、安心して下校できるように、つけてほしいと思いました。

蓬萊町では、このように、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちづくりを行っているところとまだもう少し改善してほしいことが出てきました。

改めて蓬萊町を見ると、安全で健康なまちづくりは、進んでいると思います。

地域の人たちは、みんな仲がいいので協力して、ふんい気のよい蓬萊町をつくることができますと思います。

私もこの先このような活動に進んで参加していきたいと思います。

「福島市民憲章について」

福島市立蓬萊中学校

高橋 由衣

小学校で環境のことについて理科で調べた時、私はそのとき福島環境について調べました。そこで「ノーマイカーデー」「ポイ捨てのない美しいまちづくり条例」について知りました。

ノーマイカーデーとは、毎月一日に普段クルマ通勤している人を対象に電車やバス、自転車、徒歩に切り替えてもらう日だそうです。目的は朝夕の渋滞の緩和、環境への負荷の低減を図るためだそうです。

そして、ポイ捨てのない美しいまちづくり条例は、十四条まである福島市の環境についてのきまりで目的は、市民の誇れる美しい快適なまちづくりに寄与することだそうです。対象は、飼い犬のふんや空き缶、紙くずなど家庭ごみなどです。

この二つを知ってノーマイカーデーは、自分にあまり関係のないものだと思いますし

たが、条例は内容をよく見ると、「どうしてこんなあたり前のことが条例になるんだろう。」と思いました。けれど、中学生になつてあらためて見ると、「これは当然必要だ。」という気持ちになりました。理由は二つあります。

一つ目は、守れていない人がいるからです。たとえマナーとして当然のことでも本当に全員が守れているのかと思い、私の通学路について考えてみました。すると、空き缶やお菓子の袋が落ちていたのに、帰りには無くなっているなど思うときがありました。それは、夏休みにも一度ありました。部活に行くときに紙くずが家の近くにあったのに帰ってくるとありませんでした。誰かがゴミを片付けてくれたんだと思いました。自分がちゃんとやっているから良いではなく、人のことも考えることが必要だと思いました。

二つ目は、前にはこんなきまりがなかったはずだからです。なかったものをあたりにするのは、とても大変なことだと思います。それを当然のことにするのは、今まで市の人たちがたくさん努力したのかな

と考えました。

福島を、空も水もきれいなみどりのまちにするために、自分もできることをたくさん行い、家族やまわりの人とも協力してこれからも努力したいと思います。

「『福島市民憲章』を読んで」

福島市立蓬萊中学校

丹野 葉里

「『福島市民憲章』は福島にとってとても大切なものだと私は思います。その中でも、私は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という言葉が一番印象に残りました。

私たちが住んでいる福島は、空や空気が澄み渡り、きれいな水が流れ、緑がたくさんある自然豊かなところです。まさに「空も水もきれいなみどりのまち」だと思います。そんな自然豊かな福島を守ることが、福島市民である私たちにとってとても大切なことだと思います。

ところが、最近では水は汚染され、森林伐採が進んでいく一方です。

福島の川は、魚がたくさんいるようなきれいな川もたくさんあります。しかし、福島の川が全てきれいな川というわけではないのです。自然災害などの影響もあります

が、川の汚染の原因はほとんどは私たちです。自然豊かな福島を守らなくてはならない私たちが、川原にゴミを捨ててしまうなどをして、きれいな川を汚れているのです。水は、私たちにとってかけがえのないものです。そのかけがえのない水を、私たちの手で汚すのではなく、きれいにしていかなければならないのです。

また、福島は山に囲まれている「みどりのまち」です。そんな福島では今、森林伐採が進んでいます。福島にとって緑を失うことは、あつてはならないことだと思います。私の住んでいる蓬萊も緑がたくさんあるまちですが、その緑がなくなってしまうだけでとても悲しくなりました。私は、緑が身近にあることを当たり前のことだと思っています。しかし、森林伐採などが行われています。今、当たり前ではなくなってきました。もし、本当に福島から緑がなくなってしまうたら、それは福島とはいえないと思います。そのためにも、緑がたくさんある自然豊かな福島を私たちが守らなくてはならないのです。

私は、毎年、緑の募金をしています。集

められた募金は、森づくりなどに活かされているそうです。緑の募金することは、福島の緑を守ることに繋がっていると私は思います。

「『福島市民憲章』に「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」とあるように、私も自然豊かで、明るく住みよい福島をつくっていきたいと思っています。そのためには、今の福島を見直し、何をすべきか、何ができるのかを考える必要があると思います。私には、募金をしたり、ボランティア活動に参加するくらいしかできることがないけれど募金もボランティア活動もとても大切なことです。私は、自分にできることからやっていこうと心に決めました。

私たち一人一人が行動にすれば、今よりもっと素晴らしい福島になると思います。

「今、私たちにできること」

福島市立蓬萊中学校

磯田 ななみ

福島市をもっと豊かなまちにしていくなために、今私たちにできることはないか、考えてみました。

まず最初に思ったことは、よくゴミが道に落ちていることです。最近見たのは、空き缶が道路に出ていて、車につぶされていたり、自動販売機のわきにあるゴミ箱から、ゴミがはみ出ていたり、ビニール袋が柱にかかっていたりと、たくさんゴミを見かけます。でも、それはだれも拾いません。みんな、他の人のゴミなんて拾いたくないと思います。そこで、私たちにできることはないでしょうか。

私は、地域のゴミ拾いに積極的に参加したり、周りの人でポイ捨てをしようとしていたら止めることがいと考えました。一つ目の案は、出来るかわかりませんが、二つ目の案は、すぐにできそうでした。なる

べくどちらに進んで取り組みたいです。

次に思ったことは、あいさつです。私は、知らない人に自分からあいさつするのが苦手で、いつも相手にあいさつされないと返すことができません。無視されたらどうしよう、きん張する、と思ってしまう、いつもあいさつできずに終わってしまいます。でも、このままではダメだと思います。でも、どうしたら誰にでもあいさつできるようにするでしょうか。

私の考えは、まず知っている人、友だちなどに、どんなあいさつをしていき、あいさつを日常生活に取り入れていくことです。またまだ時間が必要だと思いますが、少しずつ自分からあいさつをする習慣を身につけていきたいです。

最後に思ったのは、最近はやっているポケモンGOなどのアプリの歩きスマホについてです。町の中のとどころにある、スポットで、アイテムをゲットすることができたり、道にいるポケモンをゲットすることができたりするアプリです。そのアプリで、歩きスマホをする人がすごく増えていると聞いています。しかし、歩きスマホ

をすると、事故が増えていってしまいます。少しくらいはいいかな、と思う人は、たくさんいると思います。でも、その気持ちから、歩きスマホが始まります。そんな人たちを止めるには、どうすればいいでしょうか。

考えは、近くのイスや座れる場所でスマホをするように心がけていくことです。それができなそうであれば、ポケモンGOをやめるくらいの気持ちでいたほうがいいと思います。

この三つのことを考えてみて、いろいろ取り組めることがるんだなと思いました。この三つのことは、基本的なことだと思うのでみなさんでもできると思います。一人一人が心がけて、気をつけていけば、もっと豊かな福島市にしていけるのではないのでしょうか。

「福島市民憲章について」

考えたこと」

福島市立蓬萊中学校

井 沼 亜優子

「福島市民憲章」は、昭和四十八年に制定されたそうだが、正直私は今まで見聞きしたことがなかった。今回初めて憲章の五つの文を見て、すばらしい内容だなと思った。住みよく明るいまちを目指す、まちづくりの理想があると感じた。だから、理想の福島にするために、中学生の私にもできることはないかと考えた。

まず、「力をあわせて楽しく働けるまち」にするには、協調性が大切になってくるのではないかと考える。周囲の人と協力して行動したり、力を合わせて何かを成しとげたりする場面は、学校生活の中にたくさん転がっている。日々の掃除、学校行事、校外学習、部活動など、個人だけでなく友達と一緒に活動することは、日常にあふれている。その中で協力することの大切さを学

び、協調性を身につけることができれば、将来にも活かしていけると思うのだ。

また、「きまりを守る」ということも同様である。校則、交通ルール、家での約束ごと、公共の場でのマナーなど、身の回りの様々なきまりを守ることを常に意識して生活することも大切になってくると思う。きまりを守ることが、人として身につけなければならぬことの一つでもある。これからも心がけて生活したいと思う。

次に、「親切で愛情あふれるまちをつくる」という文を読み、自分が住むまちを明るくするために毎年募集される標語を思い浮かべた。選ばれる標語には、「元氣なあいさつ」や「笑顔」、「思いやり」という言葉が使われていることが多くある。なんとなく目にしていた言葉だったが、温かい、深い意味のある言葉なんだと改めて感じる。あいさつも思いやりも、相手がいなければできないものだ。相手、周りの人について、その人の気持ちを考えながら生活できれば、自然と笑顔が生まれ、優しい気持ちになれるのではないだろうか。今の私にはなかなかできないことだが、毎日の生活の

中で心がけてみようと思う。

もう一つ、「空も水もきれいなみどりのまち」に向けては、日ごろから気をつけているつもりだ。空気を汚さない生活、水をむだにしない生活については、小学校でも学習してきた。エアコンの温度設定、照明をこまめに消すこと、流しに残菜を流さないことなど、私にも気をつけられることはある。今後も続けていきたいと思っている。

この市民憲章を、市民全員が知り、みんなで意識して生活できれば、すばらしい福島になるにちがいない。私も、今できることを精一杯がんばろう。そして大人になったら、この憲章をよりどころとして、ますますすてきな福島になるように努めていきたいと思う。

「きれいな町を作るためには」

福島市立清水中学校

佐々木 隆 成

ぼくが、きれいな福島の町を作るためには、まず、道路や歩道に落ちていたばこの吸いがらやペットボトルやカンなどのゴミを減らさないといけないと思います。時々、ゴミ拾いをしている人を見ることがありますが、それでは、捨てる人は減らず、ゴミが減ることは難しいと思います。

捨てる人を減らすためには、一つ目は、テレビやラジオで一日数回呼びかけることです。みんな一日にだいたいの人は一回テレビを見ると思うので一日の中で一番たくさんの人が見えている時間などに呼びかけると良いと思います。ラジオもテレビと同じような時間に流すと良いと思います。

二つ目は、小さな公園には、時々ゴミ箱の無いところがあるのでそういうところに置くとゴミが少し減ると思います。それでも、ゴミを捨てる人がいると思うので、そ

のために少しでもゴミ箱を増やしたり、呼びかけたりすることが大切だと思います。

三つ目は、警察官がパトロールをして、注意することが良いと思います。それでも減らない場合は、罰金を取るなどをするしか無いと思います。ですがこのことをすると、いつか直接捨てた人に注意や呼びかけをした時にトラブルをおこすことがあるのですごくゴミを捨てたなどしてない限り、直接注意したり、呼びかけることはあまりしない方が良いと思います。

このことから、ゴミを捨てる人を減らすためには、トラブルをおこさないぐらいに注意したり、呼びかけたりして、みんなで協力しゴミ箱などに捨てるのがきれいなみどりのある福島町を作っていくために必要な物だと思います。

「響け！福島の声！」

福島市立信陵中学校

加藤 遼河

僕は、福島を親切で愛情があふれるまちにしていきたいと考えています。

親切とか愛情は、難しいことではなく、誰からでも始めていけるまちづくりの一つだと思います。確かに、困っている人を助けるのも親切にはなりますが、いつでもできる親切ではありません。僕が考える、いつでもやることのできる親切や愛情は、「あいさつ」です。

「あいさつ」といえば、僕の学校で行っている日本一のあいさつ運動があります。生徒会や学級委員のみなさんが、毎朝昇降口に立ってあいさつをしてくれます。なので毎朝、学校には元気のよい声が響きわたります。僕はとてもそのふんいきが好きなので、それが福島市全てにも響いたら、親切で愛情あふれるまちに一步近づけるのではないかと思います。

そのためには、やる必要があります。まずは、自分がきちんとあいさつができるようにすること。次に、信陵中学校のみんながあいさつをできるようになること。次に、福島市の学校全てが……そして市民のみなさんも……と、僕からあいさつの輪が広がっていけば、福島市が、あいさつの声に包まれていく、と考えています。

僕には、あいさつによって救われた実体験があります。テストの点が思い通りにならなくて、落ち込んでいた、次の日。朝登校すると、お友達が元気よく

「おはよー!!」

と、声をかけてくれて、何を落ち込んでいるんだ、次にもっといい点を取れば良い!!と立ち直ることができました。このように、「あいさつ」とは、誰にでもできる魔法の呪文なのだと思います。

僕は、まだ福島市には、親切さや愛情が足りていないと感じています。あいさつしても返してくれない時や、小さいなあと思う時も一回や二回ではありません。とてももったいなく思います。ちょっとした勇気で自分も相手も温かい気持ちになれるの

に……。

僕は、福島に来た人々が、

「いいまちだなあ。」

「居心地が良い!!」

と言ってくれるような親切で愛情のあふれる最高のまちにしていきたいと考えています。あいさつの輪を広げていくのは、長い時間がかかりますが、少しずつでも変わっていけば大きな成果です。市民みんな、福島を変えていきましょう。響け！福島^{あいさつ}の声！

「親切で愛情あふれる

まちについて」

福島市立信陵中学校

野田 姫花

私は親切で愛情あふれるまちにするにはどうしたら良いのか、どのようなことをすれば親切で愛情あふれるまちになるのか、を考えました。私は以前、親切にしてくれたことがあります。笹谷から引越してきた時、まだ道がわかりませんでした。しかし、近くだから大丈夫と思ってスーパーに行ったことです。行きは迷わず何とか行けたのですが、帰りの道に迷ってしまい、家路がわからなくなりました。私は、こまった顔で歩いていたので、ある一人の女性が、私に声をかけてくれました。「どうしたの？お母さんとはぐれたの？」私は今までの事情を話し、家の近くにあるお店を伝えました。すると女の子がその近くまで送ってくれました。私はそのとき、「ありがとうございます。」

と一言だけ言って、家に帰っていききました。その女の子はとても親切で、私のありがとうございましたの一言に、

「役にたててよかったわ。こちらこそありがとう。」

と言って去ってしまいました。そのときは、なんでその女の子はこちらこそありがとうと言ったのかなと疑問でしたが、今になって少しずつ分かってきました。「こちらこそありがとう」というのは、その女性の心の中で、「私は一人の人に役に立てた。一人の人を助けたんだ」という気持ちがあった、「私を役に立たせてくれてありがとう」という意味がこめられていたのだろーと思います。私は実際に体験したことで、どのようなことを人にすれば「親切だな」「思いやりがあるな」と思われるのかが分かってきました。

人に親切にするということは、自分が他人にされてうれしいことや、やさしいと思えることを他の人にすることです。そして自分がされていやなことや、いじわるだなと思われることは絶対にやらないことです。このことが親切で愛情のあふれるまち

を作っていくのではと思います。知らない人に親切にするのがはずかしいのなら、まず友達に親切にしてみるといいと思います。友達から近所の人、近所の人からたくさんの人と親切の輪を広げていけば、たくさんの人を愛情で包みこめると思います。私が思う親切で愛情あふれるまちとは、だれにもできる親切を自分から実行し、みんなに明るく楽しく笑顔で接し合えるまちです。一人一人に親切にしてあげること、福島市は親切で愛情あふれるまちになっていくのだと思います。

「自然いっぱい福島市」

福島市立信陵中学校

中村 侑菜

こんな福島市になったらいいな。そんなことを考えたりすることは、誰にでもあると思います。私は、自然をもっと大切にして、きれいな福島市になったらいいと思います。

福島市には、自然がたくさんあります。けれども、山や川などの色々なところに、ゴミが落ちているのを見かけます。せつかく、美しい環境があるのに、小さなゴミのせいで自然が壊されていってしまいます。ボランティアで、川や公園などの色々なところを掃除しているところを見ますが、私は、見て見ぬふりをして、一度も参加したことはありません。そんなことをしていていいのかと、この作文を通して考えました。福島市の目標である、『空も水もきれいな、みどりのまちをつくる』私は、ゴミ拾いなど、ちょっとしたことをやるだけで

いいのに、見て見ぬふりをしたことは、自然が壊されている一つの原因だったと知り、してはいけないことだったと改めて思いました。しかし、自然が壊されている原因は、まだまだたくさんあるはずで。例えば、一つだからいいや、他にも捨ててあるからいいや、などと考えて捨ててしまうこと。私は川へ行つたときに、他の人がいるにも関わらず、ゴミを捨てている人を見たとときがありました。そんなことをしていいのかと思いましたが、声をかけて、拾ってもらうことはできませんでした。このようなことをするのは、とても勇気のいることなのだと思います。一人一人が、きれいな自然・環境をつくることに心がけていけば、きっとできると思います。ゴミ拾いなどをして、きれいにしている人たちの気持ちを考えてみてください。たくさんゴミが散らかっていたら、その人はどのような気持ちになるでしょうか。とても辛く、悲しい気持ちになってしまふと思います。ゴミを捨てていく人たちは、ゴミを拾っている人たちの気持ちを考えないから、そのようなことをしてしまうのではないでしょ

うか。私は、そんな人たちの気持ちを考えると、あの時私も協力していれば良かったなあと、とても後悔しています。でも、次からは、ゴミ拾いをしている優しい人たちのために、私もできることがあれば、少しでも協力していきたい。そう思うようになりました。

この作文を書いてみると、今まで、あまり考えたことがなかったことを、考えることができました。福島市民憲章について考え、少しずつ行動していくだけでも、大きく変わってくるはずです。そして、もっと自然を大切にして、どこからも愛される、福島市になったらいいなと思いました。

「『親切で愛情あふれるまち』に

向けて」

福島市立信陵中学校

阿部 光 優

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」は福島市市民憲章の一つです。私は、この福島市市民憲章の中でこの部分が一番大切なのではないかと思います。理由は約五年前のあの出来事があったからです。

二十十一年三月十一日、東日本大震災がありました。福島市は震度五強で、今まで経験したことのないとても強い揺れでした。私はこの時、家に帰ってきたばかりでした。一年生だったこともあり、とても怖かったことを覚えています。夜は電気も水道も使えなかった中、過ごしました。浜通りの海沿いには、津波が襲い、たくさんの方の死者、行方不明者が出ました。それだけでなく、原発事故も起き、放射線による影響が出てしまうなど、東日本大震災により、

福島だけでなく、岩手、宮城なども壊滅的な被害が出てしまいました。しかし、そんな中、全国各地からがれきの撤去のボランティアや食料などの支援物資が届いたり、たくさんの方の支援をしていただきました。しかも、日本だけでなく、海外からもたくさんの方々に被災地を助けてもらっているんだと思い、とてもうれしく感じました。おかげで、避難区域はまだありますが、今はあの時と比べると、大震災の前まで回復してきているように感じます。福島市市民憲章の一つに「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」とあります。私はここまで回復できたのは、日本各地や世界中からの支援という、「親切」や「愛情」があったからこそだと思います。

世界中から、たくさんの方の「親切」や「愛情」をもらって、ここまで回復できた福島県。与えられただけ、では福島市市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というのはただの目標にしかすぎなくなってしまうと思います。

そこで、私は福島市内だけが「親切で愛

情あふれる」ではなくて、福島県他の市、他の県にも「親切」で、「愛情」をおすすめ分けできるくらいの市になれば良いと思います。例えば、大地震や台風などの自然災害などが起きたときなど、募金活動に積極的に参加したり、がれきの撤去のボランティアに参加するなど、一人一人が思いやりの心を持って、みんなが協力し合うことで「親切で愛情あふれるまち」が実現すると思います。

「『あたりまえ』を大切に」

福島市立信陵中学校

山 際 悠 平

僕は、福島市の今の状態では、「空も水もきれいなみどりのまち」にはまだなっていないと思います。川や公園などには、ゴミがまだ見られるし、阿武隈川も大きいだけでさほどきれいではありません。その原因として考えられるのは、まだ市民の福島市民憲章に対する関心が深まっていないことと、市民全員でこの福島市をよりよくしていくという気持ちを持って行動に移している人の数が少ないからだと思います。自分一人がやらなくたっていいか、と思ってしまう人の数が多いからです。市民が全員で意識し、行動すれば、きっと今より数百倍いい福島市になると思っています。具体的行動というのは、あたりまえな行動をすることです。ゴミのポイ捨てはあたりまえではありません。それをあたりまえだと思っている人がいたなら、それはおかし

いことだと思っています。当然、ポイ捨てをしないことは、あたりまえです。本当に自分たちで、「空も水もきれいなみどりのまち」をつくりたいと思っているのなら、ゴミ拾いという行動をとるのも、あたりまえだと思います。そのようなあたりまえの行動を積み重ねることによって、「空も水もきれいなまち」が、できあがっていくと思います。

僕たち福島市民は、本当に親切で愛情あふれるまちをつくりあげることができているのでしょうか。もちろん、子どもの安全を見守ったり、お年寄りに対して親切に接している人はいるが、はたして、全員が全員その気になっているのでしょうか。朝、学校の登校時、時間を守らないでスクールゾーンに入ってくる車を、僕は何度も見ました。駅前の人ごみの中で困っているお年寄りをじゃまそうによけて歩く歩行者。みんな自分の都合で福島市民憲章を大切にしていけない。こんなこと、おかしいと思う。こんな事で本当に、さらに住みよく希望に満ちたまちをつくられているのか。人々は、みんな互いに助け合いながら過ごしてい

なければいけない。それなのに、このままでいいのか、と僕は思います。自分たちでお年寄りに優しくすることをあたりまえにしていけば、それはきっと、いつか自分たちに返ってきます。

あたりまえにすることは、本当に大変なことです。しかし、この福島市に素晴らしいあたりまえをつくれば、きっと今も、これから、美しいまちになると思います。そして、全国、全世界に自信を持って自慢できる、そんな福島市が、きっとできると信じています。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立信陵中学校

菅野 裕 紀

僕はまず初めに憲章という言葉の意味を調べてみました。「憲章」とは、これからの理想となる大切なきまりという意味でした。

福島市民憲章は五つありますが、僕が一番取り組んでみたいと思ったものは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という憲章です。

僕が住んでいる福島市には、多くの自然が残っています。それを本当にわかったのは、原発事故が起きてからでした。空も水も自然も、全部ダメになりました。あの事故は、福島という名前だけで、世界中の人が原発事故のことを連想する、世界的な歴史に残るような出来事でした。でも、僕は福島が本当に立ち直ったとアピールするためにも自分たちの住んでいる自然環境を整える事が大切だと思います。

今年の夏の暑い日に田んぼの近くを歩いていたら、吹いてきた風がとても冷たくて、僕は少し驚きました。田んぼに水があるおかげで、普通の風より冷たかったのです。田んぼのない地域では、僕が感じたこの風は、絶対に感じられません。今住んでいる環境が、よいからだと思います。花火大会も開けるくらい大きな田んぼです。公園をたくさん作ったり、木をたくさん植えたりするのもいいですが、今の環境を上手にアピールしたり、環境作りをしていくことが「復興した」という大きなヒントになるような気がします。もしかしたら、僕が大人になった頃にホテルがたくさん住んでいるかもしれません。

今、僕に出来ることは、福島環境についてたくさん勉強しなくてはならないし、無駄なゴミを出さないようにすることだと思っています。

僕は、地域のゴミ拾いのボランティアに参加したことがあります。ゴミ拾いをして特にたくさん落ちていたのがタバコの吸いがらでした。理科の時間に学んだのですが、タバコをポイ捨てすると、タバコの葉

は自然に分解されますが、タバコのスリブというプラスチックの部分は分解されないで、そのままずっと残っているそうです。タバコを吸う人は携帯の灰皿を持っているといいと思います。

公園にはゴミ箱がありません。公園にゴミを捨てて行く人は、ゴミを持ち帰るのが、面倒臭くて、そのまま捨ててくるのかなと思いました。僕は、ゴミを入れる小さな袋を常に持ち歩いていると思います。

僕は、みんなが住んでみたい、行きたいという福島市にするのには、ちょっとしたことでも、一つ一つしっかりとやっていけないと思います。

「明るい福島市をつくるために」

福島市立信陵中学校

佐藤 結菜

私には明るい福島市をつくるために、いくつか考えがあります。

まずは、福島市民憲章をたくさんの人に知ってもらおうことだと思います。私は今回この作文を書く時に、初めて福島市民憲章の存在を知りましたが、その内容に、強く関心を持ちました。ですが、そのことを呼びかけ、たくさんの人に知ってもらわなければ、何も活動できないと思ったからです。福島市民憲章の中で、私が「明るい福島市をつくるために」に、特に大切だと思ったものが、二つあります。

一つ目は「空も水もきれいなみどりまちをつくりましょう」というものです。福島市は周りに山があり、みどりあふれる、自然豊かな場所です。そこまで素敵な場所なのに、辺りにゴミが落ちていたりすれば、大体の人が不快な気持ちになると思いま

す。ですからゴミをポイ捨てする事をなくせば、今よりもっと良い気持ちで過ごせると思います。それでもまだゴミが落ちていれば、それぞれが自主的にゴミを拾うようになればいいと思いました。難しいとは思いますが……。そして、せっかく自然のたくさんある、素敵な場所なので自然を愛し、大切にできる心を持てるようになればいいと思いました。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」というものです。電車やバスの席を譲ったり、お年寄りを見つけたら、少しの間でも荷物を持ってあげたりと、ありきたりで、難しいことかもしれませんが、それがもしできれば、してもらった側はとてもしやすい気持ちになるはずです。してもらった側だけではなく、した側の人も、嫌な気持ちにはならないはずです。もし私とその立場に立ったとしたら、声をかけて実行するまでは緊張し、不安な気持ちもあると思いますが、もし、それが出来て、お礼を言われたときは達成感で満たされ、幸福感でいっぱいになると思います。感じ方は人それぞれだと思いますが、もし、

それがお互いに出来る地域になれば、このまちに住んでいて良かったと心から思えるようになると思います。

今回、私が大きく取り上げたのは、この二つですが、他の三つの憲章にもとても大切なことが書いてあります。これを機に、福島を明るいまちにするために、福島市民憲章にもとづいて、努力しようと考えています。この福島市民憲章が、少しでも多くの人に知れ渡り、今よりも、もっと明るく、住みやすい福島になることを願っています。

「笑顔あふれる町をつくろう」

福島市立北信中学校

八 巻 愛

私は福島県が大好きです。六年前に東日本大震災がありました。色々、大変な事がありました。今ではもとに戻ったかのようには緑ゆたかな福島になりました。それから笑顔であふれる町にするために私が考えたことは三つあります。

一つ目は、福島にゴミが落ちてないようにすることです。登下校の時や遊んでいる時など、ゴミが道や公園に落ちています。ゴミが落ちているのを見れば誰でも嫌な気持ちになります。きれいな環境であるために、一人一人が注意することが大切です。例えば、自分のゴミじゃなくても拾ってすてたり、ゴミを持ち帰るなどたくさんの方があります。このような事を一人一人が行うこと意識を持つことが大切だと考えました。

二つ目は、おとしよりや障害者に優しく

親切に接することです。おとしよりなどが、困っているのを何度も見ています。困っているのに誰も助けてあげていなくて、不安な気持ちになります。めんどくさい、嫌だななど思っているのは、おとしよりや障害者が安心してくらしなくなり、おとしよりや障害者が安心して笑顔でいるために、私たち若い人たちが優しく親切に接することが大事だと思います。そうすれば、私たちもおとしよりや障害者も笑顔になります。

三つ目は、緑をもっと増やすことです。今でも緑はたくさんあるかもしれませんが、しかし、六年前の東日本大震災で空気や水が汚れてしまいました。そんな福島をもっときれいにするために、緑を増やすということを考えました。緑を増やす活動を増やして、花を植えたり、木を植えるなどたくさん植物を育てて、より良い福島にしたいと考えました。そうすれば、震災がなかったかのように、緑でゆたか、そしてきれいな福島に戻るかもしれません。

このような三つのことを私は考えました。ゴミをなくすこと、おとしよりや障害者に優しく親切に接すること、緑を増やす

ということの三つです。このようなことを福島市民、一人一人が行うことで、笑顔な町になると思います。

私が、将来大人になったら、ゴミを拾ってすてたりするなど、自分で考えたことを行い、未来の福島市がキレイでより豊かになるように、そして笑顔あふれる町になってほしいと思います。

「阿部さんの話から思ったこと」

福島市立北信中学校

菅野 乃愛瑠

私は小学三年生の時に総合の時間で何回か阿部さんという人のりんご畑に行ったことがあります。初めて行った時に、まず阿部さんの話を聞きました。話をしている中で印象に残った言葉があります。それは「こんなりんごがおいしく、みずみずしく成長するのは空も水もきれいなおかげなんだよ。」です。私はそれまで、りんごは植えたらしのままにしても自然と育つものかとはかり思っていました。でもこの話を聞いて考え方がかわりました。植えたらきれいな水をちゃんとあげて、大変でも努力して育てないと、おいしくてみずみずしいりんごには育たない、ということなんです。私はこんなにおいしいりんごを育てた阿部さんはとてもすごいなと思いました。そしてそんな阿部さんや、農家の人を見習いたいと私はそれにはどうしたらいいかを考えまし

た。どんな事をしたらいいのか、出来るか思っていた私は阿部さんの話にもあったおもしろく成長してくれたのはきれいな水のおかげということを感じました。その事からこれから私は二つの事をやっていこうと思いました。

まず一つ目は川や海などにゴミを落とさないようにすることです。また、ゴミをみつけたら積極的に拾うこともやっていこうと思います。ゴミを落としてしまうと水が汚く、環境にも悪くなってしまうと。川や海などをゴミで汚さないように自分でも心がけようと思います。

二つ目は環境のことに関わるボランティアに積極的に参加することです。一つ目と言ったゴミを拾ったりする活動にはもちろん、緑を増やすために行われているボランティアや、環境のことに関わるボランティアなら、進んで参加したいと思っています。特に、緑を増やすために行われているボランティアは、水の問題にも関わっています。緑がないと水が減ってしまうという問題もあります。ですが、やっぱり人間とは反対で光合成によって二酸化炭素を吸って、酸素を出

すという働きがあるので空気や空がきれいになると思っています。

阿部さんの話から実行していこうと思ったことは、今でも積極的に活動したり、参加しています。私は今後、空も水もきれいになり、緑あふれる町になってほしいと思います。たとえ、私一人だけでも今よりも少しでもそんな町になってほしいと思っています。少しでもそうなれるように、これからも活動したり、参加したりとがんばりたいです。福島はぜったいにそんな町になると信じています。

「希望に輝く福島をつくるために」

福島市立北信中学校

山 口 佳 菜

私は最近、福島には「福島市民憲章」というものがあるということを知りました。五つの市民憲章の中で特に印象に残ったのは、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」ということです。

私は教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくるためにはどうしたらいいのかということを考えました。そこで私は、教育と文化を尊ぶためには私達一人一人が福島市民として福島のことをほこりに思うことがまず大切な事ではないかと思いました。福島のことをほこりに思うことで、福島の教育や文化についてもっと知りたいと思うようになると思います。

福島では五年前に、大きな震災（東日本大震災）を経験し、それに加え、原子力発電所の事故という大きな問題に直面し、少しずつ復興へと向けて取り組んで来ましたが、完全に震災前の状態には戻っておらず、まだ、様々な人達が苦しんでいる姿をメディアで目にするがあります。

例えば、福島の食べ物に関する面では、五年たった今でも放射性物質を気にして、福島産だということだけを理由に、消費されないという大きな問題を抱えています。しかし私は、このような今までの経験を活かして、様々な開発などに取り組み、またその一つとして原子力発電に頼らない、再生可能エネルギーのような取り組みを進めることが大切だと思います。

私が実際に福島県三春町にある環境創造センターを見学した時に、多く知られている風力発電、地熱発電の取り組みの他にも、私の知らなかった、バイオマスエネルギーや雪氷熱利用、温度差熱利用などの取り組みが進められていることを知りました。特に、二〇四〇年までには原子力発電に頼らずに、再生可能エネルギーを使っている福島県にするという目標が素晴らしいと思います、心に残りました。

このような福島での取り組みを、福島から発信できるよう、これから福島市民で

力を合わせて頑張り、東日本大震災前と変わらないような希望に輝いている福島をつくってほしいです。

熊本県で四月に大きな地震があった時に、全国からの支援はもちろん、福島県の人達の地震の経験が活かされ、今、何を必要としているのかなど気持ちを理解し、大きく復興に貢献することができたので、福島市民一人一人がほこりを餅、福島の良い所を伝えていってほしいと思います。

「緑あふれる豊かな町」

福島市立北信中学校

白坂 聡一朗

僕の家は、特殊な形をしています。ロータリーのような道路と、草木が生える庭があり、しき地には畑もあります。このように、毎日を緑に囲まれて生活している僕は、周りの家の「普通」、即ち、観葉植物程度の緑では足りないと思ってしまう。

僕は旅行が好きで、移動の際も周りを眺めています。それを見ると、空き地や荒地が多いように思えます。そこで、その空き地や荒地に、少しでも緑を増やし、環境を整える事ができれば街もきれいになり、犯罪も減って安全に暮らせる様になると思います。環境を整えたら、整えた状況を維持し使用する人々によって生活し易い様に工夫していけば良いと思います。その際は、行政に依存してばかりではなく、僕達市民一人一人も自覚を持ち、きれいな街

に住める様、心の視野を広げたいものです。何よりもきれいだと思うと気持ちが良いし、人の心も豊かになり余裕が持てる様になるのではないのでしょうか。

東日本大震災の後、除染も進み、街の中は見違える程きれいになり、大分整備されました。普段掃除する事が無い家の屋根やブロック塀、土の入れ替えや草木の手入れ等、自発的に自ら庭木の手入れをする人は増えたのではないのでしょうか。行政によって整備された所をきれいに保つていこうとする良い行いが実証されていると思います。これらは皮肉にも災害によって身に付いた自己改革。一人が始めると良い事を真似て何人かが始め、団結する様になり、街自体がきれいになり前よりも心が豊かになりました。

街を作ったのは僕達人間。当然ながら、作ったものは責任を持って保全していくべきだと思います。そして町と自然の区別も動物達に教えてあげるべきです。反対に、人間も動物達の住みかをおおや脅かさない様にしなくてはなりません。地球温暖化によって気候が変わり、環境の変化によって森が枯

れてえさがなくなり、生き抜く為に町へ下りてくるのかもしれない。便利な生活をする為に人間は地球を壊していく。壊す事をどこかで止めないと、このまま壊れるばかりです。今回の題材からするととても大きな問題に辿り着いてしまいました。人間も動物も同じ地球に生まれ住む者として、より良い共存方法を考え、考えた事を行動に移し、先程述べた除染の良い行いの実証ができれば良いと思います。

余談にはなりますが、福島駅西口のロータリーを建物の三階から眺める機会がありました。自転車はきれいに駐輪場へ。車は駐車場へ。整備された所だとルールを守らなくてはいけないのか乱れた様子は見られませんでした。街灯もつけられ、もちろん樹木や花が植えられました。身近にも緑あふれる豊かな町を感じる事ができ心が豊かになり、後世にも豊かさを残していきたいと思いました。

「一人一人がよりよい福島市を

つくるう」

福島市立北信中学校

横山 孔

僕は、この福島市民憲章作文コンクールがあることは、これをやるまでは、知りませんでした。行事や、建て物も少ない福島市に、こんなものがあつたなんて、知りませんでした。しかも、一生に一度しかできないということも分かりました。なので、もっと、福島市以外の人にも、知ってもらいたいです。

僕が憲章作文の中で、特に気になったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」です。何故かと言うと、市内の川、あぶくま川や、松川など、そのような川は、きれいだと思うし、みどりも、信夫山辺りは、緑がいっぱいです。でも、昔は、どうでしょう。川は、きたなかったそうです。とくに、あぶくま川は、魚一匹いなかったそうです。なので、きれいに

しましょう、という呼びかけが始まったのかなと思います。そして、ビルや、自動車も増え、排気ガスも多くなり、山や、川なども、汚染しているのかなと思います。そして、今は、

「ポイ捨て」

など、自分で食べたお菓子の袋や、ペットボトルのゴミを捨てる人がいるので、だんだん汚くなつてきているのだと思います。そのために、公園などに、呼びかけよりも、僕は、ゴミ捨て場をつけた方が、すごく良くなると思います。そうすれば、捨てる場所があるので、自然と捨てるようになるのではと思いました。そうすれば、地域の人も、掃除をしなくても済むかもしれませんし、ゴミが減り、よりよい福島市になると思います。そして、空気中の汚染や、川に流れるゴミなど、ドブ川にたまるお菓子の袋も、なくなり、見ることもなくなると思えますし、この題名の空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうも、一人一人の心がけで、つくられて、きれいな福島市を守るかもしれないと思います。

あとは、一人一人の気持ちの問題ではな

いかと思います。正直、大人の方が、ポイ捨ては、しないと思いますが、車、自動車での汚染は、大人が全てだと思うので、空気を汚しているのは大人たちだと思いました。なので、近くに職場のある方は、自動車に乗らずに、自転車で行くのがいいと思います。そうすれば、自動車から出る排気ガスがなくなり、もっとよりよい福島市になると思います。そして、一人一人呼びかけて、一人一人の心がけで、福島は、どんどん変わっていくと思いますし、集団で、リサイクル活動など、心の優しさも必要になると思います。私一人だけならなど、大人という立場を使って、自分に甘さを持つのは、だめだと思います。結きよくは、全部大切なことで、それは、福島市のためだということはこの福島市民憲章作文コンクールで分かりました。

「おもいやりの福島市へ」

福島市立北信中学校

小 雀 葵 子

私は福島市民憲章という素晴らしい決まりを今まで知りませんでした。けれど、この決まりを知り、とても感動しました。その五つの決まりの中でとてもすごいなと思ったきまりが二つあります。

一つ目は、「教育と文化を尊び、希望に輝くまちをつくりましょう」という決まりについてです。その理由は、教育に関心を持たない生徒や、福島の文化が少しずつ消えつつあるからです。まず、教育に関心を持たない生徒の増加です。現在、福島に不登校の生徒はたくさんいます。不登校でなくとも、授業中にねていたり、ちゃんと話を聞いていない人などもたくさんいます。そんな事があるのが私は許せません。国から私達へ未来への期待をこめて教科書を配布してくれたのだから一生懸命勉強してもらいたいのです。でもなんで私がこんなにみ

んなに勉強をしてもらいたいかというと、前に貧困な地域で学校へ通いたくても、お金がなくて学校へ通うことができないというドキュメンタリー番組を見たからです。その番組に出演していた子は十五才の少女でした。家が貧しく毎日レンガ運びをしていました。そんな子が学校へ通いたくても通うことができないと思うと、今福島にいる学校へ通うことができるという幸せな人達にはちゃんと学校へ通って勉強をしてみたいと良く願う様になりました。だから、この「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」にはとても感動しました。だから一生懸命勉強して福島市をさらに輝くまちへ導いていきたいと思います。

二つ目に感動し、同感したのが「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。私がそう思ったのは、私の実体験からです。それは、私がすれちがった人にあいさつをしたのですが、その方は、返事にこたえてくれずとてもいやな気持ちになったのです。これでは福島市が親切で愛情あふれるまちにはなりません。そこで、私は「あ

いさつをしようキャンペーン」というのを考えてみました。そのあいさつをしようキャンペーンとは、私達中学生、小学生、高校生が学校で自らあいさつをする様に全校集会などで練習をし、自分からあいさつをする様にします。大人達には普段よく見るテレビのCMであいさつの大切さを学んでもらい、福島市にいる全ての住民があいさつを交わしてもらう様にしたいと願う考えです。もしこの「あいさつをしようキャンペーン」が成功すれば、福島市は間違いなく親切で愛情あふれるまちになる事でしよう。なので、私はこんなキャンペーンがあれば良いなと思っています。

私はこの作文を通して福島市民憲章という素晴らしい決まりを知る事ができて本当に良かったです。なので私もこれからこの決まりを守りさらに福島市を良くしていきたいです。

「輝くまち」

福島市立北信中学校

藤 倉 佳 音

私の住んでいるまちは、とても輝いてい
ると思います。登下校の時にすれ違う人と
の何気ない「おはようございます」や「こ
んにちは」のあいさつ、地域の方々の「お
帰りなさい」の声。一つ一つが「愛情あふ
れるまち」につながっていると思います。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災の時
もおたがいに助け合い乗りこえました。そ
の時には触れることができなかった、砂や
草、水に今は触れることができるし、登下
校の際にはマスクを着けていたのが、マス
クを着けずに過ごすことができるのは、す
べてまちがきれいになったからなのかなと
思います。福島市民憲章の中にある「空も
水もきれいなみどりのまち」に近づいてい
ると思います。もっと近づけるためにも一
人一人の意識が大切だと思います。

しかし、最近気になっていることがあります。

ます。それは、道路に落ちているゴミです。
放射線量は減ってきれいになってきている
と思います。けれど道路に落ちているゴミ
を見ると本当にまちがきれいになっている
のか、ふと疑問に思うことがあります。小
学六年生のときに、ゴミを減らす方法など
を話し合いました。でも、自分達が話し合
っただけではまちのゴミは減りません。住
みよいまちづくりや「きれいなまち」にす
るためには、このような問題も解決してい
かなければならないと思います。

福島市はとても輝いています。私の住ん
でいる瀬上町の中でも、和太鼓や地域の祭
事など様々な文化があります。授業の一環
でりんご畑の見学をするのもとても良いこ
とだと思ふし、自分の住んでいる地域の歴
史を学習する取り組みも良いと思います。
私達の行ってきたことを他の地域でも
行つてほしいと思うと同時に何百年もこの
文化が続いて「教育と文化を尊び希望に輝
くまち」になってほしいと思います。今も
とても輝いています。が、福島市民憲章の「空
も水もきれいなみどりまち」「教育と文化
を尊び希望に輝くまち」「親切で愛情あふ

れるまち」「きまりを守り、力をあわせて
楽しく働けるまち」「子どもからおとしよ
りまで安全で健康なまち」を目指して、一
人一人が意識をしながらもつと輝くまちに
していきたいと思いました。

輝くまちのための道路のゴミの解決方法
や福島市の地域の文化をもつと多くの人に
知ってもらうための方法などを過ごしてい
くうちに考えようと思います。また、福島
市民憲章が作文以外でも市民の皆にもつと
たくさん知ってもらえるための方法も同時
に考えていこうと思います。

今までよりも、もつと輝くまちになるよ
う福島市民憲章を皆で意識をしていつてほ
しいと思います。

「みんなが毎日笑顔で

過ごすために」

福島市立西信中学校

高橋花歩

私は、子どもからお年寄りまでみんなが元気で明るく安全な毎日を過ごすことができたらいなと思っています。そして不自由なく生活ができて、危ない場所がなく、不安がないまちになれば私たちはもっと安全に暮らすことができると思います。そうすれば、みんなが毎日楽しく過ごすことができると思っています。

でも、私は今のこのまちでは、とても満足して、暮らすことはできないと思います。子どもからお年寄りまでの人たちが、少し不満に思っていることもあると思います。まず、お年寄りの人たちが不満に思っていることが二つあります。

一つ目は、手すりがありません。所があることです。階段などを歩いているときなどでも足や肩が悪い人は、手すりがないと大

変だと思っています。私の祖父も足が悪いので、階段がとても大変そうなので、階段だけでなく、坂になっている所や、段差になっている所など少し危ない所にもつけてほしいです。

二つ目は、段差です。段差があると、足に負担になるので足が痛くなり大変だと思うので、段差を無くして歩きやすくしてほしいです。車いすの人も段差があるとだれかに助けてもらわないといけないので、段差をなくして、だれでもラクに歩けるようにしてほしいです。

次は、みなさんが不満に思っていることです。それは、街灯が少ないことです。私は、部活が十八時半くらいに終わり、家に帰る時辺りに街灯がなく暗くなりとても怖いので、学校の近くや、夜になると暗くなるところに街灯をつけてほしいです。そうすれば、夜でも安心して歩くことができると思います。

次は、今問題になっている地球温暖化についてです。福島だけでなく、世界でも問題になっています。家庭では車や電気の使いすぎなどです。車などから出る排気ガス

も体に悪く、このままでは地球がどうなるかわかりません。だから福島のマチに木をたくさん植えるなどの活動をしていけば、地球温暖化は少しずつ減っていくと思います。

最後に、私はこのまちを安全で明るいまちにするために必要だと思ったことは、助け合うということだと思います。助け合うということを忘れずにしていれば、この福島のマチは、安全なまちになると思います。助けてもらう、助けるということがとても大切だと思います。私も人に助けてもらったことはたくさんあります。これから、困っている人がいたら、思いやりをもって、助けたいです。一人一人がやさしさの心と助け合う気持ちを大切にしていけば、この福島は今よりもっと安心して子どもからお年寄りまでが、楽しく明るい毎日を過ごすことができると思います。

「安心・安全なまちづくり」

福島市立西信中学校

高橋 美翔

私は福島市民憲章の子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるということについて思ったことが二つあります。

一つ目は、街灯が少ないという事です。私は毎日歩いて登下校をしています。私が通る道は、街灯がほとんどありません。だから、朝は明るかった道でも夜になると真っ暗になってしまいます。そうすると、暗い時には車に乗っている人が歩行者に気付くのが遅れたり、逆に歩行者が車に気付くのが遅れてしまったりとても危険です。また、暗くて人通りの少ないせいで道も一人で歩くととても不安な気持ちになってしまいます。このように、ふだん通る道が暗いと犯罪や交通事故に遭う危険性が高くなります。このことから、交通事故や犯罪を防いで、安全なまちをつくり地域の人が少しでも安心できるまちにするた

めにも街灯を増やして明るい地域にしたいのが良いのではないかと思います。そうすれば、子どもからお年よりまでが安全に過ごせるまちに近づくと思います。

二つ目は、信号についてです。私の住む地域は、おとしよりの方が多いです。だから、中には信号に気付かずに横断歩道をわたってしまう人もいるかもしれません。そこで、私は信号に音をつけたらどうだろうと思いました。駅の方の信号でも音が鳴っているのを見たことがあります。その時に私はこれなら、誰でも安全にわたることができるなと思いました。信号が青になったときに音が鳴れば、おとしよりも子どもも信号が変わったことが確認できます。だから、信号に気付かない人はほとんどいなくなると思います。同時に、事故の危険性だつて低くなると思います。このことから、地域の人の事故防止のためにも音付きの歩行者用の信号を少しずつでも、増やしてほしいです。そして、地域の方々が安心して、安全にくらいしていただけるまちにみんなで少しずつ変えていってほしいと思いました。

私は福島市民憲章の子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましようというのを見て、街灯の数についてと信号についての二つを書きました。でも福島市には、まだまだ改善したほうが良い点がたくさんあると思います。だから、福島の発展のために、これからは地域の方々が快適で明るく住みよいまちをつくるために、たくさんの人と協力して一人一人が努力をしてほしいです。私は、福島が安全で安心して暮らせるところになるように少しでも役に立つようなことを見つけて、取り組んでいけたら良いなと思っています。

「みどりの市」

福島市立西信中学校

渡 辺 真理明

私の住んでいる所は、山の近くにありますが。とてもみどりが豊かで明るいのです。それでも少し不安、心配があります。一つめは秋や冬になると日が短くなります。それなのに街灯がなかったり、古くなって故障していたりすることです。私が入学して、初めての部活動だった時、帰りが遅くなって暗いのに、街灯がない所がたくさんあって、故障しているものもありました。とても怖かったのを覚えています。二つめは、私の住んでいる近くに、熊が出るといことです。私が小学校の時、近所の鳥小屋を熊がおそったという事態がおきました。中学生になった今でも私たちの登校時刻に、熊が出たということがおきています。

それでも、良い所はたくさんあります。良い所の一つめは、みどりが豊かで、動物や植物がいろいろいるという所です。この

前、友達と下校していた時に、赤じそや、ワラビ、山しよなどの植物を見かけました。私は小学四年生のころ、東京に住んでいたのですが、こういう植物や山菜には、とてもあこがれます。東京では、道路の脇にある花だんには、花がかれていたり、ごみが捨てられていたりでした。福島に五年生の始めに転校してきた時、始めは、「いなかだな。」と思っていたけれど時をかさねることによって、だんだん住んでいる所がみどりが豊かでもっとも好きになりました。近所の人も明るいし、いろいろなことを手伝ってくれます。それと、駅前に行ってもみどりがあるとい所です。駅前の東口の花時計なんかは、とってもきれいで、いつも駅前に来た時は目に入ります。ほかの所も、花だんやぶら下がっている丸いプラントーなどが整備されていて、すごいと思います。

二つめは、学習施設や飲食店が充実している所です。その中でも、こむこむが一番です。中学生になった今では、参加できるイベントが用事や対象年齢などで少なくなってしまうけれど、この前妹と弟が参加

した将棋教室が終わるまで、こむこむの三階の遊び場で遊んでいた時、スタッフさんが私に「クイズをやっているんだけど、やらない。」と話しかけてくれて、解き終わった後に、さそってくれたスタッフさんの所に行ったら、「早いね、全問正解。」と言ってくれました。中学生でも、他の人にはめられると、やっぱりうれしかったです。その日一番うれしかった出来事でした。月面の体験でも、午前に来たのに、午後にも来ると、いやな顔されるかなと思いつつも行ってみると、ぜんぜんいやな顔されなくて、それどころか説明の紙をもう一枚べつの種類のをくれたのです。これもうれしかったです。福島市には良い所がたくさんあります。でももう少しいなかの方にも手をのばしてくれたら、福島市はもっと良い市、県にもなるのではないのでしょうか。

「親切で思いやりのある町」

福島市立西信中学校

後藤 拓仁

僕は、今通っている中学校から、二キロメートル先に家があり、そこから自転車ですべて通っています。

悪天候で、自転車で通えない日もありますが、悪天候以外、ほとんど毎日自転車で、中学校まで通っています。

中学校に入学して、僕は、初めて自転車通学で学校に通いました。

学校へ行く時は、ゆるやかな下り坂で、あまり疲れません。

そこで、僕は、親切で思いやりのある出来事が二つあります。

一つ目は、前、通っていた小学校では、地域のおじいさん、おばあさんがボランティアで、小学生たちと、一緒に登下校してくれる見守り隊と言う方々がいるのですが、その見守り隊のおばあさんが一人、こちらに向かって歩いてきました。そして僕

は、あいさつをしようとして、自転車の速度を落とし、声を出そうとしたけど、声が出ずに、お辞儀だけになってしまいました。見守り隊のおばあさんは、あいさつしてくれました。

「あいさつしないなんて、情けないな。」と、思いました。

次の日、僕は昨日と同じ時刻に家を出て、ほぼ同じスピードで坂を下り、同じ道を通っていくと、昨日のおばあさんが、こちらに向かってやってきました。

そして、あいさつをするために、勇気をふりしぼって

「おはようございます。」

と、元気よくあいさつをすると、おばあさんも

「おはようございます。」

と、元気よくあいさつを返してくれて、僕は、とてもうれしかったです。あの時は、とてもうれしくなりました。

二つ目は、同じく自転車通学での出来事でした。

僕は、いつものように家を出ようとしたところ、普段通学している道から、大きな

車が来ました。その道を通ることをあきらめ、また別の大きな道から行くことに決め、自転車をこぎ始めました。しかし、その道にも、大きな車が止まっていました。よく見てみると、選挙カーが止まっていました。大きな道路を出ると危険なので、選挙カーの後ろから行くことに決めました。しかし、そこにある壁と選挙カーの後ろの部分の幅は、五十センチメートル位で、ぎりぎり通れるかな、くらいの幅でした。当然一人では通れず、あきらめかけた時、二人の人が僕のことに関心し、自転車を通してくれました。あの二人の人がいなかったら、僕は、通れていなかったな、と思います。僕は改めて

「福島の人はとても親切だな。」と、思いました。

「私達にできること」

福島市立西信中学校

赤井 萌恵

私が住んでいる福島市は自然が、とても豊かなまちです。「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という市民憲章の一文が、この福島市にピッタリだと、すぐに感じました。

このきれいなまちを将来に残していくために今の私達が、できることを考えてみました。

まず、空気が、きれいであるためには電気を使いすぎないようにしたり、車の排気ガスの量を減らしたりしていくことが大切だと思います。夏の暑い時期にエアコンの温度設定を二十八度以下にするのではなく庭にゴーヤやあさがおなどのつる性植物を植えて緑のカーテンを作る方が環境に良いです。緑のカーテンを作ると日光をさえぎるのでエアコンを使わなくても涼しく過ごすことができます。私も実際に緑のカーテ

ンを作ってみたらとても涼しかったです。車の排気ガスの量を減らすためにできることは、バスや電車などの公共の乗り物を利用したり、行きたい場所が近いときには、なるべく自転車に乗って行ったり歩いて行ったりすることだと思います。バスや電車を利用する理由は一人一台の車に乗るより、みんなで一つの乗り物に乗った方が排気ガスの量が減るからです。このような取り組みをすれば空気が汚れないと考えました。

次に、水が、きれいであるための取り組みです。私の家の近くを流れている荒川は六年連続で水質が日本一です。これは福島市民のほこりです。この、きれいな川を守っていくためには、油汚れをそのまま流したり、シャンプーや洗剤などを使いすぎないということが大切だと思います。これからの日常生活では、油汚れは紙や布で一度ふきとってから洗い流したり、皿を洗うときには洗剤を少量使うなど気をつけて生活していきたいと思います。

最後に、みどりのまちを守り続けるためには植物を植えたり、ごみ拾いをするなど

の美化活動に取り組むことが重要だと思いました。私は実際に町内会が実施したごみ拾いなどに参加したことがあります。町内を歩いてみると、ポイ捨てされた、たばこの吸いガラや割れたビン、空き缶、お菓子の袋など、たくさんのごみが落ちていました。私は、ごみを拾うたびに悲しくなりました。こんなに、たくさんのごみを捨てていく人がいるということを知ったからです。ポイ捨てをしていく人がいることで、まちは、どんどんみどりのまちでは、なくなってしまう。ポイ捨てをした人は、ごみ箱に捨てるのが面倒くさいなど、とても簡単な理由で捨てていると思います。が、その地域に住む人のことも考えてほしいと思いました。ポイ捨てを防ぐためには一人一人が自覚して生活することが必要です。

このように私達も、きれいなまちを残していくために、できることが、あるのです。

「福島を安全でキレイな市にするには」

福島市立西信中学校

今 泉 摩 耶

福島は山、木、畑などに囲まれて、自然がまわりにあります。ですが、川や山にゴミを捨てたりする人がいることで、川や山がよごれてしまいます。そこで私は、福島を安全でキレイにするためにはどうすれば良いのかを考えてみました。まず、安全になるにはについて三個思いつきました。一個目は、道路や人々が歩く所に街灯をつければ良いなと思いました。私が住んでいる所は、お店があり、明るい所はあるけど、ちょっと離れると、街灯が無い所もあり、不審者も目撃されています。まだ被害は出ていないけれど、これからいつ被害が起こるか分からないので、こわい不安もあるから、もっと街灯を増やせばいいと思います。二つ目は、いろんな地域にありえる、ゴミ捨て場のネット、からの害について

です。私の地域は、ネットをちゃんとかけるよう呼びかけなどをしていなければならない、すきまや、ネットのうえから、ゴミをつつきまします。そうすると道路にひっぱり出してしまいます。そうすると、地域の大人の人がかたづけられていますが、生ゴミの時があると毎回なので、かたづける人は大変だなって思います。改善点を考える必要があると思います。三つ目は、からすではなく人が道にゴミを捨てる事についてです。これは、他の市、県でも、あると思います。私の地域などでゴミが多い所は、公園、排水口などです。公園は、子供などがお菓子を食べ、そのまま持ち帰らず捨てていきます。私が小学生のころ、公園にたくさんゴミがあるので、行事科目で、公園をキレイにするため公園へ向かいました。そうすると、たばこ、お菓子のふくろ、などたくさんありました。その他にも、ゲーム機や、本などのわすれ物もありました。草などもぬいてキレイにしました。けれど、何日かたったら、ゴミが少しずつ増えていきました。地域の人も拾ったりしています。私は、なぜ、ゴミを捨てていくのか考

えました。その公園は、ゴミ箱が無いので、捨ててしまう人がいるのかなって思いました。だからといって、捨てるのをやめて持ち帰れば良いという事があるけど、呼びかけても、この状態なのでゴミ箱をつけてほしいと思いました。もう一つの、排水口についてです。お店の近くにある排水口は、ゴミがたまつて水が少しづつしかながれなくなっています。お菓子のふくろ、ペットボトルがたまっています。そこは前、だれかがキレイにして、水が流れやすくなっていたけど、何日か後にそこを通ったら、もどおりになっていました。こういう事については、改善点をどうすればいいのか、私は思いつきませんでした。ですが、私が気づいた市の内容はほとんどが、ゴミについてです。キレイな市にするには、細かい所も見なくてはいけないと思います。安全でキレイな福島になる事を期待したいです。

「緑が美しい町へ一歩」

福島市立西信中学校

大内 結愛

ポイ捨てぐらいしていいやという軽い思いが私は、いろいろな問題を起こしてしまふのだと思います。その決してやってはいけないポイ捨ての問題は今私の中で三つあります。

一つ目は、ポイ捨てが町や公園でしてあるということです。私は一度公園でゴミ袋が落ちてあつたりしたのを見たことがあります。ポイ捨てがしてあることでとても悪い印象になってしまいます。特に、子供からお年寄りという広い世代が活用する場所にポイ捨てがされると誰でもイヤな気持ちになります。

二つ目は、ポイ捨てでの影響は人だけではないということです。例えば、きれいな湖にゴミがあつたとします。そうすると、湖にいる動物や生き物が病気になつてしまつたり、死んでしまうこともあるかもしれ

ません。人は大人になっていくごとに、これはいいものか、悪いものかの区別ができますが、動物、生き物はできません。だから、そのゴミを食べてしまうことがあるかもしれません。

最後に三つ目は、ポイ捨てがしてあつても気づいた人が拾わないということです。自分自身も何度かあつたので気をつけようとは思っているのですが、なかなかポイ捨てされたゴミを拾うことができません。ただ私だけではありません。私が町を車で移動している時に、ポイ捨てがしてありました。だけど、だれも気がつかないふりをして、みんな拾おうとしていませんでした。私はまず自分が積極的に、ゴミを拾いたいと思います。

私はこの三つのポイ捨ての問題をどのようにしたら解決できるのか考えました。まず、地区や学校などの大きないはん囲でポスターなどをはつたり、特にいろんな人が利用する場所や、緑の自然をこわさないように森でのポイ捨てなど、注意するようにポスターで呼びかけをする小さなことから初めていくと少しずつでも、ポイ捨てを

しないように説得をすることができかなと思ひました。他にも、森や川の付近をきれいにするボランティア活動に自分自身も参加して、人々のためにもそして動物や生き物のためにも少しでも、きれいにしていけるといいと思ひました。そして、地区だけではなく、町の清掃ボランティアに参加して、町に來た人たちに悪い印象を環境や自然の場所でのポイ捨てで汚いと思われなようにできたらとてもいいなと思ひます。

このように、自然の緑や環境をポイ捨てという悪影響から守ることはとても大変ということを改めて考えることができました。ポイ捨ては今までなにげなく見ていた、考えていたものを、よく考えてみると、ポイ捨てはいろんなものを悪くしてしまい、一番それを妨げるのは自分自身で一人一人が意識をすれば緑が美しい地区から町へ一歩、二歩でもいいけると思ひます。

「きれいな荒川で」

福島市立西信中学校

阿部 有紗

私の住んでいる福島市の荒川は、今月の新聞に、六年連続で水質日本一と記載されていました。記事には、愛護活動の成果とありました。

荒川の水質が良いのは、住民の清掃活動やボランティアに参加している人達の努力だと思いました。私も今度からは荒川の水質を守るため、空いている日は、参加したいと思います。

荒井が田んぼが多いのは、荒川から水を引いているからだと思います。

水がきれいじゃないと、緑の多い田んぼにはならないし、水がきれいだから、おいしい米が作れると思います。

私の家も昨年まで米を作っていました。それまでの夏は、田で仕事をしている父と祖父に差し入れを持っていたり、苗の入っていたケースを洗う手伝いをしていま

した。

小さい頃は差し入れのゴミを持って帰るまで虫をつかまえて遊んでいました。

小さい頃に虫に慣れていたもので、今は家の中で虫を見つけると、かわいそうなのでにがすようにしています。

秋になると、田んぼまで行つて、とんぼとりをしました。神様トンボやオニヤンマをつかまえると、母や兄に自慢してからにがしていました。

それから、兄といっしょにイナゴとりもしました。イナゴが袋からにげようとする、ブンブン振り回してから、またつかまえたイナゴを入れて、三十分から長い時は二時間ぐらい、イナゴとりをしました。

袋いっぱいになると、祖母の所へ行き一週間もすると、イナゴが佃煮になります。私は、イナゴの羽をとる手伝いをしました。ここ、四年間は食べていませんが、機会があつたら、また食べたいです。

これらの楽しい思い出は、水がきれいだからこその思い出です。

荒井にいるまだ小さな子供にも同じように自然と関わりのある思い出を作ってもら

いたいです。

また、荒井に住んでいる高れい者の方には、緑と荒川のきれいな空気を吸ってもらいたいです。

夏になると荒川の近くにはホタルが集まってくる、とてもきれいだそうです。これも荒川がきれいだから見られる光景だと思います。

これからことや、緑、水がきれいなまちを守り続けるには、一人一人が努力するべきだと思います。

例えば、水道に流す洗剤の量を少なくしたり、川沿いのゴミを拾ったりなど小さな努力を続けることで、荒川の水質は守られると思います。

「美しい街にするために」

福島市立西信中学校

佐久間 乃 愛

私は、福島市を美しい街にするために考えた事があります。

まず、資源を大切に、ポイ捨てはしないということ です。休日に家族や友達と出かけた時、街中の道を見るといろいろなごみが風で転がっていることがあり、それを見るたびに気になっていました。そして、それは私たちの地域でも経験します。

そこで、私はまずは自分たちの地域から美化したいと思い、小学生のころに毎日地域のごみ拾いに参加しました。私は、ごみ拾いの活動で歩いている中で「自分の住む地域はいつまでも美しい所でありつづけてほしい、さわやかに毎日ですがすがしい日々を送っていけるようにしたい」といつのまにか思っていました。今は中学校に上がってしまっ て部活と勉強に忙しく、ほぼ参加できない状況ですが、近日に「エコティア

デイ」という学校行事が行われます。なので、町内会のごみ拾いの分以上に力を入れてがんばりたいです。

次に私が考えたのは、緑の豊かな街づくりに ついてです。私はいろいろな体験学習の中で小学六年生の時に、只見町のブナ林に行きました。その世界は、神秘的で、空気がとてもきれいでおいしかったということが一番印象にのこりました。そんな出来事から私は、緑も豊かな街にしたいと思いました。

なぜなら、見るかぎり私の地域や、福島市の中心部などは、山や木以外の緑があまりありません。だから、家の庭や学校からでも、植物を増やす活動ができればいいなと思います。

さらに私は「資源を大切に」という言葉から、限りある資源について考えました。現在のこの地球の資源には、限りがあります。よく、「無駄使いはしないようにして下さい」という内容のポスターを見かけた り、誰かが呼びかけているのを耳にすることがあります。

でも、ポスターや呼びかけだけでは人は

資源を大切にできているのでしょうか。

私が思うその疑問を解決するためには、まず自分から行動したほうがよいのではないかと考えました。例えば、電気をこまめに消したり、水の無駄使いを控えたりなどこの世の中で、水や電気なども、大切にしていけたらいいと思います。また、家以外でも、学校などの公共の場の身近なことから、いろいろな資源を大切にできるよう、務められるようにがんばりたいです。

このような、自分たちの街を美化するために資源を大切に、緑を豊かに、自然環境を大切にしたいという考えがあるので、その思いを行動に移し、言葉を作文にするだけではないようにしたいです。ですが、中学校に進学したことにより、やはり勉強と部活で毎日忙しい日々になりがちです。だから、毎日の少ない時間だけでも行動に起こしたいです。

「今私にできること」

福島市立西信中学校

色 摩 奈 ヲ

私は、学校の帰りに友達と歩いていると、耕耘機がそこにはまっついていて、お年寄りがとても困っていました。それを見て、私達は学校の先生を呼びに行き、お年寄りを助けてあげました。そのお年寄りはいれそうに

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。私達は、お年寄りのうれしそうな顔を見て心がほっと温かくなりました。そして、この体験から助け合うことで優しい心が身につくことを学びました。

親切で愛情あふれるまちをつくるには、地域の人々や近所の人々と普段からコミュニケーションをとることが大切だと思います。例えば、近所の人と会ったら、自分から進んであいさつをするなど少しずつでもふれあいを深めていくと良いと思います

た。今は核家族が増え、人とのコミュニケーションをとることが少なくなってきたと思います。だから、地域のボランティアに自分から積極的に参加したりすると人とのコミュニケーションをとる機会が増えてよりよいまちをつくることができます。

それから、人に優しく思いやりを持つことも大切です。私の経験のように、もしもあのような状況で自分が見て見ぬふりをしていたらお年寄りはどんなに困っていたでしょう。そのまま通りすぎていたら自分は後悔をしていただろう。また、例えばバスでお年寄りや妊婦さんや、車いすのひとが乗って来たら快く席をゆずったり、道に迷っていて困っている人がいたら、優しく道案内をしてあげたりなどいろいろな状況で優しさと思いやりを発揮できるところがたくさんあります。私は思いやりや優しさを持つていると良いことがたくさんあることに気がつきました。それは人に感謝される、人に信用されるなど他にもたくさんあります。でも逆に考えると悪い事ばかりになります。要するに、みんなに思いやりのある人はみんなから愛される、それに対

してみんなに思いやりのない人はみんなから愛されないということです。

このように、今私たちができることはたくさんあります。それは普段から進んであいさつをしたり、地域のボランティアに積極的に参加したりして人とのコミュニケーションを深めていき、人に優しく思いやりをもちながら注意すべきことは注意して、みんなから愛される立派な人間になったらいいなと思いました。また、一人一人がこれらのことを常に意識することで現在より良い親切で愛情あふれるまちをつくることにつながると思います。まずは小さなことから一歩ずつ歩んでいくとそこにたどり着けるはずです。

「支えあって」

福島市立立子山中学校

三 浦 莉 咲

最近、少子高齢化が進み、高齢者が増え
てきました。高齢者には、足が不自由な方
や、目が見えない方、耳が聞こえない方な
ど、体が不自由な方がいます。

足が不自由な方は、車椅子を使いながら
の生活をしています。自分で押したり、人
に押してもらったり、少し力が必要です。
このように、足が不自由で苦労している中、
もっと苦労して生活しています。

目が見えない方は、町の歩道に点字ブロ
ックがあります。しかし、ボロボロになっ
てしまったり、たくさんの方が通りはがれ
てしまったりしている所をニュースで見た
ことがあります。目に見えない中、一生懸
命に過ごしています。けれど、目のみえな
い方を私たちが知らない間に不安にさせて
いました。

耳が聞こえない方は、紙を使って会話を

したり、テレビを見るときは手話で話の内
容を理解しなければいけません。そのため、
手話を覚えるまでは、なにも分からなくな
ってしまいます。

こんな体が不自由な方々に私たちは親切
にしてあげたいと思いました。

足が不自由な方には、重い荷物を持つて
いるときには、かわりに持つてあげる。目
が見えない方には、声をかけたり、手を引
いてあげたりして、サポートをしてあげる。
耳が聞こえない方には、紙に文字を書いた
り絵を書いたりして楽しませてあげる。そ
んなように体の不自由な方を不安にさせな
いように、私たち一人一人が親切にするよ
うに努力をしていきたいです。

私たちは、知らない間に高齢者の方を不
安にさせてしまっていました。高齢者の方
たちは、不安な毎日も、明るく楽しく、い
つも笑顔で生活しています。そして不安も
ある中、私たちに優しくしてくれたり、た
まには、声をかけてくださったりしてくれ
ます。なので私たちもその恩返しだと思い、
高齢者の方の不安が少しでもなくなるよう
に、毎日を楽ししく生活してもらえるように

したいです。そして、みんなが優しい心を
持ち生活していきたいと思っています。小
さなことでも、きっと喜んでくれると思い
ます。そして、この町を、親切で愛情あふ
れる町になるように、みんなで協力しなが
ら生活していきましょう。また、みんなが
支えあいながら、交通事故などのないよう
な安全な町にしていきたいです。

少子高齢化が進むことはたいへんなこと
だけれど、みんなで協力すれば明るい町に
なると思います。なのでみんなが優しい心
を持ち一人一人が努力をし、みんなが親切
で愛情あふれる町をつくれるようにしまし
よう。そして毎日を楽しく、明るく、優し
さを持ち、高齢者の方を勇気づけられるよ
うにしましょう。そして、みんなで支えあ
える町にしていきたいです。

「安全で健康な町づくりのために」

福島市立立子山中学校

三 浦 莉 星

私の福島市民憲章のテーマは、子供からおとしよりまで安全で健康な町づくりについてだ。世界では少子高齢化が進んできている。高齢者の方は、目や耳が見えなかったり聞こえなかったりする。目が見えないと、段差に気づかず、転んでしまうことがある。耳が聞こえないと、危険な所に行ってしまったときに、呼んでも聞こえないため、気づかず、けがをしてしまうことがあるかもしれない。

子供の場合、遊んでいる時に、ボールなどが道路にころがってしまう。その時に、飛び出して事故にあってしまったら、立ち入り禁止でも知らずに入ってしまうことがある。

このようなことを減らすために、段差を少なくしたり、ポスターなどを目立つ場所や、事故の数が多い場所、危険な場所には

ると良いと思う。

しかし、それだけでは、まだ安心はできない。

最近は、おれおれ詐欺などに、きづかずにだまされてしまう人が少なくない。自分はまだされないと思っても、油断してしまい、だまされてしまう。しかし、自分は、だまされてしまうと思っていると、注意をしているので、だまされる人も少なくなるのではないかなと思う。

他にも、くまにおそわれて亡くなる方や、ケガをする人、くまを目撃した人もたくさんいる。とても危険なくまは、人をおそう。小さな子供や、おとしよりの方は、逃げおくれしてしまう方もあると思う。そのため、くますずをつけるなどという工夫、よびかけなどを行うと、被害をうける方も少なくなるし、みんなが、安心、安全に生活ができると思う。

子供やおとしよりのことを考えて、呼びかけや、ポスターをはるなどということをやれば、被害が減少すると思う。これから、安心安全な町にするために、私たちも、できることをやっていきたい。

「安全で健康なまちを目指して」

福島市立立子山中学校

三 浦 ひ な

私の選んだ市民憲章は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。なぜ選んだかというと、福島市だけではなく、日本は少子高齢化社会なのです。子どもが安全に、健康に過ごせるまちをつくれば、あそこは、安全に健康に過ごせる施設や設備が整っているというところで移住する人が多くなるはずです。子どもが増えていけば、少子化問題の改善になると思います。おとしよりの方が安全で健康に過ごせるまちをつくれば、今よりもっと住みやすくなり、おとしよりの方が安全だなと感じることが多くなってくるのではないのでしょうか。

それでは、安全で健康なまちをつくるためにどうすればいいのでしょうか。私は二つの案を出します。

一つ目は、子どもからおとしよりまでが

楽しんで健康な体づくりができる施設をつくることです。なぜかというと、子どもからおとしよりまでが無理なく楽しんで体づくりをすることができれば、子どもの身体能力アップにつながるし、病気の防止にもつながるはずです。

二つ目は、介護施設、保育園、幼稚園の充実です。今、日本では介護施設や保育園、幼稚園の施設不足が問題になっています。保育園や幼稚園が増えれば、入れる保育園がなくて困っている方々を手助けすることができますし、子どもが入ってきて、人口増加にもつながります。介護施設を増やせば、介護が必要な方も入れて、より一層安全で健康な生活を送れると思います。ただし、これらのことにはデメリットがあります。それは人手と建築費用です。ですが、時間をかけてでもこれは実現してほしいなと思いました。

安全で健康なまちをつくるために、子どもからおとしよりまでが楽しんで健康な体づくりができる施設をつくる、介護施設、保育園、幼稚園の充実をしていってほしいと思いました。

「もっと大好きな福島市に

するために」

福島市立立子山中学校

加藤 杏 優

私は自分の地元、福島市が大好きだ。誰もが職業に一生懸命だったり、自然が豊かだったり福島市には良いところがたくさんある。私が大好きな福島市が成り立っていたのは、福島市民憲章があるからだと考えている。

その中でも私が最も大切だと考えている憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という憲章である。理由は二つある。

一つ目は、道路などの通路にごみが落ちていることがあるからだ。学校の活動でクリーンアースプロジェクトというごみ拾いの活動がある。ごみを拾いきれいになったと思って翌日にはごみが増えていて残念な気持ちになったことがある。この事を何度か経験していると、ポイ捨てをしている

人の福島市への愛情が感じられなくなってしまうのだ。

二つ目は、困っている人にあまり親切でないからだ。私は歩道で目が不自由な方が歩いているのを見たことがある。この方は、前や後ろに動いて棒を頼りに場所を確認していた。私はこの方がとても心配になった。

この目が不自由な方の周りには数人の人がいた。にもかかわらず、誰一人この方を助けている人はいなかった。私はこの事を通して、自分も助ける人がどんな人であっても、積極的に声をかけてあげたいと思った。

この理由を踏まえ、私、そして市民全員がもっと大好きな福島市を実現するために努力したら良いと思うことがある。それは、一人一人が思いやりの心をもって行動することだ。公共の場ではマナーを守ったり、困っている人がいれば声をかけたりするなど、思いやりの心を持って行動することとはたくさんある。このような行動は小さなものかもしれない。しかし、この小さな行動が福島市を変える大きな一歩につながると、私は考えている。

そして、福島市が大きな一歩を踏み出せ

たとき、どのようなまちになっているのだろうか。それはきっと、憲章にもあるように、愛情であふれている優しいまちになっていると思う。このときがくるのは、いつかわからない。たとえ、このときがくるのが遅くても一人一人が思いやりの心をもって行動することが大切である。将来、福島市が愛情であふれている優しいまちになったら、次は日本、世界も愛情であふれている優しい地域になったらいなと思ってる。世界がこのような地域になれば、争いのない明るい世界になり、たくさんの方が楽しい毎日を過ごせるのではないだろうか。

「笑顔の日々へ」

福島市立立子山中学校

佐藤 恵里奈

私が住んでいる町は立子山です。みどり豊かでとてもきれいな町です。今は少子高齢化が進んでいて、私の学校はとても人数が少ないです。そのため地域のみなさんに助けていただくことがたくさんあります。大切な休みの休日に奉仕作業に来ていただいたり資源回収にご協力していただいたり、朝早くからの行事でも笑顔で来てくださる地域のみなさんはとても親切だなと思います。私は親切で思いやりのある人がたくさんいる立子山が大好きです。

最近では、熊本大震災や台風が来るなどたくさんさんの自然災害が起こっています。災害の被害は大きく、食料がなくなったりお家がくずれてしまったりします。そんな時は助け合いが大切だと思います。災害によって家族を失われて一人になってしまった方はたくさんいます。しかし周りの人の支

えがあれば立ち直ることができます。どんなに町がくずれてしまってもたくさんの人たちが親切で愛情があふれている町ならくるといい時でも笑顔になれると思います。私の町は五年前東日本大震災がありました。私はまだ六才で地震が起こった時はとても不安でした。しかし、

「大丈夫だよ。」

と声をかけてくださった方がいました。私はとても不安だったけれど、その言葉を聞いて少しほっとしました。私はとても人見知りで初めての人だときんちょうしてしまい上手に話すことができません。しかし困っている人を見つけたら勇気を出して自分から声をかけにいきます。また困っている人がいて直接行くことが出来なくても、自分に今できることは何なのかをよく考えて少しでも困っている人の役に立てたいと思います。

人に親切にするということは、簡単そうで難しいことだと思います。しかし今困っている人はたくさんいるし、どんなにささいなことでも親切にするとたくさんの人たちが笑顔になると思います。

私は人は助け合いがとても大切だと思います。どんなことでも助け合えばのりこえることができるからです。助け合えるとは人に親切にすることだと思います。そのため私は、「親切で愛情あふれるまち」をもっとつくりたいと思いました。

「福 島」

福島市立大島中学校

渡 邊 温 人

ぼくは福島がもつといい町になると思います。

空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょうとありますが、みんなでがんばっていけばいいと思います。

教育と文化を尊び希望にかがやくまちをつくりましょうとありますが子どもがだれでも勉強をできるようにしてまちそれぞれにある文化をまもっていけばいいと思います。

親切で愛情あふれるまちをつくりましょうとありますが、おとしよりの人や子どもにやさしくせつして安全なまちをつくればいいと思います。

きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょうとありますが、きまりを守るのはどこにいても同じでみんなで力をあわせることだってむずかしくな

いし、だれでも働けるのだから働くなら楽しく働けるまちをつくっていけばいいと思います。

子どもからおとしよりまで安全で楽しく健康なまちをつくりましょうとありますがいままちではいろいろな事件がおきています。いやな事件を警察の人は楽しく働けていません。子どもからおとしよりまで安全にくらすために事件などをおこさないようにしなければなりません。健康に生きるためにも事件などおこしてはいけないと思います。

このこと全部をいつきにできません。できることからコツコツ積みかさねていけばよりよいまちができあがると思います。空や水をきれいにするのも生活ででたゴミや汚染水をださないように、ゴミの分別などといういろいろなたいさくがあります。そういうもののや事件などをおこさなければそれぞれの町の文化をすることができ楽しく健康で安全なまちができてくると思います。

「私達が少しでもできる事」

福島市立大島中学校

菅野 奈那

私は福島市民として福島市民憲章にあることに全力をつくしたいと考えています。

まず私が一番がんばりたいと思うのは、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」と言うものです。

私は、電車などで席をゆずったりなど私達に出来ることは少ないですが、少ない事からコツコツとやっていけるようにがんばっていききたいと思います。

そして私がすごく大切にしたいと思ってるのは二つあります。

一つ目は、

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」

というものです。

福島市民が暮らすうえでとても大切な事だと思っています。福島の人々からまちづくりをしていき、観光客の人達が福島にまた来

たいと思ってもらえるようなまちにしていきたいと思っています。

二つ目は

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」

というものです。

まちがどんなにきれいでも、まちの人達が親切でなかったら、観光客もまた来たいなんて思わないと思います。

でも、福島の人達はみんなとても親切だと思います。福島の方言が私は好きでなんだか親近感がわくような感じがして好きです。

そして果物を愛情こめてつくってくださいっている農家の人達がとてもすごいと思います。

福島市民憲章はどれも大切な事ですが、私が全力をつくしたいと思ってることについて考えてみて、文化は、各地域によって全然ちがうこともあります。私は飯坂太鼓を小学校の約二年間やっていてパルセの太鼓まつりでは他の県などの太鼓を見ることで勉強になることもあります。私は中学校でも太鼓は続けると決めました。

福島市民憲章の事の中で私達にできることは決して多くないと思いますが、一つ一つ小さな事にもとりくんでコツコツとがんばっていききたいと思います。

「あいうえおの町」

福島市立大島中学校

伊藤 大智

ぼくは、夏休みの宿題で市民憲章作文を書く事になって、はじめて福島には市民憲章というすばらしいものがあるという事を知りました。今回、福島市民憲章の五つを知り、その中の一つ「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という事について考え、ぼくもそんな町を作りたいなあと思いました。

ぼくの通う大島中学校の校長先生はいつもこんな事を言っています。

「あいうえお学校!!^①、明るい学校、^②、いじめのない学校、^③、美しい学校、^④、笑顔あふれる学校、^⑤、思いやりがある学校!!こんな学校になるようにがんばろう！」

です。ぼくはこの言葉を聞いて、市民憲章を広く市民の皆様にも知ってもらおうチャンスだと思い、校長先生がいつも言っている

「学校」の部分を「町」に言いかえて「あいうえおの町」を考えました。

「^①、明るい町、^②、いじめのない町、^③、美しい町、^④、笑顔あふれる町、^⑤、思いやりがある町、こんな町になるようにがんばろう！」

です。

そしてこの「あいうえおの町」を作るには大切な事がいくつかあります。

まず一つは、明るい町を作るには「あいさつ」が大切だと思います。あいさつは、される側もうれしいし、する側も気持ちがいいです。町の人と自然にあいさつができるようになれば、今よりもっと明るい町になると思います。

次に、いじめのない思いやりがある町にするためには、相手の気持ちを考える事が必要だと思います。自分勝手ではなく、自分がされて嫌な事は相手にしなければ、いじめはきつとなくなると思います。

そして美しい町を作るには、ポイ捨てはもつてのほかです。きちんとゴミを持ち帰るか、決められた場所に捨てる事が大切です。さらに、落ちているゴミを拾う事がで

きれば、町はもっとキレイに美しくなると思います。

笑顔あふれる町には、笑顔あふれる人達がいる、一日一日を大切に平和にくらしています。

町をよくするのは、その町に住んでいる人々だとぼくは思います。

ぼく達一人一人が相手の気持ちを考え、相手を思いやり、親切で愛情あふれる町にしていけるように努力したいです。

そして、ふるさとの福島をほこりに思い、もつともっと住みよい町になるように、これから町づくりに協力していきたいと思っています。

「わたしたちにできること」

福島市立大島中学校

鎌田 愛澄

わたしは、この作文コンクールで、初めて、「福島市民憲章」があることを知りました。「一、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。一、教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。一、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。一、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。一、子どもからおとしりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」どの市民憲章もすごく、良いなと思いました。その中でもわたしは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」この市民憲章について、作文を書こうと思いました。なぜなら、この市民憲章に共感できたからです。

福島は、みどりがたくさんあって、自然が豊かですね？みなさんは、こんな福島をどうしたいですか？わたしは、この自然

を大切に、もっとより良い環境をつくっていくことが大切だと思います。

そのために、わたしたちは何ができるか次のことを考えてみました。一つ目は、ゴミのポイ捨てをやめることです。ゴミをポイ捨てすると、自然がよごれて、自然がこわれてしまうと思います。そこで、ポイ捨てしないように、一人ひとり心がけることが大切だと思います。

想像してみてください。近所の川で、ほたるが飛ぶ姿を見たら、どうですか？とてもすてきだと思いますか。ほたるは、美しい清流でなければ、生息することができません。そのために、生活は水を少しでも少なくする努力を各家庭ですることができれば、わたしたちの川も、今よりもずっと美しく生まれ変わることができるのではないのでしょうか。

あたりまえの様に、わたしが見上げる空は、青空が広がり、夜は、星空が広がります。この美しい空を守りながら、生活をするのが、わたしたちの努めだと思います。

自然をこわすのは、簡単です。でも、自

然をきれいにすることは、けっして簡単ではないと思います。だから、今から、少しずつより良い自然を目指して、がんばっていったらいいと、わたしは思いました。

二つ目は、ゴミのポイ捨てを見たら、進んで拾うことです。そうすれば、きれいな自然に、少し近づくと思います。

美しい自然のもと、子どもからおとしりまで、安心して、生活できるまちづくりをしていくことが大切なのではないでしょうか。

「福島市民憲章」

福島市立大島中学校

清野 千宙

私はこのテーマである「福島市民憲章」が何のことかさっぱり分かりませんでした。そこでまず憲章の意味を調べる事からはじめました。

憲章…重要で根本的なことを定めた取り決め。特に、基本的な方針や施策実行すべき計画などをうたった宣言書や協約。

と書いてありました。この意味を知ったあとでもう一度「福島市民憲章」の五つのを読みました。どれをとっても私たちが生活していく上で大切なことで、心がけなくてはいけないことだと思いました。その中でも私が気になった憲章は、親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。でした。

私たちは六年前に東日本大震災を経験しました。特に津波、原発により住む場所を失った人たちのショックは計り知れなかったと思います。そんな中での知らない土地

での仮設住宅生活は大変な事だと思っています。それでもみなさんが元気に前向きに暮らしているのは、そこに暮らす人々がお互いを思いやり、親切に接している事や外部の方々からの支援という形の愛情や、思いやりとかがあったことで住みよい場所を自然と作りあげてくれたのではないかと思いました。

もしもお互いが無関心で思いやりもない人達だったらどうなるでしょう。自分さえよければ他人はどうなってもいいとか、困って助けが欲しい人を見ても何とも思わない。これでは住みよいまちではなく、住みたくないまちとなってしまいます。

これは他の憲章にもいえる事です。私はこの五つの憲章は全てつながっていて、ひとつでも努力を欠いてしまうとすばらしいまちづくりはできないと思っています。

私たちに出来ることは、身近な人たちへの思いやりを忘れず、困っている人がいれば手をさしのべる勇気をもつことだと思っています。そのような心がけを持つことでよりよいまちづくりに貢献できるのではないのでしょうか。

今回この「福島市民憲章」を知ることによって、自分がどうすべきかを考える事ができてよかったです。

「住みよい福島にするために」

福島市立大島中学校

安 齊 伶 菜

わたしは、福島をもっとよくするため、まず「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」について二つ考えました。一つ目は、ポイ捨てをなくすることです。そのためには、ひとりひとりが自分のごみは自分で捨てるという自覚を持たなければいけません。ごみ箱がなくても自らごみ袋を持ってくれば、ポイ捨てはなくなります。二つ目は空気をきれいにすることです。いま世界は地球温暖化で大変です。そのわけは森林伐採だったり、工場や車の排気ガスだったりします。とくに排気ガスは空気をよごす原因です。その解決策は工場だったらガスをきれいな空気にして排出するか、車などだったら近いところに行く場合、歩きや自転車を使って行くなどあります。次に「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」について、一つ考え

ました。それは、文化や歴史が感じられる建物や行事とふれあう機会も増やし、その良さを感じ、知ることです。

そして、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」について三つ考えました。一つ目は困っている人がいたら、助け合いをすることです。二つ目は、家族や友達をどんなときも大事にすることです。三つ目は、最近おとしよりが増えてきているのでおとしよりに優しくすることもいいと思います。

また次に、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」について二つ考えました。一つ目は、ボランティア等を増やし、だれでも力をあわせて楽しく働ける場をたくさんつくることです。二つ目はきまりを守ることにについてです。きまりはきちんと分かっているといえないので、しっかりと理解しておくことが大切だと思います。

最後に「子どもからおとしりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」について、二つ考えました。一つ目は、みんな安全にくらせるよう、道路や、歩道などを整

理してほしいです。とてもせまくて車が本当に通るのかな？と思うところや、歩道がなくて危ないところがたくさんあります。そこを直せば安全なまちがつけれると思います。二つ目は毎日健康にすごすために、早寝・早起き・朝ご飯を守り、昼間などは外で遊んだり、散歩したり少しなど運動してみるといいかもしれません。夏の暑い日だと、家の中でも外でも熱中症になるので水分補給はかせません。

わたしは、今、挙げたような、福島になることを願っています。

「市民憲章に込められた意味」

福島市立大島中学校

本 田 夏 葉

私は、正直市民憲章をくわしく見たことがありますでした。改めて見てみて、一番大切だなと思ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」ということです。理由は、親切な人というのは、困っている人を助けたり、協力して助け合えたりする人だと思えます。なので、そういう人達が増えれば、自然と争いごととか悪いことも無くなっていくと思ったからです。

あと、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」というのも大事だと思います。特に、「力をあわせて楽しく働ける」というのは、将来働く私達にとっても大事なことで、今実現されているかわからないけど、もし実現されていないんだったら、これからそうやっていったらいいなと思います。

「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」は、福島文化を知らない人達に知ってもらえるように、自分達も、例えばお祭りに参加しようなどの意味があると思うのでいいなと思いました。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」は、夕焼け空や青空はすぐきれいだし、自然もたくさんあるので、ほぼ守られているんじゃないかなと思いました。

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」は、言い変えると、どんな人でも安全で健康に暮らせるまちをつくりましょう。ということだと思うので、例えば障害を持っていたとしても、そういうことは関係なく安全で健康に暮らせるまちをつくらうというような意味があつてこれも大切だなと思いました。

それぞれの憲章について詳しく考えてみると、五つ全部が大切だということがよくわかりました。一つ目には自然を大切にしようという意味、二つ目には、しっかり学んで、文化を大切にして、希望を持って過ごそうという意味、三つ目には人に親切に

できる心を持つことと、愛情を持って人と接することができるようになろうという意味、四つ目にはちゃんときまりを守って、協力しあいながら楽しく働けるようにしようという意味、五つ目にはだれもが安全で健康に暮らせるまちをつくらうという意味が込められているのかなと思いました。これからも、市民憲章のことを忘れずに過ごしていこうと思いました。

「こんな大人達に囲まれて」

福島市立大島中学校

芳賀 拓人

僕が住んでいるのは、福島市の北部にある飯坂町です。飯坂町は、温泉街として有名で観光客も訪れます。その他にも、毎年の秋には、「飯坂けんか祭り」が行われ、子どもから大人まで、町民が一体となって盛り上がります。また、年間を通して多くのイベントがあり、町を盛り上げようとしています。

このように飯坂町には、町全体を盛り上げようと、さまざまなイベントが年々増えています。それは、飯坂をもっと盛り上げようとしている飯坂の大人達ががんばっているからです。

僕は、ほとんど飯坂町で行われるイベントにはよく行っています。その各イベントを行っているのは、小さいころから知っている町の大人の人達です。それは、仕事ではなくボランティアです。みんな町のため

にと思って、協力しています。元気にそして楽しそうにイベントを運営している姿は、僕の目には、かっこよくて、すばらしい大人に映っています。

特に、「飯坂けんか祭り」に関わっている人達は、僕にとって憧れの的です。その理由は、祭りに真剣で、仲間を大事にして協力し合って祭りを通して町をより盛り上げようと伝統を繋げているからです。

また、飯坂町の人々はだれにでも明るく元気にあいさつをします。なぜなら、飯坂町の人達は、祭りやイベントを通して協力する場面が多いので、つながりが強いのです。しかも年れい問わずあいさつを交わし合います。特に大人は、子ども達にあいさつをはじめ、礼儀作法や、人とかかわり方に厳しいです。でもそれは、大人がどの子どもでも町の大切な子どもだから大切に、育てていきたいと考えているからだだと思います。

僕は、こんな大人達にかこまれて、育ちました。僕は飯坂の大人達みたいに、仲間を大切にし、協力し合える大人になりたいです。そして、親切で愛情があふれるこの

飯坂町で、ずっとくらしていきたいです。

「みんなが親切で

愛情あふれるまちに」

福島市立大島中学校

木村 香月

私は、福島市民全ての幸せを願いたいと思っています。でも、福島市民全ての幸せを願うには、私たちが何もやらなければ、何も変わらないと思います。だから、私たちも何かやらなければなりません。その「何か」とは何だろうかと考えてみると、少し頭に浮かんだのが、みんなが親切になればいいという考えです。でも、みんながみんな、親切になれるわけではありません。だから、自分から意識して、少しずつ親切さをアピールできればいいと思います。

その親切さをアピールするには、まず一つ、あいさつをしつかりすることです。必ず会った人には、元気良く大きな声であいさつすることを心がけた方が良いと思います。なぜなら、元気良く大きな声であいさつをすると、あいさつをされた人は、と

ても気持ちが悪くなり、

「今日一日がんばるぞ!」

という気になれます。逆に、あいさつをした方も、さわやかな気持ちになり、元気良く一日を過ごせます。あいさつは、自分と相手の気持ちを落ちつかせてくれるのに、とても大切です。

二つ目は、思いやりのある心を作ることです。自分ができる小さなことから、少しずつ行っていく、思いやりのある、だれにでもやさしい心を自分の力で作っていくたいと思っています。例えば、落とした物を拾ってあげたり、

「貸してほしい。」

と言われたとき、その物を貸してあげたりと、このようなだれにでもできる、小さなことから思いやりのある心を、完成へと近づけていきたいと思っています。

「自分にできることなら何でもやる。」

という強い気持ちを持って、思いやりのある心を磨き上げていきたいと思っています。

この二つの親切さを常にアピールできるように、自分でしっかりと意識し、少しでも親切で愛情あふれるまちづくりができれば

いいなと思います。

「親切で愛情あふれるまちに

するために」

福島市立大島中学校

篠 木 ころ

私の住んでいる飯坂町は、山に囲まれていて果樹園がたくさんある、自然豊かな所だ。そして、周りの住民が親切だ。農家が多いためか、季節ごとの果物をたくさんの人々が持ってきてくれる。どれもおいしいし、果物から優しさがにじみ出てくる。さらに道を歩けばゴミはほとんど落ちていない。福島市内のまちを歩くと、たばこの吸い殻やアルミ缶、お菓子の袋、ペットボトルなどのいろいろな物がたくさん落ちていて。まちの様子を見ると道路に捨てられているゴミを拾ってくれる人もいる。でも、ゴミを拾ってくれる人がいてもまたゴミを捨てている人がいてのくり返しになっていると思う。だから、ゴミを拾ってくれている人の親切さを裏切らないように、一人ひとりがゴミを捨てないようにするという意識を

持つことが大切だと思う。

親切で愛情あふれるまちをつくるには、このような小さな事から直していく必要があると思う。

また、愛情あふれるまちをつくるためにはあいさつが大切だと思う。学校へ登校する時や部活帰りに、地域の人などとすれちがった時に元気よくあいさつをしている。地域の人もあいさつをしてくれる。あいさつを一人ひとり交わすことで、あいさつをつなげて愛情あふれるまちになるのではないかと思う。

それから思いやりというのも愛情の一つではないのか。毎朝、学校に行くときに横断歩道を渡る際、地域の方々が誘導してくれている。そのおかげで私たちは安全に学校へ通うことができている。

他にも、バス停がないところでも、お客さんの要望に応じてバスを止めてくれる。それも福島の愛情なんだと思う。

私たちが、努力すれば福島は、親切と愛情がたくさんあるまちになると思う。福島をより、親切で愛情あふれるまちにするために小さな事でもがんばろうと思う。

「みどりあふれるまち」

福島市立平野中学校

瀬川 未羽

私の家の周りには、桃の畑がいっぱいありました。おじいちゃんも、作っていて、毎年あまい桃が届いていました。小学一年生までは、周りの景色が畑の緑でいっぱいでした。

二〇一一年三月十一日に東日本大震災が起きました。不幸といっしょに降ってきた雪の中をバイクでおばあちゃん家まで行ったりしました。この時は、水も電気も通ってなく、何も情報が入って来ませんでした。二日目ぐらいからテレビが見れるようになり、自分の家よりもひどい所や津波が押しよせて来た所があるのを知りました。

原子力発電によってできてしまった放射線。一年のころの私にはこれがどんな事なのか、これからどのようなのかまったく分かりませんでした。

六年生になったころ、除染作業が始まり、

登校をしていると作業の人が、誰かと話していたり、土をほっている所が見られました。だんだん近くまでせまって来ていました。目の前と後ろの畑は桃の木を切つてしまい、前は土ごと変えられ何も無い所になっています。他の場所では家を建てられたりしています。公園や空き地には大きく育った雑草があり、茶色にかれてしまつていたりして、とても悲しく見えます。

私の家でも土はなくなり、代わりに小石がしかれました。その分、植え木ばちに小さい木を植えたりしました。今は、トマトやヒマワリなどが花だんに植えてあります。

こんな風に、空いてしまった、もともと緑のあった所、果物や野菜が取れていた所には、簡単に育てられる植物を植えたり、公園にはプランターなどに花を植えたりするといいいのではないのかなと思います。なぜかという、まちが花で明るいイメージになり、桃の木をまた新しく育てるのは大変だと思うので、ちがう植物を育てていけば、昔のみどりのある明るいまちになるのではと思ったからです。

今、除染作業を行っていて、それをきっかけに畑仕事をやめてしまい、みどりが少なくなつて来ているのかなと思いました。でも、ちよつとした花や野菜を育てるだけで、昔とほとんど変わらない「みどりのまち」ができるのではないかと私は感じました。自分達でも、花や野菜なら、少しの場所のできる、みどりを元にもどす手伝いにちよつとでも役に立てるようにしたいと思いました。

豊かな緑には、私たちに安らぎをあたえてくれます。お年よりから小さい子どもでも、ほつとできるものです。少しの努力の積み重ねで、みんなの力で、福島市をよみがえらせ、発展させていきたいです。

「大切なこと」

福島市立平野中学校

小野 悠莉

私の家は農家だ。青い空、清らかな水のもと、りんご、梨、ぶどう、桃など約八種類の果物を育てている。私は、小さいころから畑を見ているからか、福島の自然が大好きだった。

しかし、たくさんあった自然が最近少しずつ減りつつある気がする。この前、小さいころよく遊んでいた公園の前を通りかかった。その公園は、前までは隣にりんご畑があつて、きれいなわき水が流れている自然にあふれた公園だった。でも、現在はりんご畑が無くなり、木も少し切られていた。また、人影も少なく何だかさみしく見えた。そして、小学校の近くにあった田んぼも、今では無くなり住宅地になっている。私は、このことの原因は二つあると思う。

一つ目は、震災だ。震災は、原発事故により、放射線物質という有害物質を残して

いった。この影響によって、除染のために木を切つて、出て行つてしまった人を呼びもどすために便利な所に住宅地や施設を建てて、そのために自然を切り開いていく。私は、放射線を減らすのも大切だが、自然を残していくのもとても大切なことだと思う。

二つ目は、高齢化だ。最近は日本でも問題になっている。このおかげで、畑の手入れができなくなつてしまつたお年寄りが畑を手放してしまつていくと思う。福島の畑は、とてもきれいなので、皆で守っていくことが大切だと思う。

福島の自然は、皆で力を合わせてつくっていくことが大切だと思います。いつもやさしく見守ってくれる地域の人々とのつながりや、食生活など、私たちの身の周りには、たくさん自然と関係のあるものがある。私は、このことを守っていくために、次の二つのことが大切だと思う。

一つ目は、植物を大切にすることだ。放射線を減らすのに、植物を減らすのは必要なのかもしれないが、そのかわりに、新しく植えるなど、植物があふれる福島にする

べきだと思う。

二つ目は、高齢者を皆で見守っていくことだ。少しの声かけだけでも、関係はつくることができる。だから、小さなことから少しずつつながりを深めていくことが大切だと思う。

これから私達は、福島の未来を良くするために、少しずつ出来ることから始めるのが大切なのではないだろうか。

同じ学校の卒業生は、震災後に、東京での修学旅行先で福島のおいしい桃を宣伝してきたと聞く。私たちも、この福島の地から、さまざまな良さを発信していけるよう、いろいろな情報を得て取り組んでいきたい。

「心と自然の綺麗な福島」

福島市立平野中学校

阿部 香乃実

私は、この作文を書くまで「福島市民憲章」というものがあることを知りませんでした。そんな私が憲章の中で、一番大切にしたいと思ったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」でした。

福島市といえば、やはり果物で有名ですから、自然も水も綺麗であれば、果物もおいしく実ることでしょう。つまり、私達がより良い自然をつくっていけば、果物もおいしくなり、それを食することができるのです。一石二鳥だと思います。それに、今年の七月十一日に、福島の荒川が六年連続で水質が日本で最も良好な河川に選ばれました。これは、素晴らしいことだと思います。この河川は、これからも守り続けたいと私は思います。日本一という称号を守ってほしいという思いもありますが、これからも福島市の誇れる綺麗な河川であってほしい

です。

そのために、私たちは身近に出来る自然を守る工夫に取り組んでいってほしいと思います。あたりまえなことでも、福島市だけでなく、地球を守るためにもなります。水を大切に使用したり、ゴミを分別する、水筒やエコバックを利用すること、私達が簡単に出来ることで、自分たちの自然のこれらの結果が変わってくると思います。

さて、私が大切だと思った憲章がもう一つあります。それは「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。愛情は、気持ちでは表すことは簡単かもしれませんが、言葉や行動で表すのは、家族のような関係でないと難しいと思います。だからこそ「つくりましょう」というふうに書き示しているのだと思います。率直に伝えることは出来なくても、少し気の利くことをしたり、嘘の無い、素直な笑顔になること、それぞれが、相手に少しでも愛が伝われば、愛情あふれる町になるのかなと思います。

「親切」とは、思いやりが深く、人のために尽くすというような意味があります。このことにも誠意を持って、どんな人にも

親切に接してもらいたいです。

「心と自然が綺麗なまち」という言葉で有名になれるような、そんな福島市になることを祈っています。

そして、私自身も、福島市民の一人として、相手への思いやりを忘れず、環境づくりに貢献していきたいと思います。すばらしい福島市の未来のために…。

「福島 of 自然と思ひ出」

福島市立平野中学校

石 井 遥 貴

僕 of 家の窓からは、吾妻山が望めます。僕 of 部屋からは、桃が実った果樹園を見ることが出来ます。

僕 of 家のまわりを例にとってもわかるように、ここ福島市は、自然がとても多いところだということがわかります。そんな自然が多いこの市には、数々の思ひ出があります。その例をいくつか挙げてみたいと思います。

まず、信夫山です。福島市 of のほぼ中心に位置するこの山は、ジブリ of の映画、「となりのトトロ」 of の主題歌、「さんぽ」 of のモデルにもなり、毎年「わらじ祭り」で使う、大わらじも奉納されています。

僕は、幼稚園 of のころに、この信夫山に登りました。途中、何度も何度も転びました。帰りたいと思うときもありました。でも、登るという決心をして家を出たので、なに

がなんでも進みました。そして、やっと of の思ひで登りきりました。

僕は、そこ of の景色を忘れたことがありません。福島 of の街が一望できました。阿武隈川が見え、その西を見ると、福島 of の繁華街と吾妻山が見えました。この景色は、まだ幼い僕に大きな影響をあたえてくれました。

そして他には、飯坂温泉があります。僕が住んでいる平野から近かったので、よく足湯につかりに行きました。毎回足湯につかる度に、周りの人が僕たちに話しかけてくれて、とても身も心も温まりました。僕はここで、周りの人との交流による優しさを知りました。

今までの思ひ出を通して、僕はこのたくさん of の自然が僕にいろいろなことを教えてくれました。それは、学校で先生が教えてくれるようなことではありません。これから、人間として生きていく中で大切なことを教えてくれるのです。

その自然も、一時期は東日本大震災により、福島第一原子力発電所 of の事故によって、危険だと思われたこともありました。しか

し、福島 of の自然は、全く姿も形も変えませんでした。危険なら、少し見た目が変わってくるはずなのに、何も変わりません。やはり、危険なんかはないと思ひました。

そして震災からおよそ五年たった今、被害にあった場所が、少しずつ震災が起こる前の姿に戻りつつあります。きっと何十年か先、きっと福島は完全にもとに戻ると願っています。

僕は、これからどのような人生を歩むのかわかりません。しかし、この福島 of の自然が教えてくれたことを忘れず、生きていくと思ひます。

「自分の夢を未来へつなぐ」

福島市立平野中学校

平田 凜

私には、将来の夢が二つある。一つはバスケットボール選手だ。小学五年生からバスケットボールを始めた私には、今年のオリンピックにも出場した憧れの人がいるのである。その選手に少しでも近づけるよう、毎日の部活動に真剣に取り組んでいる。しかし、そのバスケットボール選手という夢のかたわらに、私にはもう一つの夢、看護・介護関係という仕事がある。

看護・医療関係の仕事が頭のかたわらについたきっかけは、母である。母は、清水病院という福島市の大原病院に共同しているような病院で准看護師をしている。老人から高校生まで、様々な人達の世話や話を聞いたりしているそうだ。

私は一度、母の病院へ行ったことがある。母が仕事をしているときと家で家事をしているときの目はまるで違う。今しているこ

とに熱心で、あのときのするどい眼差しは今でも忘れられない。

母は、夜中まで仕事をしているときがある。夜勤といって夕方から夜中の一時くらいまで働いて家に帰ってくる。私も看護師になったら、こうなるのかなと考えながら、母の姿を見ている。

私は以前、テレビを見ていたとき、看護と共にテレビに映ったものがある。介護だ。いま日本は、高齢者が増えてきている。しかし、その高齢者を介護する介護士が高齢者の人数に間に合わない、というものである。このニュースの特集を見て、大変なんだなという気持ち以上に、人を助けたいという気持ちがこみ上げてきたのが、そのとき自分でも分かった。

私は、母の姿を見て、看護師や介護士になろうと思った。なぜなら、私の力で一人でも多くの老人を助けようと思ったからだ。老人に親切で、老人が健康に過ごせるような福島市をつくりたいという思いを未来へ、自分の手でつなぎたいと思う。

東日本大震災以降、苦労もあつたこの福島

の様子がニュースなどで伝えられる。そのたび私も自分の夢に向けてがんばっていきたい気持ちになる。この福島という場所です。

福島市は自然に恵まれ、落ち着いた環境、そして優しい人々がくらす故郷である。がんばっている大人たちの姿を見習い、一生懸命夢の実現をめざしていくことは、きっと福島の明るい未来にもつながると思う。

「みどりのまちを守る」

福島市立平野中学校

歌川 桃子

私の家のまわりにはたくさん畑や田があり、自然に囲まれて暮らしている。近くには、スーパーなど生活に必要な施設もありとても暮らしやすいところだと思っています。

しかし、最近は私の家のまわりにも家がどんどん建ってきています。その家は、元々畑や田があったところに建っていて、家などの建物や道路が増えると同時に田や畑が減っています。日本の人口は今、どんどん減っていているのになぜ家ばかりが増えているのでしょうか。農業をやっている人は年々減っています。後を継ぐ人がいなくて、田や畑を手放してしまいう人も多いそうです。手放された田や畑は荒れていきます。こうして自然はどんどんこれから減っていくでしょう。建物や道路が増え、人口なども増えることで福島がより明

るく、活気が増すならば、それはとても良いことだと思います。でも福島市民憲章には、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものがあります。このまま畑や田、森林が減っていったら「空も水もきれいなみどりのまち」になるでしょうか。車が増えれば排気ガスで空がきたなくなりそうです。工場なども増えたら、水質汚染にもつながります。毎日車から出た排気ガスが空気を汚し、地球温暖化が進んでいるにもかかわらず森林が減っていくうちに住みたいと思う人は少ないでしょう。人がつくったものは、とても便利ではありますが、環境に良いものばかりではないということです。

福島は果物がとてもおいしく、有名です。だからこそ畑が減っていくのをとても悲しく感じています。果物畑をもっとアピールして、福島の果物をもっと今より全国に広めていけば、「空も水もきれいなみどりのまち」を守りつつ福島を発展させていくことができるのではないかと思います。

建物や道路は作らないわけにはいきません。人工的なものをつくるのならば、自然

を壊すだけでなく壊した自然をほんの少しでももとにもどせばいいと私は考えています。例えば、庭に少しの木を植えるだけでも、それを一人一人がやっていけば、少しでも自然を育むことにつながります。他には必要以上に自然を壊さないことが、小さくても自然と共存していくための第一歩になると思います。

今はどんどん果物畑や森林が減っているけど、いつか福島が自然豊かで、果物のおいしいことで有名になって、福島が活気であふれるようになればいいと思っています。

人がつくったもの、便利なものだけでなく自然のものを少しでも取り入れることで、福島の今の、おいしい果物や水などがより良いものになっていくことを願って、私も自然を守るように日々努力していきたいと思っています。

「親切が生んだ幸せ」

福島市立平野中学校

吉川 来夢

僕は、福島の豊かな自然に囲まれて楽しく生活しています。こんなに素晴らしい街で生活する事が出来る。僕はなんて幸せ者なんだろう、と思うことができます。こうして楽しく幸せにくらす事が出来るのは、東日本大震災の時に助けてくださったみなさまの親切心があったからです。

三月十一日、二時四十六分、あの震災がおこりました。僕はまだ一年生でしたが、あのときの事を今でもはっきりと覚えています。地震が起きてすぐは状況があまり把握できませんでした。

その後も地震が起き、家に入るのは危険だと判断したため、一旦車で過ごしました。外を見てみると、春にも関わらず、雪が降っていました。そんな不思議な光景を見ていると見回りをしていた担任の先生が様子を见に来てくださいました。生徒を心配し

てくださっているんだな、と思い、とても感動しました。それから、母の実家に行きました。ここは、水道や電気などのライフラインが通じていたので、その夜は少し安心しました。

次の日、食べ物不足していたので、母と近くのスーパーに並びました。一年生だったので、長時間立っているのは辛かったのですが、少しでも食べ物を多く買えるように手伝いました。品数が少なかったので、開店と同時に店に入って、食べ物を買いました。そして、レジに行ってお会計をしている人が、「大丈夫かい」と声をかけてくださいました。あまり話すことが出来ませんでした。その一つの言葉に、とても優しさがこもっていました。

数日後、家に戻り、ガソリンスタンドに行きました。その時は、すごい量の車があり、とても時間がかかりました。車を押しながら進んでいる人もいて、みんなとても生活に苦労している事が改めて分かりました。僕たちの番が来て、ガソリンを入れている間、母と店員さんが何かを話していました。きっと、苦労したことをおたがいに

話し、共感していたんだと思います。

今、こうして幸せにくらす事が出来ているのは、復興計画を進めている方はもちろんですが、この福島市のこと、住んでいる人のことを考え、親切にしてくださいっている街の人のおかげだと思います。これからも幸せに生活していくには、自分以外の人を成長を支えたり、苦しみをわちあつてあげる、など、自分以外の存在を大切にしていかなければならないのです。それが、「親切心」という人間が生んだ素晴らしい心を大切にしていく、つまり、幸せの道を歩んでいくために必要であると僕は考えます。

「ステキな町をつくるために」

福島市立松陵中学校

荒 木 琉 偉

僕は、「空も水もきれいなみどりのまち」を作るために、僕達にできる事はあるのか考えました。

僕の住んでいる地域には「水原川」という川があります。その川は、とてもキレイで、メダカやタナゴ、アメンボなどがいます。調べてみると、アメンボは、汚い水だと沈んでしまうため、キレイな水にしかないそうです。それに上流の方に行けばホタルを見られる時もあります。そんなキレイな川のほかに、緑の豊かな「土合山」という山があります。その山には、「アジサイ小道」という道があつて、その道には四千五百株ものアジサイが植えられています。ほかに、僕の地域にある小学校、中学校の前には、フラワーロードという道があります。その道には、アジサイなど、さまざまな花が植えられています。

そんな豊かな自然を保つために、僕の住んでる地域では、様々な活動を行っています。

まず最初に、行っていることは、川の清掃です。僕の住んでる地域では、ボランティア団体の人や、小学校の行事などで川の掃除を行っています。また、川を汚さないために、ゴミを持ち帰るように、看板を建てたりもしています。

次に、行っていることは、土合山のアジサイ小道の手入れなどです。土合山のアジサイは四千五百株もあるので町の商工会の人達が水をあげたり、ゴミを拾ったり、切ったりしています。また、アジサイ祭りという行事を開いた後もゴミを拾ったりしていただいています。

他に行っていることは、フラワーロードの花の手入れや、道や花壇のゴミ拾いなどを行っています。

このようにして、僕の住んでいる地域の人達は、豊かな自然を保てました。そんな中、僕達中学生にできることは、あるのでしょうか。

まずできそうな事と言えば川や山、道、

公共施設などの、ゴミ拾いなどです。僕達は看板を建てることはできないけど、ゴミ拾いは、ボランティアとしてできます。

また、ゴミが沢山落ちている場所には、看板は建てられなくても、ポスターなどは貼れます。

だから、僕達中学生でも町のためにできる事は沢山あるので、みんな、空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。

「ポイ捨てはいけない」

福島市立松陵中学校

河野 将己

僕は、ポイ捨てをしては、いけないと思います。なぜなら、町も汚れるし、すぐきたない町になるからです。

車を運転している人や通行人で、すい終わったたばこを道路に火を消さずにポイッと投げ捨てたりしていて、それが周りの人に当たったりしたら危ないのに、なぜそれをする人がいるのかと思いました。

ペットボトルや缶ジュースを友達などと一緒に飲んでいて飲み終わったとき、つぶしてそのまま道に捨てたりしていました。なぜ注意しないのかと思いました。みんながみんなを注意しあえばこういうことは起きないのに、なぜそれを見ても注意しないで通りすぎていく人がいるのか、もし注意ができなくてもゴミぐらいいは拾えるのにも思いました。

僕が、小学校の時登校場所に川がありま

した。その川には、ティッシュやおかしの食べ終わったゴミ、たばこのすいながら、飲み終わったジュースの缶や紙パックなどが捨ててありました。なぜ、みんなが通る道に捨てていくのか、町をきれいにしたいという気持ちはないのかと思いました。僕たちがこれからごみのポイ捨てがないきれいな福島にするためには二つのことが大事だと思いました。

一つ目は、呼びかけポスターなどを作ることです。呼びかけポスターを作ることです。それを聞いたり見たりした人が友達や家族に伝えてポイ捨てをする人が減少してくればとてもいいと思ったからです。

二つ目は、自分から進んでゴミを拾ったり自主的にゴミ拾いのボランティアに参加するなどをしてゴミを拾うことです。

僕自身、道にポイ捨てしてあったゴミを何度か拾ったことがあります。拾ったゴミの中には、スーパードで売っているアイスのゴミや、自販機で売っているジュースの缶などのゴミがありました。みんなが歩く道路にゴミをポイ捨てするのとても不思議です。なぜ自分自身で出したゴミを最

後まで責任を持って処分しないのかとても不思議です。家に持って帰って捨てればいいのに、なんで道に捨てる必要があるのだろう。この捨ててあるゴミを拾う人の気持ちをなぜ考えない人だろう。僕はいつもポイ捨てしてあるゴミを見るとこんなことを思います。このままポイ捨てをする人が増えたら福島はゴミでいっぱいになってしまいます。ゴミを増やさないきれいな福島を作るためにポイ捨てしないことが大切だと思います。

「空気も水も美しい

緑の町をつくろう」

福島市立松陵中学校

尾形愛梨

私は、空気も水も美しい緑の町をつくることについて考えました。福島市が、空気も水もキレイに、美しい緑が豊かな町になってほしいなあと考えて、考えたことが三つあります。

まず一つ目は、一人一人が、空気を汚さないように少しずつ努力していけばいいんじゃないかなあと思いました。体に悪い空気を減らすことを、努力していけば、植物も良く育ち、他の生き物や人々も、安心してすごせるようになるのではないかなあと思いました。私も、少しずつ努力していけたらいいなあと思いました。空気がキレイになれば、植物も良く育つので、より自然が豊かになっていくのではないかなあと考えました。また、一人一人が意識して、協力し合うことは、人との交流のきっかけに

もなると思いました。

二つ目に私が考えたことは、空気もそうですが、水もキレイにすることができれば、作物などももっと良く育つのではないかなあと思いました。私たちも、普段の生活ではかかすことのできない水ですが、川にゴミを捨てたりなどで、水が汚れてしまつては、私たちにとつて、それは安心できないし、安全でもないなあと思いました。水をキレイにするためには、川などにゴミを捨てたりしないようにすることを、一人一人が考えて、協力していけば、水も、よりいっそうキレイになっていくし、私たちも、安心して水を使うことができるようになるのではないかなあと思いました。私も、水を汚さないために協力したいなあと思いました。

三つ目に私が考えたことは、空気も水もキレイになれば、植物も良く育つし、生き物も安全に生きていけるようになって、よりいっそう町が明るくなつていくのではないかなあと思いました。植物がたくさんあれば、気分も明るくなるし、町もよりよい、明るい雰囲気になつてくるのではないかな

あと、考えました。福島の魅力は、やっぱり、豊かな自然や植物、キレイな水や空気なんだと思うので、豊かな自然がもっと豊かになればいいなあと思いました。私も、「なにか、自然を豊かにするために、できることはないかなあ。」と考えていきたいなあと思います。

私は、この三つのことを考えて、少しずつ自分にできそうなことを探していきたいなあと思いました。だから、自然をキレイに、そしてより豊かにするために、自分から、すすんでゴミを拾ったり、空気や水を汚さないような努力をしていきたいと思えます。一人一人が考えて、協力していければ、私たちのこの町は、もっと自然や植物が豊かになつて、空気も水もキレイな、緑があふれる明るい町にしていけることができるのではないかなあと思いました。私もできる事は協力したいです。

「ポイ捨てのない福島市」

福島市立松陵中学校

河野 莉緒

私は、市内でよく空き缶や、ゴミ袋が落ちているのを見かけます。すぐ近くにゴミ箱があるのにポイ捨てをするのです。しかも、大人がです。大人は子供の手本なのに大人がそんな事をして良いのでしょうか。私はだめだと思います。理由は三つあります。

一つ目は、ポイ捨てしたゴミが足にひっかかって転んでしまうかもしれないからです。空き缶が道ばたに落ちているのに気付かず歩いていたら、転んで怪我をする恐れがあります。そうなたら大変です。腕を折ってしまったり、ひざをすりむいたりしたらポイ捨てした人の責任だから、良い事など一つありません。

二つ目は、タバコをポイ捨てしてしまうかもしれないからです。もし、誰かがタバコをポイ捨てしてそのタバコが紙の上や子

供に落ちてしまったら火事になってしまうかもしれないし、火傷をしてしまうかもしれません。それが原因で命を落とす人がいれば大変です。

三つ目は、拾うのが大変だからです。ゴミを捨てるということは、必ず誰かが拾わなければなりません。私は市内でこんな話を聞いたことがあります。

「えいつ！」

「おい！なにポイ捨てしてんだよ。拾えよ。」

「えー。面倒臭い。後で誰かが拾ってくれるし、いいじゃん。」

私は、後で誰かがという言葉にかちんとききました。後ではなく今拾えばいいと思うし、誰かがではなく自分で拾えばいいのではないのでしょうか。そのような事を心がければ、もっときれいな市内になると思います。三つの理由から、ポイ捨ては必ず誰かに迷惑をかけます。だから、誰にも迷惑をかけないようにゴミを持ち帰れば良いと思います。

また、中学生が出来ることは二つあると思います。

一つ目は、ゴミを拾うことです。進んでゴミを拾えば皆が気持ち良く生活できるし、誰も嫌な思いをせずにすむと思います。二つ目は、呼びかけをするなどです。ポスターなど町の人に呼びかけをすることで、少しでもポイ捨てをする人が減れば町のためにもなると思います。

このような事を行えば、清潔に生活できるので、私も町の人のためにできるようにしたいです。

「福島をよりよいまちに

するために」

福島市立松陵中学校

先崎 夢花

福島市民憲章とは、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのものです。その五つの憲章の中で私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」について考えてみたいと思います。それを選んだ理由は、子どもからお年寄りまで、安全で健康なまちをつくれれば、福島市に住む私たちみんながもっと明るく楽しく生活できると思ったからです。

安全なまちづくりのために今、地域で行われている活動について考えてみたいと思います。まず、小学校では下校するときに保護者が車でパトロールをする活動が行われていました。それから、朝登校するときには横断歩道などで地域の方が見守りをしていました。そして、学校へ行く途中、ひなの家という緊急時に子どもが避難できる

場所がありました。これらの取り組みは、とても良い活動だと思うので、続けていった方が良いと思います。

より住みやすいまちにするために、私は三つのことを提案したいと思います。

まず一つ目はお年寄りが安心して生活できるようにすることです。そのためには、老人ホームをもっと増やしたらよいと思います。その近くに保育園や幼稚園があれば良いと思います。そうすれば、子どもとお年寄りが交流する場が増えて、遊べるようになるからです。

次に二つ目は、運動をすることができる施設をつくることです。そうすることで、近くの人たちが遊びに来て健康な体づくりにつながると思います。また、そういう施設をつくることでその地域がもっと元気になると思います。

次に三つ目は、地域交流活動を盛んに行うことです。それは、私達の学校で行っている取り組みで、老人ホームや幼稚園を訪問したり、地域の方とスポーツをしたりします。他にも、イベントを開き芋煮会や手芸、スポーツなど、それぞれ自分の得意な

ことをまちづくりに生かしていけたらもっとよくなると思います。

このようなことに取り組んでいけば私達の住むまち、福島がもっと快適で明るく住みやすいまちになると思います。他にも、私達にできることは、たくさんあるはずで、私達にできる取り組みを考え、実行して福島をより快適で明るく住みやすいまちにしていきたいと思います。

「福島市のすばらしいところ」

福島市立松陵中学校

阿 部 菜々美

今の福島市は森や山の自然が豊かで、水も豊富なすばらしい市だと思います。なぜなら、家の近くでたぬきやイノシシ、野うさぎなどが生息しており、クマガイソウという絶滅危惧類の植物も生息しているからです。他にも、温泉も豊富で、全ての温泉地は自然豊かな山にあり、福島観光にも役立っています。私も温泉が好きで、福島市の緑を見ながら入る温泉はとても心がやすらぎます。だから福島市は憲章の一つの「みどりのまち」にとってもふさわしいと思います。福島市の花「モモ」もとても美しくてきれいで、市の鳥「シジュウカラ」という鳥は広く市民に親しまれているということです。市民にも親しまれるすばらしい自然だと思っています。荒川という川が「水質が最も良好な河川」という事を最近知りました。六年連続ということも知りとても驚き

ました。だから、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章は守られていると思います。

福島市の魅力はまだあります。それは人々が親切だということです。人々が親切なので大きな事件も起こらなく、困った事があれば助け合うことができます。実際に東日本大震災では情報交換をしたり水を分け合ったりなどをして助け合って乗り越えてきました。愛情であふれとてもすばらしい市だと思います。

子どもからおとしよりまで健康ということも福島市の良いところの一つでもあります。認知症についても小学校の子どもたちについて教えたりなどして年齢に関係なく幸せにくらせていると思います。おとしよりの人たちのために安全の設備もあるので安全に楽しく暮らせていると思います。私も安全と健康に気を付けながら暮らしたいです。あと、この安全の状態を続けたいです。

私は子どものころから自然の中にある公園で遊ぶのが好きでした。福島の色々なところに行ったりすると分からないところが

あると思いますが、そういう時は福島市の人たちは優しく親切に教えてくれます。私も人々に優しく分かりやすく教えられる親切な人になりたいです。私は福島市民憲章は守られていると思います。自然がたくさんあるし、人々は健康。力を合わせて乗り越えられるのですばらしいと思います。この憲章も守れるので、きまりを守れると思います。ルールを破らないから安全に生きていけると思います。私は福島市に生まれて良かったと思います。このすばらしさを続けていけば、今よりもっとよくなると思います。私も人々に親切にする気持ちを忘れずに成長していきたいです。一人一人の意識も大切です。一人一人が意識しないと悪い市になってしまいます。だから私も意識してこれから生きていきたいです。あと、今の福島市よりもっとすばらしい市にしていきたいです。これからはきまりを守りたいです。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立松陵中学校

渡 邊 ひなの

福島市は、自然がいっぱいで身近に自然を見ることが出来ます。みどりの山や、川がありとてもきれいです。私の住んでいる松川町にもあじさいで美しい土合山や、冬には白鳥が飛来する水原川もあります。ですが、福島市民憲章にある「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という文を見てお母さんは言いました。

「昔は、川によく遊びに行っただよ。生き物がたくさんいて、水遊びしたり、魚をつかまえたり、蛍も見たりした。楽しかったよ。」

私は川で遊んだ思い出がありません。今の福島市の川は、放射能があったり、魚が元気に泳いでいる姿、蛍が飛びまわるとい風景は目にすることはありません。福島市の昔の川のイメージと、今の川のイメージがだいぶ違うと思うと、とても悲しくなり

ました。

そこで私は、今の福島市の川を昔以上に身近な自然として感じられるきれいなみどりのまちをつくるという点に課題があるのではないかと考えました。今は、放射能が原因で川や川の周りがきちんと整備されていない所が多くあります。ですが、それだけではなく私たち一人一人ができることもあります。各家庭で、できるだけ食べ物の残り、油や洗ざいを流さないようにすることです。このような事をする事で、川がきれいになり子どもたちやお年寄りの方々が、外に出るきっかけにつながると思います。

また、川だけでなく空もきれいなまちをつくることも目標です。空気を汚しているのは排気ガスなどの影響があると思います。そこで、福島のある工場は、工場から出る排気ガスが心配されていたため、体に害のない水蒸気として排出するような取り組みが行われているそうです。このような取り組みがあるということを知り、とてもすばらしいと思いました。排気ガスは、空気を汚している原因でもあるし、地球温暖

化の進む原因でもあると言われています。今は、ハイブリッド車が出てきているけどやはり、車を利用するのを減らすことだと思っています。私もついつい疲れていると車で迎えに来てほしいと言ってしまうですが、がんばって歩きたいと思っています。これに関して、食物も遠くから運ばれてくる野菜よりも福島野菜や果物、つまり地産地消も考えられます。

最後に、昔からある五つの市民憲章を改めて知りました。市民一人一人がもっと自覚するように、いろいろな場所に提示して、もっと周知した方がよいのではないかと考えました。そうすれば、全てができなくても少しでも心がける人が増えるのではないかと思います。

「協力してつくりあげる福島」

福島市立信夫中学校

松 尾 彩 乃

私は、福島を住みやすくするために空や川をきれいにし、自然をもっと感じられる町をつくつたらいと思う。なぜかというところ今の福島は、水がきたなかつたり緑を感じられたりしないからだ。このようなことを改善するために二つのことをすると思う。

一つ目は、水をきれいにすることだ。いろいろな川などを見てみると、もちろんきれいな川で魚がいきいきと泳いでいるのを見かけるが、同じくらいに、にごつていてきたない川もたくさん見かける。これは、環境が悪くなるのにつながると思う。だから、こういうことをなくすために家庭では、洗たくするときは、洗剤を少しくすめて使うなどとやって排出する水のなかで少しでもきかない水をなくせばいいと思う。

二つ目は、みどりや自然を増やすという

ことだ。町を見ていると、みどりはあつたとしても、花などの町が明るくなるようなものが減っている気がする。みどりを増やすのも花などの自然を増やすのも家でできる。家で「みどりのカーテン」をやることで、涼しくなるといいことだつてもちろんある。だから、緑や自然をみんなを増やせば、豊かできれいな福島になると思う。この二つを取り組んでいけば、福島が豊かな町になると思う。これは、みんなやらなければ意味はない。だからこそ、みんなで声をかけ合つて取り組んでいきたいと思う。

「愛にあふれる福島に!!」

福島市立信夫中学校

佐久間 千夏

親切で、愛にあふれる福島をつくるために、私は、一人一人の思いやる心が一番大切だと思います。

例えば、電車、バスなどの公共の物や、運転しているときなどは、ゆずり合うが必要だと思います。平日は電車が通勤などで混みあうと思います。その中には、子ども、お年寄りなども乗っています。でも、学生や、社会人などは、あまり、ゆずらないと思います。理由は、疲れているからという理由が多いと思います。私も、朝はねむいし、帰りは、勉強、部活などで疲れるので、座っていたい気持ちも分かりますが、お年寄りや子どもの方が、電車のゆれはきついと思います。しかも、普通の人が、優先席に座っているのも見たことがあります。そこで、電車内に、お年寄りや子どもに席をゆずるように、ポスターなどをはっ

たりするのがいいと思います。理由は、座ってる人がポスターに気づかなくても周りの人が気づいて、言ってくれる人がいると思うからです。あと運転しているときは、信号がない横断歩道で、止まっている人がいるのに、止まらずに行く人がいるので、これも、看板などで呼びかけるのがいいと思います。

このようにすれば、一人一人が、親切になり、愛にあふれる福島になると思います。

「福島市の自然を守るためには」

福島市立信夫中学校

阿部 莉央那

みなさんは、福島市に対してどのような考えをもっていますか。東日本大震災があり、危ない地域だと思っているかたもいると思いますが、福島市はとてもいい所です。

私が思う福島市のいいところはいろいろあるけど、特に自然が多いところだと思います。でも、最近は海や川にゴミを捨てる人が増えてきて、美しい自然がよごれてしまっています。それをなくすために、私は二つのことを考えました。

一つ目は、いろいろなところにポスターをはることです。たくさんの人たちが通る場所にはれば、ポスターを見てポイ捨てに気をつける人が増え、自然環境を守れると思います。

二つ目は、ゴミ拾い活動をすることです。川などに落ちているゴミを拾えば、その川が汚れてしまうのを防ぐことができると思

います。

今の二つの事以外に、みなさんの普段の生活の中にも自然を守れることがたくさんあります。なので、みなさんも自分にできることをさがして福島市の美しい自然を守っていきましょう。

「自然豊かな福島市を…」

福島市立信夫中学校

小 池 陽 夏

福島市。私は、福島市は県庁所在地でも緑の自然があふれていて、果物のももやりんごなどがよくとれます。そういったおいしい果物が食べられるのは農業を営んでおられる方々がいるからで私たちは感謝しなければなりません。一方、福島市にはいわきや郡山のように大きな公共施設が少ないです。では、そのためにはどうしたらよいのでしょうか。

一つ目はしっかりと活用でき、なおかつ便利な公共施設をつくればよいと思います。しかしただつくってしまうと自然はどうなってしまうでしょうか。自然を守るためにはまず木々や草、花をあまりきりとらない方がいいと思います。施設をつくるのならその地形を生かし衛潔な空間をたもてればよいと思います。

二つ目は、その施設に福島市らしさを取

り上げればなおいと思います。

たとえば、特産品のリンゴやモモ、案外たくさんある田んぼの米の種類、そういったものを取りあつかい「これが福島市です！」のようなことも入れていけばいいと思います。

最後に私は福島が好きです。人は優しく自然豊か、そんな福島がもっと活気づいて良いイメージで他の市町村、県の方々に知ってもらえればうれしいです。

「福島市の未来は市民憲章にある」

福島市立信夫中学校

齋藤 悠真

僕は、福島市で生まれ、今日までずっと福島市で育っています。福島市は、とても住みやすく、のびのびと生活できる素晴らしい町です。市民憲章にもあるように、空気もおいしく、水もとても新鮮です。これは、先人達が、古くから市民憲章を守り続けてきたからではないでしょうか。しかしながら、最近は不必要な建物が増えてきていたり、きまりを守らず、犯罪に手を出したりと、市民憲章を守らない行動が、よく新聞やニュースで見られます。そこで、僕は市民全てに市民憲章を深く知ってもらうための方法を提案します。

まず、市民憲章デーや市民憲章週間など、子どもからおとしよりまで、幅広い世代に少しでも関心を持ってもらう機会を作るのはどうでしょうか。

また、市民憲章マスコットキャラクター

や市民憲章大使などをつくり、親しみやすくするのも良いと思います。

これらの他にも、何かよい方法があると思います。一人一人が市民憲章を守ることが心かけ、よりよい福島市がつけれることを願います。

「福島市の良いところって…」

福島市立信夫中学校

服部 由奈

私たちの住んでいる福島市は、良いことがたくさんあります。いくつか紹介したいと思います。

まずは、福島市には緑がたくさんあるところ。福島は、山や川が多くあります。私の通っている信夫中学校から周りを見渡すと、緑に囲まれているのがよくわかります。

また、自然が多いので食べ物も多くとれます。例えば、福島市では桃がよくとれます。福島市でとれる桃は、日本でもとても有名です。

福島市は、ボランティアもあります。それは、見守り隊といって、小中学校が安心、安全で登下校できるように、交通整備されているところがあります。

福島市には、良いところがたくさんありますが、あまり良くないところもないわけ

ではありません。

例えば、福島市はすごく大きなお店があまりないです。なので他県などの人が福島市に來ても、行くところがほとんどありません。なので、大きなお店などを作ってほしいと思います。

このように、福島市には、良いところがたくさんあります。ですが、まだまだ発展できることがいっぱいあるので、私たちのできるところから、やって、もつとよい福島市にしていきたいと思います。

「私たちの福島市」

福島市立信夫中学校

三 浦 彩 華

私は、福島市民憲章があるということをはじめ、初めて知りました。福島市民憲章には、五つの項目がありますが、その中でも私が気になったのは、「空も水もきれいなまちをつくりましょう。」と、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」の二つです。

福島には、自然がたくさんあります。その中でも福島は、果物が有名です。桃や柿、ぶどう、梨、さくらんぼなど、おいしい果物があります。私や私の家族も、果物が大好きで毎年、福島の色々な種類の果物を食べています。また、宮城県に住んでいる知り合いの人に、毎年、福島の柿などを送っているのですが、その人も、「福島の果物はいつ食べてもおいしいな」と喜んで食べてくれます。このように、福島の果物は、他の県の人にも愛されるくらい、すばらしいです。でも、現在農業をしている人が少

なくなっていると思います。私の祖父も、農業をしているのですが、高齢化が進み、後継者がいないなどの原因で、農業を続けていくことが難しくなっています。このままいくと、農業をやらなくなる人が増え、最終的には、福島から果物が消えてしまいます。そうなる前に、これから農業をやっている人を見つけ、果物たくさんさんの福島も受け継ぐべきだと思います。

福島の人には、親切で優しい心を持っている人ばかりだと思います。そう思いはじめてのは、小学生のころです。登校時、私がコンクリートの上で何かにつまずいて転んでしまい痛くて立てなかったときに、近くにいた人が助けてくれて、私の家まで送ってくれました。それから、困っている人を助けてあげる人を見ると、親切な人だなと思います。逆に、最近、迷惑な人だなと思うときがあります。それは、ゴミのポイ捨てをする人です。特に、最近、私が歩いていると、色々な場所にゴミが落ちているのを見かけます。私は、ゴミが落ちているのを見る度に、なんでゴミを決められた場所に捨てられないのか不思議に思います。ゴ

ミが落ちていることで、自然環境が悪くなってしまうということを、ゴミをポイ捨てる人に理解してもらいたいです。そして、その人の捨てたゴミを拾ってくれるような優しい人がいるということも、わかってほしいと思います。

福島には、良いところがたくさんあります。その福島の良いところをもっと増やすために私たちにできることは何か考えました。それは、自然も人の心も美しい、どの県の人にも愛されるような福島をつくり、それを保つことです。私にはとても小さく、だれでもできるようなことしかできませんが、一人一人がやれば、大きな力になると思うので、これからも福島を信じていきたいです。

「美しい福島市の自然を守るには」

福島市立信夫中学校

八 巻 陽 菜

私達の住んでいる福島市は、とても自然が豊かだ。私の通っている中学校の近くにも毎年きれいな桜が咲く城山やおいしい野菜がとれる畑などがたくさんある。毎朝歩っている通学路にもいろんな種類の花がいきいきと咲いている。しかし、こんな福島市にもごみが落ちているときがある。

ある日、私はお母さんと買い物に行った。その時に通った道にはジュースの缶やお菓子の袋などいろいろなごみが落ちていた。私の家の庭にも時々風に飛ばされてきたごみなどが落ちていたことがあった。そういう福島市の姿もあったことにその時初めて気がついた。

私の家がある地区で、たまにそうじをしているときがある。父も朝早く起きてそうじに参加している。どんなことをしているのかと思う、何をしてきたのかを父に聞いてみた。すると父は、

「そっこのそうじやごみ拾いをしてきた。みんな一生懸命そうじをしていたよ。」

と言っていた。みんな自分の地区のために一生懸命そうじをしてくれているなんてすごいと思った。こんなやさしい人々が住んでいる福島市は自然だけではなく人々も美しい。私が毎朝学校に行くときにあいさつをしてくれる人やいつてらっしゃい、おかえりなさいなど声をかけてくれる人がたくさんいる。あいさつをするとあいさつをかえしてくれる人がほとんどだ。あいさつをかえしてもらえとうれしくなる。

福島市は、とても自然が豊かな市だ。でもごみが落ちていることもある。そのごみを市民のみなさんが協力してごみ拾いを行ったりし、捨ててくださっている。そのような活動は、市のあちこちで行われていると思う。そんな活動のおかげで自然が豊かで空気がおいしい福島市が保たれている。つまり、自然を守るために私達にもできることがたくさんあるということだ。例えば、積極的に地域のごみ拾いや清そうじに参加したり、ごみを分別したりなどがある。どち

らも私達にもできる簡単なことだ。そして、自然以外にも私達が増やすことができるものがある。それは、あいさつだ。あいさつをすればだれだって明るい気分になれると思う。お年寄りから子供までみんなが元気なあいさつをすれば明るい市にすることができる。これからも美しい福島の自然を守るために私達も福島市民の一人として自分達にできることから福島市をより良くしていきたい。

「緑多き福島」

福島市立信夫中学校

阿部 日向

私は福島市の自然について紹介します。
良いところが大きく分けて二つ、改善点が一つあります。

福島市の良いところの一つ目は田畑が多いことです。祖母が農家で、じゃがいも、きゅうり、トマト、米などたくさん作物を作っています。祖母の近所の人も米を作ったりしているので、情報交換のため自然と会話が増え、地域の輪が広がっていくのがあるところ。私の中学校からも田畑が多く見られ、通学路にもたくさん田畑があります。田畑が増えれば虫が増え夜にはきれいな自然の音色が聞こえてきます。人とのつながりや虫が豊かなおかげで福島の作物はどれも美味しい物がたくさんあります。これまでも、これからも田畑の豊かな福島を作り続けていきたいなと思います。

二つ目のいいところは、森林や緑が豊かなところ。一つ目の田畑が豊かであるということにもつながっているのですが、またちがうところでいいと思いました。木が多く、花が多く、きれいな町が見られます。山が多い分、緑が多いのかもしれないが、歩道などにも花は植えてあります。赤、黄色、紫と色とりどりの花がとてもきれいです。なにげなく通っている道もよく見ると緑が豊かで、今、自然の中にいるんだという気持ちになります。こんな福島がずっと続けばいいなと思います。

次に改善点を紹介します。やはり、川や道にポイ捨てが多いところ。空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。という言葉が福島市民憲章にはあります。道のはじや川には、ペットボトル、空きかん、おかしのお菓子が落ちていました。小学生の時、川をのぞくと、いつも物が落ちていたので鳥が多く立ちよる川にゴミがあつては、と思い、ゴミ箱を増やせばなど考えました。道に小さくてもいいのでポイ捨てが多いところに置けば、少しでもポイ捨ては減ると思います。緑が豊かな福島に

するために、努力はずっと続けていきたいと私は思います。

このように、福島にはいいところ、改善するところがあります。改善してよいところを増やしていけば、福島はもつときれいになり、人が集まる温かい地域になっていくと思います。

「私にできること」

福島市立野田中学校

鈴木 愛 琉

私は、「福島市民憲章」を見ました。その中で気になったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章です。

この憲章が気になった理由は、自分にも協力できそうだなと思ったからです。この憲章は、自然のことだけど、自分たちが努力すればそういう町をつくれると思います。まず、川や海に捨ててあるゴミのせいで水が汚れてしまっているんだと思います。だから、そのゴミを拾うボランティアに参加するなどして水を少しでもきれいにできるようにしたいです。でも、ゴミを拾うだけではまた捨てる人が出てくると思います。それを防ぐために、何人かでポスターを作って水が汚れないように呼びかけたいです。

それから、この町にみどりを増やすため

に、植木をするイベントに参加したいです。イベントなら簡単に植えられるので、むだなものを買わなくてもできると思います。

私たちが今書いてある、二つのことを少しずつしていけば、だんだんこの福島市の環境が良くなっていくと思います。川や海のゴミが減れば、水がきれいになり、魚もたくさん増え、家庭で使われている水道水もきれいになると思います。植林を続けていけば、いつかこの町は、みどりであふれると思います。

私は、今まで福島市の憲章について、あまり知らなかったので、考えたことがありませんでした。でも、こうやって考えて作文を書いてみて、自分にもできそうなこともたくさんあったので、そういうできそうなことには協力できる人になりたいです。

この福島市は、まだそんなに環境が良いわけでもないと思います。それは、いろいろなところにゴミを捨てる人がいたり、植物を大切にみつからない人がいるからだと思います。ゴミは決められた場所に捨てる、植物を大切にするという二つのことが守れば、福島市民憲章の一つはできる

と思います。これからも、憲章を意識して生活していきたいです。

「福島市のために出来る事」

福島市立野田中学校

紺野 かすみ

私は福島市民憲章の一つ「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を実現するために何が出来るか考えたところ、三つの案を思いつきました。

一つ目は「ゴミ拾い」です。私の住んでいる地域には、道ばたに多くのゴミが落ちています。でもそれを改善するために「ゴミを捨てないでください」という呼びかけだけでは、状況は変わらないと思います。しかし、みんなが地域をきれいにしているのを、たくさんの人達が見れば街を汚してはいけないと考えるようになるでしょう。例えば、子ども達が登校する時に、毎日それぞれ一つずつゴミを拾うようにするのはどうでしょう。そうすれば、日が経つごとに街のゴミは減っていき、その子ども達の行動を見た大人も「自分たちも、子ども達を見習って何かをやらなくては」という気

持ちになり、自分から積極的にゴミを拾ってくれると思うのです。ゴミを捨てない事も、ゴミを拾う事も、その人の気持ちが変わらないと始まりません。なので、まず私自身がしっかりとルールを守り、お手本となれるような行動を取りたいと思います。

そして二つ目の案は、花を植える事です。みなさんは「きれいなみどりのまちをつくる」と聞くと、一つ目の案のように「ゴミ拾いなどを思い浮かべると思います。私は花を植えて街を色鮮やかにする事も、きれいな町作りにつながると思うのです。福島市は、街などにあまり花がなく少し寂しい感じがします。でも、道路の横にもっと花を植えれば、その街全体のふんい気が明るくなり散歩をしている人や車を運転している人などにも、季節を感じてもらう事ができます。しかも、花を植え街を色鮮やかにする事で、道ばたのゴミ捨ても少なくなると思います。このように、花を植える事だけでも、たくさんさんの事を改善できるので、とても良い事だと思います。

最後に、三つ目の案は「掃除」です。きれいなまちをつくるには、とても単純な事

ですが、地域の行事として月に二回ぐらい街の掃除を行う事で、地域の人との交流も増えると思います。そうする事で掃除の楽しさが分かり、自主的に掃除をしてくれます。ますます街がきれいになると思うのです。このように、街のために小さな事を積み重ねることが周りにもどんどん広がり、街が変わっていくと思います。ですので、小さな事でも自分の出来ることをやり、私の住んでいる福島市を「きれいなみどりのまち」にしていきたいです。

「福島未来をわたしたちの手で」

福島市立野田中学校

茂 木 理 紗

わたしはみどりがすてきで希望に輝く福島になつてほしいと思いました。

みどりがすてきということは自然環境がよいということでもあります。そのためにわたしは自分たち一人ひとりが取りくめることが二つあると思います。

一つめは、道にごみをすてたり山にごみをすてたりしないということです。心がけるだけで身近なところからきれいになつていくと思つたからです。わたしはごみをしつかり自分の家ですてていますが、ごみを道にすてていたりする人を見かけたら声をかけてよびかけることができたらいなと思ひました。

二つめはリサイクルをするということです。もし、リサイクルをせざにいと森林が切られてしまひ、森にみどりがなくなつてしまひます。緑がなくなるといふことは

木がなくなるといふことです。すると二酸化炭素を酸素にかえてくれる植物もなくなつてしまひ、地球が二酸化炭素でうめつくされてしまひます。だからこのことを防ぐために、牛乳パックなどリサイクルできるものはなるべくリサイクルをして森の木をさらにすむように努めようと思ひます。わたしたちは小学生のころ牛乳パックを集めていまひました。はじめはなんで集めていまひかなどよく分かつていませんでしたが、地域の環境のことなどを学びみどりを守ることに、リサイクルを一人ひとりが積極的にいうことは大事だといふことが分かり福島未来のためにも続けていくことが必要だと思ひました。

次に、希望に輝く未来をつくつていくためには二つのことが大切だと思ひます。

一つめは、学びの場を広げることです。自分がつきたい職業に向かつてがんばることが必要ですが学校だけではよく分からなところもあると思ひます。ですから今もやつていまるように職場体験で実際にいつてみて働いていまる人の状況ようや働いていまる人にアンケートして今からでもやれること

を見つけることも良いことだと思ひます。

二つめは、ふるさと福島が好きといふ気持ちをもつことです。希望あふれる未来をつくるにはふるさとが好きといふ気持ちが一番大事だと思ひるので、興味をもてるようなものをつくつたりすることが必要だと思ひました。

わたしは、よりよい未来をつくるために今から福島のために自分ができることを見つけみどりあふれる希望に輝く町にしたいからいいなと思ひます。今より未来をもつと幸せにしていけるといいなと思ひます。

「ふくしまの美しいみどり」

福島市立野田中学校

齋藤 美悠

みどりの大地が広がるこのふくしま。つらい震災を乗り越えて笑顔をとりのもどそうとしているふくしま。私が大好きなふくしま。しかし、そんなふくしまの森林が消えかけている。木を伐採して森林がどんどん減少してきている。大切な木が一本一本切られるなんてとても悲しい。そのために私は、どうすれば少しでも木が伐採されないか、考えている。

私は、思いついた。(木を植えればよい。)と。少し前に聞いた話だが、震災の地震により、たくさんの木が倒れた。それを知った人たちは木の種を植えるボランティア活動が、実施されていた。ぜひ福島市でも、そんなボランティアが行われると良い。そしてそのボランティアが行われたら、私は進んでボランティアをしたいと思う。

二つ目は、ポスターを作ると良いと思う。

木の周りの建物に貼ってもらえればみんなはそのポスターを見て気づいてくれるだろう。そして木を切らない努力をしてくれるだろう。福島市民だから。私も福島市民として、やるべきこと、やれることがあったら、どんどんふくしまのためにやりたい。ボランティアっていうのは必ずではない。しかし、私は、絶対に参加しようと思う。ふくしまのためなら。

私が一人で考えて二つも出るのだから、福島市民全員で考えたら、木を伐採しなくてすむようにする考えなんてたくさんでてくと思う。ふくしまをもっと良くする工夫なんて何千万個も、出てくる。みんな、福島をおもって。何個も。私は、おじいちゃん、おばあちゃんから、小さな子どもたちまでの全ての意見を取り入れると、最もすばらしい福島がでかあがるだろう。ご協力、よろしく願います。がんばろう日本。がんばろう福島。

「私にできること」

福島市立野田中学校

佐藤 里咲

福島市に定められている五つの憲章から、さらに福島市を良くするために自分に出来るようなことを考えました。

まず「空も水もきれいなみどりのまち」をつくるために植物を大切にすることができると思います。道のはじに咲いた花でも踏まないように心がけるだけで一つの「みどり」を守ることになります。また、資源の無駄使いを減らすだけで「みどり」を守ることに繋がると思います。

そして、「親切で愛情あふれるまち」をつくるために、小さな親切を重ねることができると思います。学校で困っている友達に声をかけたり、道で困っている人がいたら声をかけて助けてあげたりと「小さな親切」が「大きな笑顔」につながっていくのだと思います。私もそんな経験をしたことがあるので分かります。

私はまだ子供なので福島市に貢献できることは多くありません。しかし出来ることを見つけて実行することは私にもできます。それは「親切」積み重ねることでも、心の中で市民全員の幸せを願うだけでも良いと思います。その願いや心がけが福島市を発展させて更に良いまちになる一歩になるはずです。

あまり考えたことのなかった市民憲章ですが、改めて考えることによつてまた福島市の良さを知った気がします。そして、愛する福島市をもっと素敵にするために憲章を意識して過ごせば良いなと思います。

「福島のみどりを守るため…」

福島市立野田中学校

安藤 叶実

「福島の良いところはどこですか」と聞かれたら私はまず、みどりが美しいところと答えると思います。福島県はどんなイメージと都会に人に質問すると、田舎という回答をよくききます。しかし私は、山が多くて果物畑も多い福島県は日本一みどりが美しいところだと自信を持って言えます。

しかし最近では、ゴミのポイ捨てなどが増えてきていると思います。そのだれかが落としたゴミをボランティアで拾っている人をよく見かけます。そういう人を見ると、どんな気持ちで拾っているんだろう。私も福島のみどりを守るために少しでも身近でできることはないのかなあとこのことをきっかけに考えられるようになってきました。

私が、小学生の時山登りに行きました。すると少し前を歩いていた人が、からにな

ったペットボトルを持ち帰らないでわざと捨てていったのです。その時、私は、他人が飲んだものだからと拾いませんでした。考えられるようになったとか言葉だけでは、福島は良くしていかないと実感した出来事でした。別に自分は、えらい人じゃないから福島市民全員によびかけることもできないしなど、大きなことから考えるのではなく、ポスターを作れないかなあ。パンフレットを作れないかなあ。と小さいことで身近なことから考えればいいなあと思いました。

私は、この出来事があるまで、

「別に、自分がこうしたいと言ったって福島のみどりは守ることなんてできないし、きれいにしたってよごす人がいれば変わらないじゃん」と思っていました。でも、今では、

「だれかが福島をよくするのではなく、自分達がよくしていくんだ」と気付きました。

福島のみどりは、私のほこりです。そのために落ちているゴミも自分のでなくても拾って身近なことから心がけていきたいと思っています。

『きまりを守る』とは何なのか

福島市立野田中学校

佐藤 琴音

私は、福島市民憲章の一つである「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」という四つ目の憲章に興味をもちました。特に、「きまりを守る」というところが気になりました。きまりを守るとはどういう事なのでしょう。

まず、一つ例をあげてみます。ある電車に一人の男の子が乗っていたとします。その男の子は大音量でゲームをしています。その子の親は、それを全く気にしないでスマートフォンをいじっています。この親子の他に、乗客が三十人程度いて、当然、周りには迷惑がかかります。このような状況におちいった時、周りで見ている人はどうするのが一番良いのでしょうか。方法は、いくつかあると思います。一つ目の方法は、「何も言わないでその二人が電車を降りるのを待つ」です。この方法は、一番楽かも

しれません。しかし、男の子とその親が降りるまでの時間、電車内の空気が悪くなったり、乗客の気持ちが暗くなったりすると思います。また、その後もスツキリしないままになってしまいます。

二つ目の方法は、「男の子に注意する」です。男の子に注意した場合、もしかしたら静かになるかもしれませんが。しかし、突然、興味なさそうにしていたその子の親に急ににらまれたり、きつい言葉を浴びせられたりすることが多いと思います。せっかく勇気をだして男の子に注意したのに、それでは全て水の泡になってしまいます。他に良い方法はないのでしょうか。

三つ目の方法は、「男の子の親に注意する」です。この方法は、とても難しいかもしれませんが。男の子の親が自分より年上だった場合、注意するなんて事は、さらに大変になると思います。もし注意できたとしても、無視される、あるいは怒られるという状況になってしまうと思います。

どの方法が一番良いのでしょうか。一つ目の方法はあまり良いとは思いません。やはり後から気持ち良くなれる方が良いと思

います。二つ目、三つ目はどうでしょう。この二つは難しいとは思いますが、周りには、協力してくれる人がたくさんいると思います。一人で注意するのが難しいのなら二人、二人でも無理な場合は三人、と増やしていけば良いのです。人数を増やすことで、相手の心をゆらす事ができるようになるかもしれません。

このように、私は、

「きまりを守っていない人に注意をしてあげる。きまりを守れていない事を気付かせてあげる」という事が、きまりを守る事につながって行くのだと思います。

今回興味をもった憲章以外の事も良く知り、これから先、もっとより良い福島にしていけたらいいなと思います。

「未来の福島を愛するために」

福島市立野田中学校

大 館 和 る

私は、この作文をかくまで福島市民憲章を知りませんでした。福島市民憲章のどれもが今の福島にびったりだと思いました。私が一番心に残ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という項目です。それには、二つの理由があります。

一つ目は、親切にできたこととできなかったことがあるからです。まず、親切にできたことです。私がバスで塾に行った時のことです。私は空いていた席に座りました。次の停留所でお年寄りの方が私の斜め後ろで立っていました。席をゆずろうと思ったけれど、なかなか声がでません。でも、汗をかいていたお年寄りを見て、思い切って「座りますか。」と声をかけると、「あら、いいの、ありがとう。」と笑顔で言われました。その方が、近くのおばあさんとニコニコ話しているのを見て、とてもうれしく

なりました。一言の声かけが人を笑顔にすることを、心から実感しました。次に、親切にできなかったことです。私が学校の下校中の時のことです。私は友達と別れ早足で帰っていると、荷物を持ってつえをたよりに歩っている人がいました。目の不自由な人だと気づき、手伝おうか迷いましたが、軽そうな荷物だから大丈夫だと思い、家に帰りました。その後、テレビを見ながら少し心配になり、後悔しました。あの時、声をかけていれば、私も相手も笑顔になることができていたと感じました。

二つ目は、この「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」という項目が、一番身近なことだと思ったからです。例えば、学校で友達との意見が分かれてしまったり、折り合いをしたり、外出時に道に迷っている人、困っている人を見たら、勇気を出して声をかけたり、自分たちにできることは、数えきれないほどあります。だから、どんな時も相手の気持ちになって、積極的な人になりたいです。

福島市民憲章は、今の福島、そして未来の福島にとって欠かせないものです。しか

し、福島市民憲章について知っている人は、少ないと思います。自然豊かで笑顔明るい福島にしていくなめには、もっと多くの人に知ってもらい、活動していく必要があります。一人一人の意識を変え、自ら進んで挑戦していきたいです。

「人々の心のやさしさ」

福島市立飯野中学校

引 地 花 楓

私は、福島市にたくさんの施設ができて
良いまちだと思いました。なぜなら、私た
ちみたいな子供から大人まで楽しく健康に
運動ができるし、自然を楽しむ施設がある
から良いと思いました。私はたくさんの体
験をしました。

一つ目は、十六沼公園についてです。

私はある日、十六沼公園に行きました。
そこでは、サッカーの試合をしている人た
ちがいました。私は思いました。「のびの
び運動をしていて気持ち良さそう」と。近
くには、ジョギングができる所やちよつと
した遊び場などや噴水があり、毎回来ても
飽きないのでまた今度も行こうと思いまし
た。

二つ目は、あづま運動公園についてです。
そこには、子供が楽しめるアスレチック、
子供から大人までが一緒に楽しめるサイク

リングコース、近くには民家園や体育館。
それから、自然が楽しめるジョギングコー
ス、池、広場などありとあらゆる施設があ
りました。お年寄りや体の不自由な方々で
も利用できていいと思います。

みんなが健康で安全な町であるのは、こ
の市を創った方々や一緒に手伝ってくれた
方々の愛情や親切な心づかいから生み出さ
れたものだとは思いました。

最後に、福島市についてもう一つ思った
ことがあります。それは、ボランティア活
動についてです。

私の通う中学には、奉仕作業があります。
私たちは学校内で草むしりやゴミ集めをし
ていますが、奉仕作業ではないときに、ボ
ランティアとしてまちの中をキレイにして
いる人たちを見たときがあります。そうい
う、人の親切な気持ちや自分たちのまちを
キレイに豊かにしようと思う気持ちは大切
だと思いました。そのボランティアの人た
ちに感謝をつい送りたくなってしまいま
す。

このような、今の愛情あふれるまちから、
もっとたくさんの愛情あふれる親切なまち

になるといいなと思います。

「今の私が出来る事」

福島市立飯野中学校

黒 澤 花 凜

あの出来事は今も忘れる事が出来ません。いつもと変わらぬ日常、私は教室で皆と授業を受けていました。そんな日常を壊す様に突然襲って来た大きな揺れ。今、何が起きているのか分からない恐怖で泣いている友達。お湯がこぼれ、物が落ち、私も今の状況が分からないまま安全な場所へ避難しました。東日本大震災の時、私はまだ、小学校一年生でした。電気が止まり、水道も止まり、とても不自由な生活を送りました。その生活は三日間。たった三日なのに、水や電気が止まった生活は、とても苦痛でした。その日の夜はとても寒く家族皆で寝ました。私はその時、この生活がいつまで続くのか、不安でした。ですが、その一方で皆で協力し合い家族の暖かさを感じることが出来ました。そして、今の私に何が出来るかを考える機会を作ることが出来まし

た。今の私に出来る事は、やはり水と電気を大切に使う事です。東日本大震災を経験して今まで使えるのが、当たり前だと思っていたものが急に使えなくなり、水、電気の有り難さが身を以て知ることが出来ました。

地震の時に、親戚の人や、近所の方が水を分けてくれたり、お風呂に入りたい時は家に来てもいいよと言ってくれました。私の住んでいる町は皆、とても親切で優しい人ばかりです。お互いに助け合い、声をかけ合いました。これからも、困った人や悲しんでいる人がいたら、自分から積極的に親切にしたいと思いました。この事をあたり前に出来る人間になりたいです。

東日本大震災で被災した人達が一日も早く復興出来る様に、まず私達一人一人が物を大切にし、節電する事をこれから心がけたいです。福島が「親切で愛情あふれるまち」になって欲しいです。これからの福島が沢山の笑顔であふれると思います。明るく輝く未来を心から願っています。

「福島市をより良くするために」

福島市立飯野中学校

菅野 実沙季

私の町では、ごみ出しのルールを守らない人がいます。ごみ収集車のこない時でも、生ごみや、燃えるごみを置いていく人がいます。そのごみを、カラスがつつき、ごみを散らかしていつてしまいます。自然がすごく豊かなのに、なぜ自然をごみでよごしているのでしょうか。また、自分で町をよごして平気でいられるのか、私にはまったく分かりません。奉仕活動をする人のことを少しは考えてほしいです。そのためには、はり紙をかいったり、よびかけたりして少しずつ少しずつかいぜんしていけばいいと思います。そして、人間にも、動物にも住みやすく、環境に良い地域にしたいです。また、自然が美しいきれいな福島県になってほしいなと思います。しかしこのままでは、福島県の空気が、ごみで汚れてしまいます。環境に悪く、人や動物が住みにくくなって

しまいます。最初は少ない人数でいいので、よびかけなどに取り組めば、他の人がまねをして、みんなできれいな町づくりをしたいと私はそう思っています。

私はもう一つ困っていることがあります。それは、子供が宿題をせず、ゲームをやり、夜遅くまで起きていることです。夜遅くまで起きていると、次の日だるくなったり、授業に集中できなくなつて、一日元気が出ません。その原因は、ゲームのやり過ぎと、寝不足です。ゲームをやるなどはいいませんが、ゲームは宿題が終わつてからやればいいと思います。そして、家族と相談して、何時間やつてもいいということを決めれば、一つめの原因のゲームをやり過ぎることはなくなると思います。そして二つめの原因、寝不足は、その日のやることをやって、決められた時間までには、きちんと寝ればいいと思います。またゲームも、寝る時も、時間がたったら家族でよびかけをして、授業にも、運動にも集中できるように私は心からそう願っています。それに、なによりも元気で、笑顔がいっぱいの福島市になってほしいです。

「明るい笑顔のまち」

福島市立飯野中学校

河野 真悟

僕は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」について興味を持ちました。そのようなまちをつくるには、どのようにすればよいかを考えました。そこで僕が思ったことは福島の人々全員が仲良く、全員が一つにならなければならないと思いました。僕も小学生の時に、同じように思った時もありました。一つの学級が、どうすればまとまりのある学級になるのかを自分たちで決める授業もありました。こういうことは、未来の福島にとっても影響することだと思います。

次に考えたことは、まちの人たちが集まって活動すればよりよく愛情あふれるまちがつかれると思いました。なぜなら、東日本大震災など福島の人たちの笑顔がうばったとてもひどい災害がありました。今もその時の苦しみが残っている人もたくさん

います。そのため、このような、みんなとふれあえる活動をすれば、福島に笑顔が戻ると考えました。

また、親切なまちにするには一人一人がやさしく助け合いの気持ちを持つとよいと思います。そういうことが一人一人できると、苦しんでいる人をはげまし合うことができます。ぼくは、テレビなどでもみんながはげまし合っている場面をみたことがあります。僕も実際体験したことがあります。この時から僕も他の人たちに親切にしないといけないと思いました。

それからこの「親切で愛情あふれるまちづくり」というテーマから二つ学んだことがあります。一つ目は、親切な気持ちを持つことが大切だということです。一人一人が親切な気持ちを持つことにより、他の人のためにもなるということを学びました。二つ目は親切で愛情あふれるまちをつつていくには、自分たちの愛情がまちを少しづつつくっていくのだと学び、そのことは、これからにもつながっていくことだと思いました。小学生の時は、まちづくりなどあまり考えなかったが、中学生になってから

は、まちづくりのことも考え、少し社会の中に入ってきたんだと思いました。

最後に、僕が思ったことはまちづくりに必要なことは、一人一人の親切と愛情でありたっているのだと思いました。

「親切なまちづくり」

福島市立飯野中学校

大河内 創 太

実は僕は、今回この作文を書くことになるまで、福島市民憲章というものを耳にしたことはあっても、それほど詳しくは知りませんでした。

しかし、今回この作文を書くにあたって、福島市民憲章を知り、触れ合う機会ができたので、いつでも言えるように市民憲章を覚えたいと思います。

僕が今回初めて見た福島市民憲章の中で、一番望んでいる市民憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」と「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」です。

その理由は、このあいだ福島市内のところコンビニエンスストアへ行ったとき、買う物を持ってレジの前へ並びました。そして、僕の番になりました。すると、いきなりレジの台の上へ小銭が置かれました。び

っくりして小銭を置いた人物を見ると、

「この新聞買うからそれをお願いします。」

と言って店を出ていきました。するとレジのおじさんが、

「ごめんね。子どもだつて並んで順番待ってられるのにね。大人のくせに順番も待てられないなんてね。本当に困るよね。」と言いました。僕も本当にそう思います。新聞を買うのは良いけれど、もし僕のうしろに友人がいきなり熱中症になつて早く水を飲ませないと大変だという人がいたらそれで友人の命が助からないかもしれない。大人だつたらいろんなケースを考えて身勝手な行動をつつしんでほしいと思います。これが一つ目に挙げた望ましい市民憲章の理由です。

二つ目に挙げた市民憲章の理由は、最近よくテロなどのニュースが話題になつていきます。

ですが、少し前は（今は少ししかテレビなどで報道されていないけれど）交通事故などのニュースが報道されていました。福島市でも少なからず交通事故は起きていると思います。

運転する側も歩行する側も交通ルールをしつかり守り、気を付けてほしいと思います。

これが二つ目に挙げた望ましい市民憲章の理です。

僕が望ましいと思った市民憲章はどちらも思いやりが大切です。僕を含めた市民全員が思いやりを持ち、市民憲章を胸に刻んでほしいと思います。

「日常の中の『親切』」

福島市立飯野中学校

佐藤 楓華

私は今まで「福島市民憲章」というものがあることを知りませんでした。けれども、よく考えてみるとそれらにあてはまることを何度も見かけて、さらには体験していたことに気付きました。

私が一番身近に感じた市民憲章は、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。

私の祖母は山から転落したため、左半身がまひして不自由になってしまいました。今は母の兄夫婦の家で暮らしていますが、たまに一緒にでかけることがあります。

今年、祖母と母と私と妹で美術館へ行きました。有名な画家さんの展覧会だったため、すごく混んでいて駐車場もあまり空いていませんでした。私も妹も待ちくたびれていた時、お母さんが何かを思い出したように、「おばあちゃん車いすのやつ持って

来てないの。」と聞きました。私はそれが身障者マークのことだと分かりましたが、妹は知らなかったようでお母さんに「何それ。」と聞いていました。

お母さんは、「おばあちゃんみたいに体が不自由な人が別の駐車場を使っているですよ。というカードみたいな物だよ。」と説明していました。

これらの他にも、美術館でチケットを買う時に障害者手帳というものを見せていました。それを見せることで割引になるそうです。

また、車いす専用のトイレなどについているドアを開けるボタンもおばあちゃんはすごく助かると言っていました。トイレからでる時にまだおばあさん達がトイレに入っていると自分でドアを開けるのが大変なのだそうです。

今あげた例の他にエレベーターや自動ドアなど日常生活でよく目にするものや使っているものが実は障害者の方にはすごく役立っています。

街の中で見かける「便利」が、「親切」にもなっているんだと改めて実感しまし

た。

これからもたくさんの「親切」を見つけ、自分でも日ごろからたくさんの人に「親切」の心を持って接していきたいです。

「地域の人の優しさ」

福島市立飯野中学校

佐藤 綾花

私は、中学校から家まで毎日歩いて帰ります。ある日私は、かばんが重いし、部活で疲れたし、友達とケンカしたしで、イライラしていました。そして一人でぶつぶつ言いながら歩いていました。その時です。

「おかえり。」

おばあちゃんが声をかけてくれました。私は、

「ただいまです。」

と返事を返しました。するとおばあちゃんが、

「今帰るかい？大変だったねえ。かばんも重そうだし。気を付けて帰るんだよ。お疲れさま。」

と、笑ってくれました。私は、相手の気持ちを考えてくれるおばあさんがすごいなと思いました。また、そのおばあちゃんが声をかけてくれたことで、うれしくて疲れ

がふきとびました。

次の日も、家に帰るために歩いていると、あのおばあちゃんではないですが、

「おかえり。」

「お疲れさま。」

「大丈夫？大変だねえ。」

「おばんです。」

とたくさんの方が声をかけてくれました。あのおばあちゃんや地域の人は、何も思わずにしてくれたのかもしれないのですが、私にとってはすごくうれしかったです。飯野の人はあいさつをたくさんしてくれるので、される側もする側も、うれしくなります。他の県に行った時、あいさつをしてくれたのは、ごくわずかな人だったので、あいさつをするというところは、飯野の人のよいところだと思います。だからこれから、「こんにちば。」「こんばんは。」はもちろん、「ありがとうございます。」「すみませんでした。」「いただきます。」など、自分の気持ちを表す言葉を、はずかしがらずに言うといいと思います。そうすることで、飯野町は、もっと地域の人の愛があふれる町になるんじゃないでしょうか。

「私の住む町」

福島市立飯野中学校

岡崎

葵

私の住む飯野町は、福島市民憲章が活かされていると思います。

まず、一つ目は、一、親切で愛情あふれるまちをつくりましょうです。

私は、自分から声をかけたりすることが苦手でした。町を歩いていて人とすれ違う時に、友達といっしょにいと、あいさつできましたが、一人になるとなかなか声が出なくて、相手にあいさつされてから、やっと声を出せました。でも、町の人にあいさつをされると、自分から言えなかったのに、「おはよう」などと声をかけてもらえて、とても嬉しくなって、あいさつは大切だということを感じました。それから、勇気を出して自分からあいさつをするように心がけました。今でも、あいさつを返してもらえることが嬉しいです。このことから、私にあいさつをする勇気をくれる、優

しい人達がたくさんいる、親切で愛情あふれるまちだと思います。

二つ目は、一、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょうです。

小学生の登下校の時間に、通学路の横断歩道に立ち、安全にわたる事ができるようにしてくれている町の人がいます。私も小学生の時に、「おかえり」などと声をかけながら横断歩道に立って、安全にわたらせてもらいました。

他にも、イベントによつては、車が通れないように車道が封鎖されている場所に立って、車を誘導してくれる人がいます。町の人同士で協力し合って町の安全を守っているから、みんなが安心して暮らしているんだと思いました。

このことから、町の人が安心して暮らしているのは、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちだからだと思います。

私も、大人になったら飯野町で、町の人達が喜ぶような事をしてあげられるようにしたいです。そして、今よりも、より良い町にしていきたいです。

「私の経験」

福島市立飯野中学校

齋藤綾菜

福島市民憲章について私が経験したことは、私が小学生の時に、いつも登校・下校をする時に見守ってくれた見守り隊の人達です。

私が一年生の時は、見守り隊はなかったのですが、東日本大震災がおきてから子供達だけで登校、下校するのが危ないので見守り隊というおじいさん達が毎日、私達を交通事故にあわないように登校・下校の時に毎日見守ってくれていました。私は、見守り隊の人達にとっても感謝しています。

私が小学校を卒業するまで事故にあわなかったのも見守り隊の人達がいてくれたからだと思います。

私が小学校を卒業して中学生になった今でも見守り隊の人達は、小学生を事故にあわせないように、毎日温かく見守ってくださっているのも私に事故にあわないように

気をつけようと思いました。

次に、私が経験してうれしかったことは、私が道路の信号をわたる時に、車が止まってくれたことです。

私が中学生になって飯野中に通うのに二キロメートル以上あるので自転車で通学するようにしました。

私が通学する所は、車がたくさん通るので気をつけて登校していました。

私がいつも通りに登校していて信号をわたろうと思いましたが車が何台もあったので私は、わたれないかなあとと思って次の信号でわたろうと思った時に一台の車が止まってくれました。

私が信号をわたって後ろを向いて止まってくれた運転手さんにおじぎをしました。その運転手さんもおじぎをしてくれました。

私は、その運転手さんにとっても感謝しています。

私もあの運転手さんみたいに信号をわたれない子がいたら止まってあげたいと思いました。

最後に、私が経験して学んだことは、あ

いさつをすることです。

私は、小学校の低学年のころはずかしくてなかなか知らない人とあいさつができませんでした。

私は、もししたら知らない人でもあいさつができるのかなあと思い、親に聞きました。

すると親は、あいさつをすると気持ちがよくすがすがしいと言っていました。

そんなに気持ちよくあいさつをするとすがすがしいのかなあと思って私は、知らない人とあいさつをしてみようと思いました。

私は、道を歩いていた人に元気よくあいさつをしました。すると私がいさつをした人は、笑顔で元気よくあいさつをしてくれました。

このような経験から私は、親切で愛情あふれる町を作っていけばいいと思いました。

「環境と資源」

福島大学附属中学校

菅 野 佑一朗

今、環境や資源の問題がおきています。

福島市は、水や空がきれいで自然が整っていても生活に良い環境ですが、二酸化炭素の排出がこのままつづいたりしてしまふと二度とこの自然を戻せなくなってしまうので、市民で協力して美しい自然を守る取り組みや資源の大切さを知って考えられるような町にしたいです。

僕は、いつもの生活で、電気などのエネルギーがなくなった時の事を考えると、あたり前に出来た事が出来なくなるので、困った事になると思います。

僕たちにとって、電気のない生活は、考えられません。

電気を作るのは、今まで、水力、火力、原子力そして、それ以外の自然の力を利用した発電所があります。

この中で、火力と原子力は、空も水もき

れいな自然を守ってゆく事がむずかしいと思います。

また水力発電は、これから作る場所は、あまりないと思います。

僕がこれからの電気を作るためにいい方法だと思っているのは、福島市の土湯温泉にある、土湯バイナリー発電所と、同じく土湯温泉にある、東鴨川水力発電所だと思います。

バイナリー発電は、温泉の熱を利用して発電する機械なので、自然を守って発電する事ができます。

また東鴨川水力発電所は、砂防ダムから水を引いて発電するため、大きなダムや大きな川でなくとも、発電ができるしくみです。

福島市内には、川や温泉はたくさんあります。

僕は、福島市のエネルギーは、東鴨川水力発電所のような小さな川でも発電できる発電所と、バイナリー発電所のように温泉を利用して発電する発電所をたくさん作れば、自然環境を破壊せず、安全に電気を作ることができると思います。

八月の始めに、土湯温泉に行き、バイナリー発電所と東鴨川発電所を見に行ったのですが、バイナリー発電所は、出入がむずかしい所なので、見学する事はできず、水力発電所だけ見て来ました。

水力発電所は、砂防ダムの所にあり、あまり大きなダムでは、なかったもので、これなら小さな川でも作れると思いました。

今回は、バイナリー発電所に行けなかったで、いつか絶対に行きたいと思います。水力発電所とバイナリー発電所がたくさん作られれば、福島市内も自然をこわさないで電気をたくさん作り、もっと良い町になると思いました。

「福島市民憲章」

桜の聖母学院中学校

高橋 花衣

キッチンは何気なく見ると、私が小学校四年生の一学期に書いた「一学期の反省と夏休みの計画」という作文が張りっぱなしになっていました。読んでみると、新学年にあたり母と約束したことやそれが達成できておらず反省しなければならぬこと、また、二学期からミニバスケットボールのスポーツ少年団に入団するために、両親と「入団をする条件として、勉強もがんばること。自分がしたいことをするには、今やらなければならないこともしつかりやること。」と約束したことなどが書いてありました。そういえば小学校の時から漢字が苦手、特に三年生くらいからぐっと増えた漢字がなかなか覚えられず苦労をしていました。四年生ではその失敗を基に、新しい漢字はその日の内に覚えるように目標を立てました。五年生の目標は忘れてしまった

けれど、六年生の時は、中学生になって困らないように夏休みなど長期の休みは計画的に進めること、時に宿題は親に声をかけられなくても自分で進めるようにすると目標を立てました。結局休み最後のほうには母にチェックされたけれど、前半は順調に進めることができていたと思います。そういえば、その時々によつて私は両親と様々な約束をしてきました。そしてその約束を達成するために過ごしてきたと思います。達成できたかどうかは別にしてなんとなくがんばっていたと思います。

ですが今の私は、自主学習もせずに遊ぶほうに気を取られ、成績が伸びません。ですがこれからは勉強に目を向け、遊ぶ時間を減らし成績を伸ばすようにがんばりたいです。

改めて福島市民憲章を読みました。憲章は五つの条文からなっていて、どれもみんなにわかる簡単な言葉で書いてあります。それぞれ生活していくために必要なことばかりだと思いました。そして、福島に住むひとりひとりが達成するべき目標なのではないかとも考えました。

自分の目標を達成できるように憲章に書いていることを自然にできるようにできれば良いと思います。

この憲章ができて四十年以上たつていて両親が教えてくれました。そんなに長い間引き継がれている憲章を私たちも後輩たちにも引き継いでいきたいと思っています。それが憲章に書いてある言葉通りに引き継ぐことができたならこんなに最高なことはいと思います。

「笑顔溢れる福島」

福島成蹊中学校

鈴木 健一郎

私は、福島のきれいな自然の風景やまちなみが大好きです。季節ごとに咲く花々や晴れた日の星空など、眺めているととても心がやすらぎます。だからこの大好きな福島の自然の風景やまちなみなどが汚くなっていくのはいやだなと思います。そこで私は、身の回りの生活環境が損なわれていく理由について考えてみると、二つありました。

一つは、五年半前に起きた「東日本大震災」です。震災による家屋の倒壊や自然破壊は、当時小学一年生だった私にとっては、とてもショックで信じられない出来事でした。

もう一つは、社会のきまりを守らない人達の心無い行動です。例えば、ゴミやタバコのポイ捨てや、川の水を汚すなど、生活していく中でついついやってしまう良くな

い行動があります。これらは、私達一人一人がきまりを守り気を付ければ、防げる事だと思っています。

今回初めて「福島市民憲章」という言葉を知りましたが、これは、私達が住むこの福島をよりすばらしいまちにするために、市民全員が理解を深め生活に生かしていけば、子供からお年寄りまで笑顔で安全に暮らせるまち作りが出来るとも良い考えだと思いました。

震災以降、さまざまな風評被害や暮らしにくい事もありましたが、私達は自然を守り、何事にも思いやりを持ち、福島は最高に住みやすいまちだと胸を張って言えるように、みなで力を合わせて生きていきたいと思っています。いつか私達が大人になった時、次の世代の子供達が誇りに思えるような、そんな福島にしていきたいです。

「思いやりの気持ち」

福島成蹊中学校

高橋 舞

私は、福島市をよりよくしていくために
行われている「福島市民憲章」のことを知
りませんでした。快適で明るく住みやす
いまちにしていきたいには、人々の思いが
あるからこそ住みやすいまちになっていく
と思います。

そこで、私も快適で住みやすいまちにし
ていくために私にできることはなんだろう
と考えました。みなさんも、朝あつた時、
感謝する時、謝る時などに、

「おはよう」

「ありがとう」

「ごめんなさい」

と挨拶すると思います。私は、挨拶とい
うことを大切にしていくことが、まちが
明るくなることにつながるのではないかと
考えました。

挨拶とは、あたりまえかもしれませんが、

そのあたりまえをすることで人々への思い
やりということが増えると思います。

そこで、思いやりとは、何でしょうか。

私は、思いやりということはお年寄りに席
をゆずるということだけではないと思いま
す。私達一人ひとりが何かのために精一杯
やりとげることも思いやりではないでしょ
うか。

「親切で愛情あふれるまち」という項目
で、親切って何だろう。愛情って何だろ
うと考えました。

三月十一日に東日本大震災があり、体験
したことのない大きな地震でした。だれも
が、こわい思いをしていた時、同じ状況の
中人々がたがいを助け合っている姿に思
いやりがあると感じました。人々に思い
やりがあるからこそ、福島はこれからきつ
と快適で住みやすいまちになっていくと思
います。

私は、この「福島市民憲章」を書くあた
って私ができることは何かと考えることが
できました。

これからの福島が快適で住みやすいまち
になるために、思いやりの心をわすれず

行動していきたいです。

「私の夢」

福島成蹊中学校

藤 本 莉 緒

私には夢があります。それは、今の福島が震災前よりも、笑顔が溢れ、安心して暮らせるようになる事です。私は震災を小学一年生の時に体験しました。私自身も震災後に半年程度福島から離れ、避難生活を送っていました。福島に私は戻っても、クラスの方が避難していたり、転校していたりして、とても教室が広がった事は覚えていません。私は、強い地震があつて、放射線が出ると、友達が減るということを、小さいながらに学びました。

また、福島全体としても、震災後は、ニュースで福島が取り上げられると、放射線量が高い、がれき撤去作業に追われているなどとプラスではなくマイナスイメージの事しか放送されず福島は、どんどん危険な場所だと思われるようになりました。その報道の数と比例するように、クラスの友達

は、さらに県外に転校して行きました。二クラスだったのに、一クラスに変わったたりもしました。私は、地震の力はとても強いことを、改めて痛感しました。

だから私は、放射線を気にせずに震災前よりももっと、人も増え、子どもから、おとしよりまで安心して暮らせる福島になってほしいです。そして、県外から旅行に来て下さった人達に、「福島は温ったかいね」と言ってもらえるようになってほしいです。だから私は、「福島市民憲章」にもあるように、空も水もきれいでみどりの空気がきれいな町にすること、「福島市民憲章」を市民全員が頭の中に入れて生活することが大事だと思います。そうすれば、市民憲章の中にもある、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちを作ることができると思います。私も、今回初めて市民憲章があることを知ったので、すっかり頭の中に入れようと思います。そして、私は、いつか、市民憲章が、全て達成できて、世界一すばらしい福島市をこの目で見たいです。